

2025年度 観光ビジネス学科 シラバス

■ 目次

1. 学修成果(到達目標)	4
2. 教育課程(カリキュラムマップ)	5
3. カリキュラムツリー	6
4. 1年生 年間予定表	8
5. 1年生 シラバス	11

開講科目	頁	開講科目	頁
日本語表現法	11	ブライダルビジネス実務	31
英語 I	12	秘書実務	32
コミュニケーション論	13	旅行業法	33
情報処理	14	旅行業約款	34
数理リテラシー	15	国内運賃・旅費計算	35
経営学入門	16	旅行業務演習	36
マーケティング	17	旅程管理	37
観光概論	18	韓国語会話 I	38
観光ビジネス論	19	英会話基礎	39
国内観光地理	20	英会話応用	40
実践文章作成演習	21	観光英語	41
フィールドワーク概論	22	TOEIC演習	42
英語 II	23	観光インターンシップ	43
ビジネスマナー	24	海外研修	44
情報機器演習	25	基礎キャリア形成ゼミ	45
エアラインビジネス実務	26	実践キャリア形成ゼミ	46
エアラインサービス	27	初年次ゼミ	47
鉄道ビジネス実務	28	観光研修 I	48
宿泊ビジネス実務	29	観光ゼミ I	49
ホテル・ブライダルサービス	30		

6. 2年生年間予定表	56
7. 2年生 シラバス	59

開講科目	頁	開講科目	頁
東北学	59	国内観光資源	72
歴史と文化	60	海外観光地理	73
法律入門	61	東南アジアの言語と文化	74
現代の社会	62	韓国語会話 II	75
国際観光論	63	中国語会話 I	76
観光史と観光文化	64	中国語会話 II	77
金融リテラシー入門	65	フランス語会話	78
観光ビジネス英会話	66	おもてなし英語	79
旅行ビジネス実務	67	観光英語ガイド基礎	80
ホテル経営	68	観光研修 II	81
ウェディングブライダル演習	69	観光ゼミ II	82
旅と文学	70	観光ゼミ III	87
テーマパークビジネス	71		

8. ナンバリング	94
9. 学科教員一覧	97
10. オフィスアワー	97
11. 成績評価	97
12. 実務経験を有する教員の一覧	98

観光ビジネス学科 1 年生 (2025 年度入学生)

- 学修成果（到達目標）
- 教育課程（カリキュラムマップ）
- カリキュラムツリー

学修成果（到達目標）

1【基礎力】一般教養並びに各専門分野の基礎的能力

広い視野を持ち，深い知識と技能を修得し，観光ビジネスの現場で活かすことができる。

- ①総合的な判断力の基礎を養うことができる。
- ②多角的な視野から物事を思考し，本質を見極め，問題解決に取り組むことができる。

2【実践力】各分野の実際の場面に対応できる力

複雑化する現代社会において，豊かな教養を身につけ，職業人として多角的に物事を見つめることができる。

- ①基本的なビジネスマナーを身につけ観光ビジネスの現場で実践することができる。
- ②収集した情報を状況に応じて適切に判断し，活用することができる。

3【人間関係力】専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力

豊かなコミュニケーション能力を身に付け，職業人として自己の能力を発揮することができる。

- ①積極的かつ意図的にコミュニケーションを作りだすことができる。
- ②他者の考えや立場を理解し，自分の意見を述べることができる。

4【生涯学習力】生涯にわたって学び，成長できる力

継続してキャリアを積むことにより，さらなる業務遂行能力をはじめとする人間的成長ができる。

- ①生涯にわたって，課題を発見し，解決する力を身につける。
- ②時代の変化に応じ，生涯を通じて自分のキャリアを形成していくことができる。

5【地域理解力】地域・文化の多様性を理解し，地域に貢献できる力

職業人として地域社会の活性化に貢献することができる。

- ①職業や勤労に対する理解を深め，地域で意欲的に働くことができる。
- ②地域での活動に積極的に参加し，役割に即した活動の成果をあげることができる。
- ③東北地方の歴史，文化，社会，経済，観光資源について理解し，地域社会に貢献することができる。

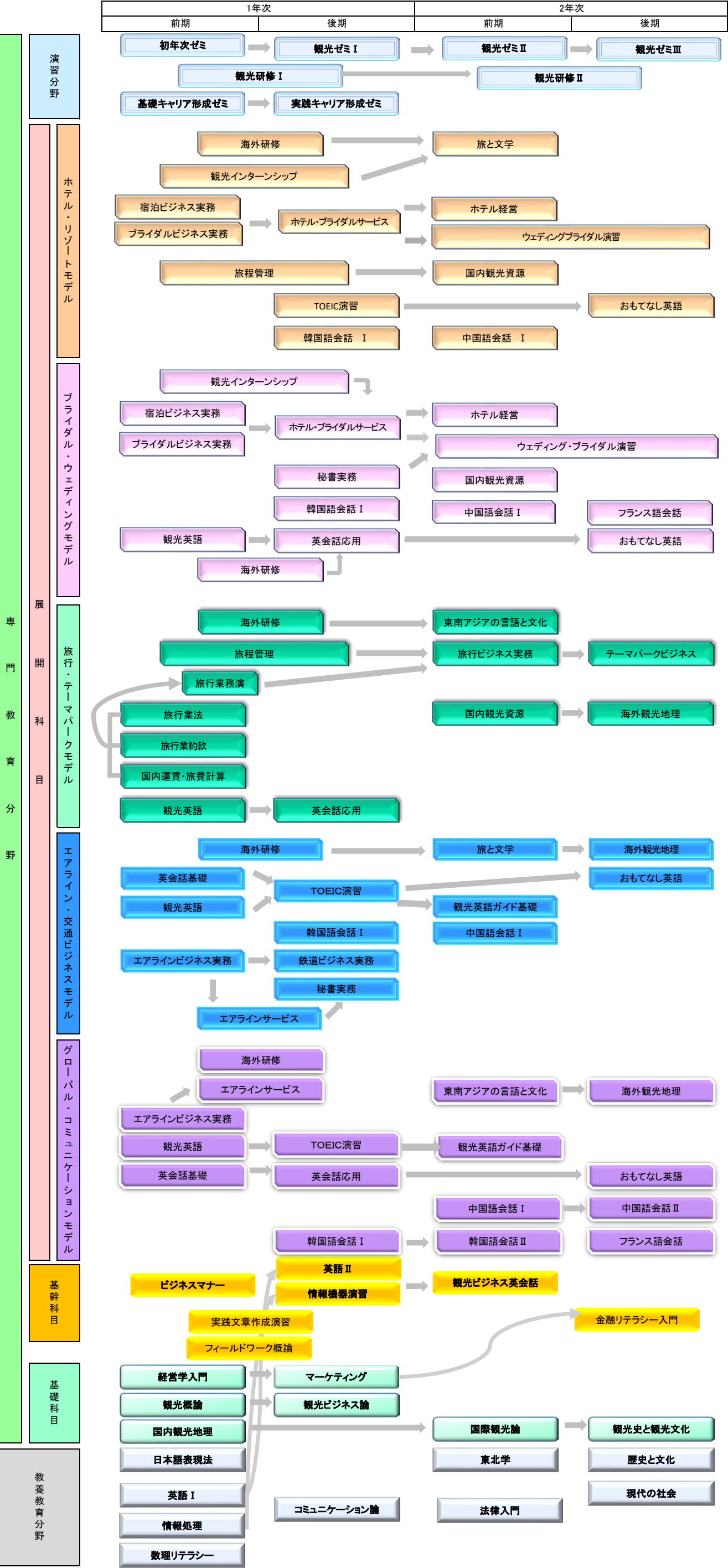
凡例

科目名太字

必修科目

科目名細字

選択科目



観光ビジネス学科 1 年生 (2025 年度入学生)

- 年間予定表
- シラバス

2025年度 観光ビジネス学科1年生 年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月					1		2		3	入学式	4	オリエンテーション	5	
	6		7	オリエンテーション	8	健康診断	9	1	10	1	11	1	12	
	13		14	1	15	1	16	2	17	2	18	2	19	
	20		21	2	22	2	23	3	24	3	25	3	26	
	27		28	3	29		30	4	1	4	2	4	3	
5月	4		5		6		7	5	8	5	9	5	10	
	11		12	4	13	3	14	6	15	6	16	6	17	
	18		19	5	20	4	21	7	22	7	23	7	24	
	25		26	6	27	5	28	8	29	8	30	8	31	
6月	1		2	7	3	6	4	9	5	9	6	9	7	
	8		9	8	10	7	11	10	12	10	13	10	14	
	15		16	9	17	8	18	11	19	11	20	11	21	
	22		23	10	24	9	25	12	26	12	27	12	28	
	29		30	11	1	10	2	13	3	13	4	13	5	
7月	6		7	12	8	11	9	14	10	14	11	14	12	
	13		14	13	15	12	16	15	17	15	18	15	19	
	20		21		22	13	23	月14	24	火14	25	予備日	26	
	27		28	月15	29	火15	30	定期試験	31	定期試験	1	定期試験	2	
8月	3		4	定期試験	5		6		7		8	不合格発表	9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18	集中講義	19	集中講義	20	集中講義	21	集中講義	22	集中講義	23	
	24		25	集中講義	26	集中講義	27	集中講義	28	集中講義	29	集中講義	30	
	31		1	再試験	2		3		4		5		6	
9月	7		8		9	海外研修	10	海外研修	11	海外研修	12	海外研修	13	海外研修
	14	海外研修	15		16	集中講義	17	集中講義	18	集中講義	19	集中講義	20	
	21		22		23		24		25		26	後期オリエンテーション	27	
	28		29	1	30	1								

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度 観光ビジネス学科1年生 年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
10月							1	1	2	1	3	1	4	
	5		6	2	7	2	8	2	9	2	10	2	11	
	12		13		14	3	15	3	16	3	17	3	18	
	19		20	3	21	4	22	4	23	4	24	せいやう祭 準備	25	せいやう祭
	26		27	4	28	5	29	5	30	5	31	4	1	
11月	2		3		4	6	5	6	6	6	7	学科交流会	8	
	9		10	5	11	7	12	7	13	7	14	5	15	
	16		17	6	18	8	19	8	20	8	21	6	22	
	23		24		25	9	26	9	27	9	28	7	29	
	30		1	7	2	10	3	10	4	10	5	8	6	
12月	6		7	8	8	11	10	11	11	11	12	9	13	
	13		14	9	15	12	17	12	18	12	19	10	20	
	20		21	10	22	13	24	13	25	13	26		27	
	27		28		29		31		1		2		3	
1月	4		5	11	6	14	7	14	8	14	9	11	10	
	11		12		13	15	14	15	15	15	16	12	17	
	18		19	12	20	月13	21	金13	22	月14	23	金14	24	
	25		26	月15	27	金15	28	予備日	29	定期試験	30	定期試験	31	
2月	1		2	定期試験	3	定期試験	4		5		6		7	
	8		9	不合格発表	10		11		12		13	再試験	14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	
3月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9		10		11		12		13		14	
	15		16		17	卒業式	18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	
	29		30		31									

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CO-0-HCU-01				
	●		●							
科目名	日本語表現法				単位 認定者	徳田 幸雄		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。									
到達目標	・日常生活において、適切な言葉で表現・伝達できる力を身につける。 ・日本語の特徴を理解するとともに、正しい敬語表現を身につける。 ・目的に合わせた文章（文書）作成ができるようになる。									
学修者への期待等	日本語を知ることとは日本文化を知ることでもある。社会人のための教養という面だけではなく、自らの文化を再認識・再評価し、さらには自身のルーツを見つめ直す機会としてもらいたい。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス 世界から見た日本語の特徴					日本語と英語との相違を考えてみよう。（20分程度）				
2	日本語の歴史					前回のチェック・テストの復習。（20分程度）				
3	ことばと表現①（熟語、語句）					前回のチェック・テストの復習。（20分程度）				
4	ことばと表現②（ことわざ、故事成語）					前回のチェック・テストの復習。（20分程度）				
5	敬語表現①（敬語の基本）					前回のチェック・テストの復習。（20分程度）				
6	敬語表現②（尊敬語と謙譲語）					前回のチェック・テストの復習。（20分程度）				
7	話してみよう①（インタビューとショートスピーチ）					前回のチェック・テストの復習。（20分程度）				
8	話してみよう②（グループディスカッション）					前回のチェック・テストの復習。（20分程度）				
9	修飾語と被修飾語との関係①（原則論）					前回のチェック・テストの復習。（20分程度）				
10	修飾語と被修飾語との関係②（練習問題）					前回のチェック・テストの復習。（20分程度）				
11	句読点の打ち方（原則論）					前回のチェック・テストの復習。（20分程度）				
12	句読点を打つ練習と文章要約（境界の点）					前回のチェック・テストの復習。（20分程度）				
13	句読点を打つ練習と文章要約（逆転の点）					前回のチェック・テストの復習。（20分程度）				
14	意見文の書き方（4 STEPS）					前回のチェック・テストの復習。（20分程度）				
15	意見文の作成と句読点を打つ練習									
教科書	プリントを配布する。									
参考文献	「日本語の作文技術（朝日文庫）」本多勝一著、朝日新聞出版 「大学生のための日本語表現実践ノート」米田明美他著、風間書房									
備考	授業内課題については、次回講義でフィードバックを行う。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CO-0-HCU-02					
	●										
科目名	英語 I					単位 認定者	吉野 千乃		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位	授業内課題		20 %	
						授業時間数	30 時間	受講態度		20 %	
				授業形態	演習	授業回数	15 回				
授業の概要	日常会話で頻繁に用いられる基本表現を「話し」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を修得する。また、当該専門職として必要となる語彙や基本表現も身につける。										
到達目標	私たちの日常でよく用いられる英語表現を習得し、平易な英語で基本的なコミュニケーションがとれるようになる。また、海外旅行を中心とした観光に関する英語表現について学び、希望の進路を実現するための力を身につける。										
学修者への期待等	授業にはテキスト、辞書を持参すること。授業前には該当箇所の音声ダウンロードし、予習を行うこと。 各回に行うペアワーク、会話練習やロールプレイに積極的な姿勢で臨むこと。										
回	授業計画					準備学修					
1	英語 I の授業の進め方について/事前学修・事後学修の方法					シラバス記載の内容を確認しておく(概ね20分)。					
2	Unit 1 At the airport-1 語彙と内容理解					Unit 1 のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
3	Unit 1 At the airport-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz					前回到学修した語彙、表現を復習する(概ね50分)。					
4	Unit 2 On the plane-1 語彙と内容理解					Unit 2のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
5	Unit 2 On the plane-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz					前回到学修した語彙、表現を復習する(概ね50分)。					
6	Unit 3 Arrival-1 語彙と内容理解					Unit 3 のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
7	Unit 3 Arrival-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz					前回到学修した語彙、表現を復習する(概ね50分)。					
8	Unit 4 Checking in at the hotel-1 語彙と内容理解					Unit 4のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
9	Unit 4 Checking in at the hotel-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz					前回到学修した語彙、表現を復習する(概ね50分)。					
10	Unit 5 Getting information and sightseeing-1 語彙と内容理解					Unit 5 のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
11	Unit 5 Getting information and sightseeing-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz					前回到学修した語彙、表現を復習する(概ね50分)。					
12	Unit 6 Ordering fast food-1 語彙と内容理解					Unit 6 のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
13	Unit 6 Ordering fast food-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz					前回到学修した語彙、表現を復習する(概ね50分)。					
14	Unit 7 Going to the theater-1 語彙と内容理解					Unit 7 のVocabularyを予習する(概ね30分)。 音声をダウンロードし、発音を確認する(概ね20分)。					
15	Unit 7 Going to the theater-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ, Quiz					前回到学修した語彙、表現を復習する(概ね50分)。					
教科書	Takeuchi, M., Nakai, N., & Sugawara, C. (2015). <i>Enjoy Your Trip! English you need abroad</i> . Nan'un-do.										
参考文献	資料は随時UNIPAより配信する。										
備考	・毎時に授業への疑問などをUNIPAにReactionとして提出してもらい、次回にフィードバックを行う。 ・履修者の状況によって進度や順番に変更が生じる場合がある。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-0-HSO-01				
	●		●							
科目名	コミュニケーション論				単位認定者	佐藤 和美		評価の方法	授業内課題等	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	コミュニケーションは、対人関係を構築していくために重要な社会的行為であるが、現代社会においては、コミュニケーションの取り方が大きく変化し、また複雑になっている。本科目においては、コミュニケーションの基礎的な理論について社会学的な視点から考察し、対人スキルの向上へと結びつくコミュニケーションの在り方について理解することを目的とする。									
到達目標	現代のコミュニケーションの特徴を理論的に捉えたうえで、現代人が人間関係を円滑に構築していくためのコミュニケーションスキルについて考察し、活用できるようになる。									
学修者への期待等	授業では社会に出てから必要になるビジネスコミュニケーションも念頭に置いての講義となるが、学生同士の日常生活でもその考え方やスキルを応用して、より良い人間関係の構築に役立てて欲しい。									
回	授業計画					準備学修				
1	コミュニケーションとはなにか					【事後】配布資料を参考に授業の指示に従い重要事項についてまとめる（2時間程度）				
2	安心・安全な場の創作のためのコミュニケーション～組織やチームを停滞させるコミュニケーション」とは					【事後】2回目授業内容について、日常生活や時事的事象で観察し記録する（2時間程度）				
3	関係性を創作する聴き方①～友人，家族，ストレス緩和(授業の一部でグループワークを実施)					【事後】日常のコミュニケーションを観察し，3回目授業内容を実践的に活用し，その結果を振り返る(2時間程度)				
4	関係性を創作する聴き方②～顧客，上司，ビジネス編(授業の一部でグループワークを実施)					【事後】日常のコミュニケーションを観察し，4回目授業内容を実践的に活用し，その結果を振り返る(2時間程度)				
5	自分も相手も大切に伝える伝え方(授業の一部でペアワークを実施)					【事後】5回目授業時の配布資料を参考に課題に取り組む（2時間程度）				
6	インテンショナルメッセージ①～メッセージの創作(授業の一部でペアワークを実施)					【事後】6回目授業資料を復習し資料内の設問に取り組む(2時間程度)				
7	インテンショナルメッセージ②～主体的な行動を導く，アサーションの包含(授業の一部でペアワークを実施)					【事後】7回目授業内容について実践し，その結果を記録する(2時間程度)				
8	上司とのコミュニケーション～報告，模擬会議，アジェンダ作成(授業の一部でグループワークを実施)					【事後】8回目授業資料をもとにした復習・記録の作成(2時間程度)				
9	チームで働く～チームに必要なコミュニケーション(授業の一部でディスカッションを実施)					【事後】9回目授業資料をもとにした復習・チームで取り組んだ体験の考察と記録(2時間程度)				
10	ビジネスコミュニケーション関連テストと解説					【事後】解説を振り返り，配布した問題を解答する（2時間程度）				
11	自己とコミュニケーション～コンフォートゾーンバイアスの理解					【事後】11回目授業資料復習と資料内设問への取り組み(2時間程度)				
12	世代別コミュニケーション～心身の変化の理解と適切な対応について(授業の一部でロールプレイを実施)					【事後】12回目授業資料復習と資料内设問への取り組み(2時間程度)				
13	社会とのコミュニケーション～社会の中の一人として(授業の一部でディベート・グループワークを実施)					【事後】13回目授業資料復習と資料内设問への取り組み(2時間程度)				
14	メディアとコミュニケーション・異文化理解(授業の一部でディベート・グループワークを実施)					【事後】メディアとコミュニケーションについて整理しておく(2時間程度)				
15	情報化社会・コロナ禍がもたらした人間関係の変化					【事後】人間関係と社会の相関について考察する（2時間程度）				
教科書	特になし									
参考文献	「大学1年生からのコミュニケーション入門」 中村美香(著)，ナカニシヤ出版 「即戦力になるビジネスコミュニケーション第2版」 箱田忠昭(著)，日経BP社									
備考	受講者の理解度等により，講義の順番や重点の置き方を変えることがある。授業への疑問等については，次回以降授業にフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CO-0-HSC-01									
	●	●													
科目名	情報処理				単位 認定者	菅原 文彦		評価 の方法	試験（筆記）	50 %					
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	30 %					
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %					
				授業形態	演習	授業回数	15 回								
授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学修する。														
到達目標	コンピュータの基本操作を習得し、一般的な業務に通用するWord・Excel・PowerPointの操作スキルを身につけることを目標とする。 Word：基本的なビジネス文書の作成、表現効果を上げる表や画像を使用した文書の作成。 Excel：数式、グラフを含む表計算ソフトの基本操作と応用的な機能の習得。 PowerPoint：プレゼンテーションソフトの基本操作と目的に沿ったスライドの作成。														
学修者への期待等	コンピュータの基本的な操作技術とともに、利用上のマナーや注意点などを含むコンピューター・リテラシーを身につけることを目標にして欲しい。コンピューター操作経験者も基本事項の再確認や、これまで自己流で感覚的に行っていた部分を正確な知識・技能に高準化するのための見直しとして意欲的に臨むこと。また、操作がわからない者へのアドバイスや受講者間での相談等の協調によるスキルアップも大切にしていきたい。 欠席や遅刻をせず、1 回 1 回の授業に積極性を持って「参加」すること。														
回	授業計画					準備学修									
1	オリエンテーション ノートPCを使用する受講の事前準備、基本操作・注意事項確認 UNIPAからのデータダウンロード、課題アップロードについて等					次回までの予習：p 33～43Wordによる基本的な入力の確認		○予習について ・マウス操作、キー操作、タイピングに自信がない者は、継続的な練習を行う。特に入力操作が苦手な場合はローマ字入力のタイピング、基本的なマウス操作（テキストp6参照）の練習を行って授業に臨む（30分程度）。							
2	Word：文書の作成とファイルの保存、ページ設定、基本的な書式設定、印刷設定、編集操作、ビジネス文書の基本・・・①														
3	Word：文書の作成とファイルの保存、ページ設定、基本的な書式設定、印刷設定、編集操作、ビジネス文書の基本・・・②														
4	Word：表の作成・編集														
5	Word：画像や図形の活用														
6	Word：文書作成					次回までの予習：p 244～246プレゼンテーションの基礎知識の理解		・上記以外に指示された予習を次回までに行うこと。							
7	PowerPoint：プレゼンテーションの基本操作と作成														
8	PowerPoint：グラフ、SmartArt、アニメーション、表、画像														
9	PowerPoint：表や画像、ワードアートの活用、その他の機能														
10	Excel：Excelの基本操作、ブックの保存、入力、編集、計算式														
11	Excel：関数の基本、小数点に関わる関数と操作														
12	Excel：相対参照と絶対参照、比率と割合、罫線操作														
13	Excel：グラフ作成、さまざまな関数①														
14	Excel：さまざまな関数②、便利な機能														
15	Word, Excel, PowerPointの連携操作														
教科書	「30時間でマスター Office2021 Windows11対応」小田良次，実教出版														
参考文献	授業内容に応じて資料プリント配付（配布プリントはすべてファイリングすること。）														
備考	○アプリ操作性の向上と、授業課題の保存・移動のため、授業開始時までに各自次のものを準備してください。 全学科必須：USBメモリー（他の科目と共用可 ノートPCの仕様によりUSBポートがない場合はコネクタも必要） 私物PCによる授業を行う学科必須：私物ノートPC用マウス（情報処理室で授業の学科は任意） ○私物ノートPC使用の授業では事前に充電を済ませておくこと。（授業中に充電を行わない。） ○本科目は2クラスに分けて実施する。 ○授業への疑問等については、次回以降授業にフィードバックを行う。														

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-0-HSC-01					
	●	●									
科目名	数理リテラシー				単位 認定者	本田 俊夫		評価の方法	試験（筆記）	70	%
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30	%
						授業時間数	30 時間				
				授業形態	講義	授業回数	15 回				
授業の概要	職業生活においては、様々な数字に囲まれて仕事をするようになる。本科目では、筋道を立て、客観的に物事を考えることができることを目的とし、ビジネスだけでなく、日常生活のあらゆる場面で役立つ計算力やデータ、表やグラフなどを読み取る力を身につける。 キャリア形成に必要な不可欠な数学的、論理的な考え方を効果的に学ぶ。										
到達目標	数学の基礎・基本を身に付け、数式・表・グラフ等の活用を通して数学的処理の“良さ”を知ることにより、統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を身につける。										
学修者への期待等	日常でよく使う計算、算数・数学的な考え方とデータについての基本を習得するための科目です。授業前に準備学修を終わらせ、基本的な考え方を習得しておいてください。授業後は1時間程度の復習をし、考え方や処理が不明の箇所がある場合は積極的に質問してください。										
回	授業計画					準備学修					
1	分数や小数の計算・四則計算					テキストのテーマ5～7（分数や小数の計算・四則計算）を事前に終わらせておくこと（1時間程度）。					
2	割合・比の計算					テキストのテーマ9～10（割合・比の計算）を事前に終わらせておくこと（1時間程度）。					
3	和と差、割合に関する問題					授業内容をよく復習すること（概ね30分～1時間）。					
4	割合と百分率①～損益算					テキストのテーマ16（損益算）を事前に終わらせておくこと（1時間程度）。					
5	割合と百分率②～仕事算・濃度算					テキストのテーマ21（仕事算）、23（濃度算）を事前に終わらせておくこと（1時間程度）。					
6	速さ①～速さ・時間・距離、旅人算（相対速度の利用）					テキストのテーマ18（速さ・時間・距離、旅人算）を事前に終わらせておくこと（1時間程度）。					
7	速さ②～流水算・通過算					テキストのテーマ19（流水算）と20（通過算）を事前に終わらせておくこと（1時間程度）。					
8	連立方程式とつるかめ算、1次関数					テキストのテーマ24（連立方程式とつるかめ算、1次関数）を事前に終わらせておくこと（1時間程度）。					
9	数と集合（ベン図の活用）					テキストのテーマ25（集合（ベン図の活用））を事前に終わらせておくこと（1時間程度）。					
10	進数～2進数・8進数・16進数など					授業内容をよく復習すること（概ね30分～1時間）。					
11	平方根・累乗根、指数					授業内容をよく復習すること（概ね30分～1時間）。					
12	対数 日常の中での対数と計算					授業内容をよく復習すること（概ね30分～1時間）。					
13	統計の基礎① データの分布と代表値、ばらつき					授業内容をよく復習すること（概ね30分～1時間）。					
14	統計の基礎② データの標準化					授業内容をよく復習すること（概ね30分～1時間）。					
15	統計の基礎③ 推定と検定					授業内容をよく復習すること（概ね30分～1時間）。					
教科書	「基礎から学ぶSPIベーシック問題集」就職情報研究会編、実務教育出版										
参考文献											
備考	当科目は2クラスに分けて実施する。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-01				
	●			●						
科目名	経営学入門				単位認定者	丸藤 准二		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	現代の企業の仕組みや環境，経営の課題と展望について理解を深め，また，経営学の変遷について学ぶ。具体的には，経営学の基本的な専門用語や概念について理解し，説明できるようにする。そして，企業が社会全体に与える影響を知ることにより，企業活動の本質的な行動原理について理解し，企業活動を管理する必要性について学ぶ。									
到達目標	経営学の基本として，全体の体系と構造をまず理解すること。さらに各授業における重要な基本的知識や概念を理解し，自分の言葉で説明できるようにすること。									
学修者への期待等	経営学を学ぶことにより，企業の仕組みや企業活動の基本原則，行動原理を理解することができます。さらに社会における企業活動のあり方を捉えることができます。授業にしっかり取り組むことと同時に，新聞などの情報に触れて実際の企業活動の動きにも興味を持つことを期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	「経営学」とは何か				課題を完成させ，経営学の体系について整理をしておいてください（1時間程度）。					
2	企業の機能と制度				課題を完成させ，企業の機能と制度について整理をしておいてください（1時間程度）。					
3	経営学の歴史				課題を完成させ，経営学の歴史の概略について整理をしておいてください（1時間程度）。					
4	組織				課題を完成させ，組織構造の基本について整理をしておいてください（1時間程度）。					
5	人的資源管理				課題を完成させ，人的資源の活用と管理について整理をしておいてください（1時間程度）。					
6	経営戦略－1（経営戦略の概要・策定プロセス）				課題を完成させ，経営戦略の基本について整理をしておいてください（1時間程度）。					
7	経営戦略－2（経営環境分析・事業戦略）				課題を完成させ，経営戦略の方法について整理をしておいてください（1時間程度）。					
8	生産管理				課題を完成させ，生産管理の基本について整理をしておいてください（1時間程度）。					
9	マーケティング				課題を完成させ，マーケティングとは何かについて整理をしておいてください（1時間程度）。					
10	営業管理/モチベーション理論				課題を完成させ，営業管理とモチベーション理論について整理をしておいてください（1時間程度）。					
11	経営情報/SCM				課題を完成させ，経営情報とSCMとは何かについて整理をしておいてください（1時間程度）。					
12	意思決定/リーダーシップ論				課題を完成させ，意思決定の基本とリーダーシップ論について整理をしておいてください（1時間程度）。					
13	会計				課題を完成させ，会計の基本について整理をしておいてください（1時間程度）。					
14	財務管理				課題を完成させ，財務活動の基本について整理をしておいてください（1時間程度）。					
15	企業と社会のあり方				課題を完成させ，SDGsやCSRについて整理をしておいてください。（1時間程度）					
教科書	「プレステップ経営学＜第2版＞」北中英明著，弘文堂									
参考文献	「経営学入門キーコンセプト」井原久光編著，ミネルヴァ書房									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要，実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-02				
	●				●					
科目名	マーケティング				単位 認定者	高野 宏輝		評価 の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題等	50 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	「4 P」といわれるプロダクト、プライス、プレイス、プロモーションを中心としたマーケティング・ミックスの考え方や、ビジネスの環境変化に対応した新しいマーケティングの方法を学ぶ。また、生産と消費を結ぶ流通がどのような機能と役割を担っているのかを、小売業を中心に学ぶ。									
到達目標	消費者として企業のマーケティング活動の内容を知り、普段の生活と企業の関わりについて身近な問題として捉える力を修得する。更に観光ビジネスが、顧客にどのような価値提供を行っているか理解する。									
学修者への期待等	・どのような商品やサービスが、どのように提供されているか、アフターサービスはどうかなど、日常生活の中で考えて欲しい。特に実際の観光サービスの現場を観察し、学ぶべき理論との結びつきを日頃から考えること。 ・事前にテキストを熟読しておくこと。予習を前提としたミニテストに取り組むところから授業を始める。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンスー授業進行と成績評価 マーケティングの成功事例					【事後】課題提出 (30分程度)				
2	売れる仕掛けのつくりかた 反転授業／グループワーク					【事前】教科書第1章「マーケティングとは何か？」を読んでくこと (1時間程度) 【事後】課題提出 (30分程度)				
3	誰に買ってもらいたいのか？ 反転授業／グループワーク					【事前】教科書第2章「STP①セグメンテーションとターゲティング」を読んでくこと (1時間程度) 【事後】課題提出 (30分程度)				
4	市場で位置を決め、顧客ニーズをつかむ 反転授業／グループワーク					【事前】教科書第3章「STP②ポジショニング」を読んでくこと (1時間程度) 【事後】課題提出 (30分程度)				
5	売れる商品はここが違う 反転授業／グループワーク					【事前】教科書第4章「4つのP①Product (製品)」を読んでくこと (1時間程度) 【事後】課題提出 (30分程度)				
6	価格設定のマジックを知る 反転授業／グループワーク					【事前】教科書第5章「4つのP②Price (価格)」を読んでくこと (1時間程度) 【事後】課題提出 (30分程度)				
7	なぜ、その店で売ってもらえるのか？ 反転授業／グループワーク					【事前】教科書第6章「4つのP③Place (流通チャネル)」を読んでくこと (1時間程度) 【事後】課題提出 (30分程度)				
8	テレビ広告か、折込チラシか？ 反転授業／グループワーク					【事前】教科書第7章「4つのP④Promotion (販売促進)」を読んでくこと (1時間程度) 【事後】課題提出 (30分程度)				
9	具体例で考えるSTPと4つのP 観光マーケティングの仕事とは？動画視聴					【事前】教科書第8章「具体例で考えるSTPと4つのP」を読んでくこと (1時間程度) 【事後】課題提出 (30分程度)				
10	ライバルに勝ち、業界で生き残る 反転授業／グループワーク					【事前】教科書第9章「競争戦略」を読んでくこと (1時間程度) 【事後】課題提出 (30分程度)				
11	私たちの買い物に何が影響されているか？ 消費者心理を知る 反転授業／グループワーク					【事前】教科書第10章「消費者行動」を読んでくこと (1時間程度) 【事後】課題提出 (30分程度)				
12	インターネットでの売り方の特徴 反転授業／グループワーク					【事前】教科書第11章「e コマース」を読んでくこと (1時間程度) 【事後】課題提出 (30分程度)				
13	モノとサービスの売り方は、どう違う？ 反転授業／グループワーク					【事前】教科書第12章「サービス業のマーケティング」を読んでくこと (1時間程度) 【事後】課題提出 (30分程度)				
14	観光ビジネスにおけるマーケティングを考える ①マーケティング戦略検討 グループワーク					【事前】観光ビジネスの成功事例を調査してくこと (1時間程度)				
15	観光ビジネスにおけるマーケティングを考える ②チーム発表 グループワーク まとめ (重要ポイントの振り返り)					【事後】振り返りレポートを提出する (1時間程度)				
教科書	「プレステップ マーケティング<新版>」丸山正博著、弘文堂									
参考文献	必要に応じて講義中に紹介する。									
備考	・教科書での予習を前提とし、毎回UNIPAによるミニテストを実施する。解答解説を講義の中で行う。 ・授業終了後、振り返り課題をUNIPAより提出することを基本とする。評価はUNIPAより行い各学生へフィードバックする。 ・授業内で解説した配布資料以外の解説用スライドは、UNIPA上に掲載するので、必要に応じて参照すること。 ・受講者の理解度などにより、講義順序や重点の置き方を変更することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

旅行会社が在籍時に営業、オペレーション、販促、マネジメント業務に従事。商品企画から販売に至るまで、ビジネス現場で経験したマーケティング活動の事例を紹介し、習熟すべき知識とつながるよう、分かりやすく解説する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-03				
	●				●					
科目名	観光概論				単位認定者	鎌田 貢治		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義		授業回数		15 回	
授業の概要	観光は21世紀最大の産業であるといわれ、わが国でも観光立国政策に沿って内外の観光客の獲得競争が始まっている。本科目では、観光活動を産業の立場から概観し、観光が多くの個別的な産業に支えられて、最終的には豊かな国民生活に貢献していることを学ぶ。具体的には、観光活動を主な原因とする経済規模のひろがりやを、日本と世界のレベルで見てから、観光活動を構成する移動・宿泊・レジャーという三大要素と個別的な産業との関わりについて講義し、最後に観光活動の経済的効果についてまとめる。									
到達目標	社会全般の中での観光の位置付けを様々な観点（歴史及び現状の把握、産業別業態等）から考察をすることにより、自らが案件に対して疑問改善点等を見出す力を会得する。									
学修者への期待等	観光を考える素材は日常生活の至る所にあります。観光は身近な存在なので、当然のことのようにその意義を考えることが少ないと思われますが、身の回りにあふれる観光に関することに注意を向けてほしい。そうすれば観光の豊かな世界が見えてきます。									
回	授業計画				準備学修					
1	観光とは何か全体的な基礎知識				2024年現在の状況において、観光とは何だろうかということを考えておいてください。（概ね30分）					
2	旅 旅行 観光の違い、基本用語の説明 観光産業の紹介				観光活動を盛んにする仕組みは何かを考えておいてください。（概ね30分）					
3	観光の歴史 観光資源とは				観光の歴史的重要案件を考えてください。					
4	観光の現状（SDGS オーバーツーリズム等）				現状における観光の実態を考えてください。					
5	観光スタイルの紹介N01（コンテンツ ユニバーサル）				現在の観光スタイルの形態を考えてください。					
6	観光スタイルの紹介N02（エコ グリーン等）				現在の観光スタイルの形態を考えてください。					
7	テーマパークの紹介（歴史 実態等）				テーマパークって何？概略を掴んでください。					
8	おもてなし ホスピタリティ サービスの違いとは				観光業にとって重要な要素。概略を掴んでください。					
9	8回目講義続き。グループワークによるロールプレイング				観光業にとって重要な要素。概略を掴んでください。					
10	グループワークによる着地型観光モデルコース作成				グループによる共同作業。講義に内容を理解した上で考えてください。					
11	10回目講義の続き、及び発表				グループによる共同作業。講義に内容を理解した上で考えてください。					
12	観光に関わる産業の考察N01（旅行業）				最初の講義で会得した内容の深堀りです。調べてください					
13	観光に関わる産業の考察N02（宿泊業）				最初の講義で会得した内容の深堀りです。調べてください					
14	観光に関わる産業の考察N03（クルーズ等）				観光産業の新しいスタイルです。内容概略を掴んでください。					
15	振り返り検証（観光スタイル 産業を中心に）				観光全般の振り返りです。全体の把握をお願いします。					
教科書	特になし									
参考文献	「観光学基礎」JTB総合研究所 「観光概論」JTB総合研究所									
備考	原則として事前にUNIPAに授業ファイルをアップロードするので、事前学修及び復習をしてください。UNIPAなどで課題の提出を行う予定です。課題のフィードバックは原則として次回の授業時に行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

40数年間の旅行会社勤務で得た様々な体験を講義内で適時紹介をしていく。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-04				
	●				●					
科目名	観光ビジネス論				単位認定者	鎌田 貢治		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
	現代英語学科	選択	2 年		授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	観光事業は、観光政策のように国や地方公共団体などが公共目的で実施するマクロ的なものと、個々の企業や組織が営利または非営利の目的をもって行うミクロ的なものとに分けられる。本科目では、企業や組織の営む観光ビジネスの全体像について概観する。具体的には、観光ビジネスの基本である移動と宿泊、観光地での諸活動、それらの仲介サービスにおいて、それらの企業や組織がいかなるビジネスモデルに則って事業活動を展開しているかについて、豊富な事例研究を交えながら理解を深める。									
到達目標	様々な組織や団体の観光事業について概略を理解し、社会との関わりの中でどのような役割を果たしているのかを説明できるようになる。									
学修者への期待等	観光ビジネスは個別的な観光活動が対象ですが、難しく考えないで、身近な観光キャンペーンや地域おこしなどで観光が果たしている役割を考えれば、この授業はわかりやすくなります。									
回	授業計画					準備学修				
1	観光ビジネスのマネジメント特性：TDR, USJのマネジメント					TDR, USJのマネジメントのどこが優れているのかを考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
2	観光ビジネスのイノベーション：楽天トラベル					旅行業における販売方法の進化について理解しておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
3	観光ビジネスのグローバル経営：H. I. S.					H. I. S. の海外戦略について理解しておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
4	観光のマーケティング：仙台国際観光協会 宮城県観光連盟等					地域の観光マーケティングを事例に則して考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
5	Webビジネス：エクスぺディア Bookingng.com スカイスキャナー Agoda					Web専用ビジネスの特徴を理解しておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
6	旅行業：J T B					J T B の業務内容の変遷について調べておいてください。 予習：概ね30分。復習：概ね20分。				
7	宿泊業：星野リゾート					星野リゾートの方向性を調べておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
8	航空輸送業：ANA					レベニュー・マネジメントの例をANA以外でも調べておいてください。 予習：概ね30分。復習：概ね20分。				
9	鉄道ビジネス成功例：J R 東日本 東京メトロ 等					鉄道ビジネスって何？理由を考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
10	テーマパーク：最新のパークとは（刀集団）					最近特に顕著なテーマパークを考察してください。 予習：概ね20分 復習：概ね20分				
11	グローバル時代の地域観光インフラ：北海道ニセコ町等他各地紹介					地域インフラの必要性について考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
12	地域のインバウンド事業：宮城オルレ					宮城オルレと宮城の観光との関連性を考えてください 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
13	観光地の集客イベント事業：阿智村星空ツアー他紹介					イベント成功に必要なものは何かを考えてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分				
14	地域ブランドの成功例：日本各地紹介（北海道 岡山等）					事例を参考に故郷の地域ブランドは何かを考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
15	新しい旅行スタイル：進化する旅行者ニーズと観光創造					日本内外の観光行動についてのニュース、話題などに注意しておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。				
教科書	特になし									
参考文献	「1からの観光事業論」高橋一夫その他、碩学社 「1からの観光」高橋一夫その他、碩学社 「現代の観光事業」北川宗忠、ミネルヴァ書房 「観光ビジネス論」長谷政弘、同友館									
備考	原則として事前にUNIPAに授業ファイルをアップロードするので、事前学修及び復習をしてください。UNIPAなどで課題の提出を行う予定です。課題のフィードバックについては原則、次の授業内にて行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

40数年旅行会社に在籍していた経験を活かし、様々な体験を随時伝えていきたい。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-05				
	●			●						
科目名	国内観光地理				単位認定者	佐藤 美輪		評価の方法	試験 (レポート)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目は、観光地の生成・機能・構造について、内外の著名な観光地を事例として取り上げて講義する。具体的には、まず内外の観光地発達史を概説した後、観光地の分布、立地、観光資源、観光産業との関わり、観光客の地域特性、観光圏・観光ルートの変遷、観光地の環境保全や世界遺産などに留意しつつ、温泉、海浜、避寒・避暑、都市、田園、山岳などにおいて、いかに観光活動が自然地理的資源、人文地理的資源を利用して誕生・発展し、観光地が開発されてきたかを学ぶ。									
到達目標	日本には多くの観光地が存在する。現在に至るまでの観光地の歴史を理解できるようになる。また、テキストの内容に留まらず、興味を持った観光地を自ら調べ、説明することができるようになる。									
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切にし、講義内容の復習や問題演習を積極的に行ってほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス/北海道地方の地理					教科書等で北海道を読んでおく効果的です(1時間程度)。				
2	東北地方の地理（青森・秋田・岩手）					教科書等で青森・秋田・岩手を読んでおく効果的です(1時間程度)。				
3	東北地方の地理（山形・宮城・福島）					教科書等で山形・宮城・福島を読んでおく効果的です(1時間程度)。				
4	関東地方の地理（新潟・群馬・栃木・茨城）					教科書等で新潟・群馬・栃木・茨城を読んでおく効果的です(1時間程度)。				
5	関東地方の地理 （埼玉・千葉・東京・神奈川）					教科書等で埼玉・千葉・東京・神奈川を読んでおく効果的です（1時間程度）。				
6	関東地方・中部地方の地理 （山梨・長野・静岡）					教科書等で山梨・長野・静岡を読んでおく効果的です(1時間程度)。				
7	中部地方の地理（愛知・岐阜・富山）					教科書等で愛知・岐阜・富山を読んでおく効果的です（1時間程度）。				
8	中部地方・関西地方の地理 （石川・福井・滋賀）					教科書等で石川・福井・滋賀を読んでおく効果的です(1時間程度)。				
9	関西地方の地理（京都・奈良）					教科書等で京都・奈良を読んでおく効果的です(1時間程度)。				
10	関西地方の地理（三重・和歌山・大阪・兵庫）					教科書等で三重・和歌山・大阪・兵庫を読んでおく効果的です。(1時間程度)				
11	中国地方の地理 （鳥取・島根・岡山・広島・山口）					教科書等で鳥取・島根・岡山・広島・山口を読んでおく効果的です(1時間程度)。				
12	四国地方の地理（香川・徳島・愛媛・高知）					教科書等で香川・徳島・愛媛・高知について読んでおく効果的です(1時間程度)。				
13	九州地方の地理（福岡・佐賀・長崎・熊本）					教科書等で福岡・佐賀・長崎・熊本を読んでおく効果的です(1時間程度)。				
14	九州地方・沖縄の地理 （大分・宮崎・鹿児島・沖縄）					教科書等で大分・宮崎・鹿児島・沖縄を読んでおく効果的です(1時間程度)。				
15	総まとめ					前回までの授業を復習し臨んでください(1時間程度)。				
教科書	「国内観光地理サブノート」株式会社JTB総合研究所 「国内観光資源 2025」株式会社JTB総合研究所									
参考文献	必要に応じて紹介する。									
備考	・受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。 ・本科目は遠隔（オンデマンド配信）にて実施する。 ・授業への疑問等については、次回以降授業にフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

						科目ナンバリング				
						TB-1-FCO-08				
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力					
	●	●								
科目名	実践文章作成演習				単位 認定者	小里 千寿		評価の 方法	試験（レポート）	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	文章を書くことが苦手だという学生が増えており、通常のレポートなどばかりでなく履歴書・エントリーシートを作成する際に苦労しているケースも多い。しかし、文章力は一朝一夕に身につくものではないため、一定の期間を通して学ぶ必要がある。文章作成の基本から学び、毎回、課題を出して添削し、文章力を培っていく。また、本を読まないことが文章が書けない一因にもなっているので、読書と感想文などの課題を通して、文章力の向上を目指す。									
到達目標	自分の考えを明確に示す説得力のある文章作成能力を身につけ、様々な目的別に文章を書き分けられるようになる。									
学修者への 期待等	毎回、文章作成の実技があり、添削をして返却する。その添削された箇所を修正して再提出する形になるため、意欲的に取り組み、自分の文章力を向上させる努力を惜しまない学生の積極的な参加を期待する。									
回	授業計画					準備学修				
1	実践文章作成演習の授業ガイダンス、テキストや課題についての説明					【事後】自己紹介の文章を作成し次回に提出する（概ね1時間）。				
2	仮名遣い・送り仮名					【事前】配布資料を読んでもくる（概ね30分）。				
3	漢字の使い分け					【事前】配布資料を読んでもくる（概ね30分）。				
4	句読点					【事前】配布資料を読んでもくる（概ね30分）。				
5	見やすい標記					【事前】配布資料を読んでもくる（概ね30分）。				
6	四字熟語・ことわざ・慣用句					【事前】配布資料を読んでもくる（概ね30分）。				
7	Eメールの作法					【事前】配布資料を読んでもくる（概ね30分）。				
8	履歴書を書くときの心得（1）自分の強みを知る					【事前】配布資料を読んでもくる（概ね30分）。				
9	履歴書を書くときの心得（2）会ってみたいと思わせる					【事前】配布資料を読んでもくる（概ね30分）。				
10	自己PRについて					【事前】「学生時代に力を入れたこと」を書き、授業に持参する（概ね1時間分）				
11	志望動機について					【授業内課題】履歴書を書いて次回に提出する（概ね1時間）。				
12	読み手を説得する文章（論理性、根拠の必要性）					【事前】添削された履歴書を修正して授業に持参する（概ね1時間）。				
13	与えられたテーマで400字の作文する					【事前】新聞の時事問題で興味のあるテーマを探しておく（概ね1時間）。				
14	与えられたテーマで800字の作文する					【事後】配布資料に従って800字の作文を書き次回に提出する（概ね1時間）				
15	ふりかえり、期末レポートについての解説					【事前】15回を振り返っての感想を書いて授業に持参する（概ね1時間分）。				
教科書	必要に応じて適宜配布する。									
参考文献	授業でそのつど提示する。									
備考	講義は対面で行う。事前課題については授業に持参し、事後課題については次回の授業で提出することとする。 授業内で取り組んだ課題は、講義の中で解説を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

複数の大学にて就職指導、エントリーシート（履歴書）指導経験がある。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-09				
	●	●								
科目名	フィールドワーク概論				単位認定者	田中 瑠莉		評価の方法	試験 (レポート)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題等	20 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
						授業回数	15 回			
授業の概要	本科目は、フィールドワークの学術史や学問的意義を含めその手法を学び、体系的にフィールドワークを理解することを目的としている。特に、観光地にてフィールドワークを行う際に必要とされる基本概念と分析枠組みに関して、人類学的な理解の土台に立ちつつ、多角的に観光地や観光現象を分析・考察するために必要な知識を身につける。また、本学科では在学中に様々な調査地でフィールドワークを実施する機会があるため、それらの機会を有意義なものにし、自主的にフィールドワークに取り組む姿勢を養う。									
到達目標	文化人類学的なフィールドワークに関する学問的知識や心得を理解し、多角的な視点から物事を考えられるようになる。ならびに聞き取りや観察、データ整理、分析、報告書やレポート執筆などの一連の質的研究手法に必要な知識を獲得し、調査計画を立てられるようになる。そして在学中に行われるフィールドワークなどにおいて、その知識を活用することができる。									
学修者への期待等	各回の授業内容を理解し、1回ごとの授業を有意義なものするように各自努めること。参考文献等に積極的に目を通し、予習復習を進めること。毎回、質問を考えながら講義を聞くこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス/本講義の扱うフィールドワーク									
2	フィールドワークとは何か―「他者」を描く・理解する					前回の授業内容を復習し、説明できるようにしておくこと（30分程度）。				
3	フィールドワークの成立背景と展開					前回の授業内容を復習し、説明できるようにしておくこと（30分程度）。				
4	フィールドワークの思考法―観光との違い					前回の授業内容を復習し、説明できるようにしておくこと（30分程度）。				
5	観光人類学の理論―先人は観光をどのように見てきたか					前回の授業内容を復習し、説明できるようにしておくこと（30分程度）。				
6	現場を描き出す―具体的対象と抽象的思考					前回の授業内容を復習し、説明できるようにしておくこと（30分程度）。				
7	フィールドワークの計画を立てる					前回の授業内容を復習し、どのようなフィールドワークをしてみたいか考えてみる（30分程度）。				
8	レポート・報告書の作成方法					授業内課題①次回授業までに、与えられたテーマで形式に沿ったレポートを作成する（2時間程度）。				
9	聞き取りの方法論					前回の授業内容を復習し、聞き取りではどのように質問したらよいか想像してみる（30分程度）。				
10	調査されることの迷惑―倫理と個人情報について					前回の授業内容を復習し、個人情報保護に関してあらかじめ調べておくこと（30分程度）。				
11	文化人類学のフィールドワークの事例紹介―先人の葛藤と工夫					前回の授業内容を復習し、説明できるようにしておくこと（30分程度）。				
12	観光研究とフィールドワーク①沖縄県の事例					前回の授業内容を復習し、沖縄県の観光資源についてあらかじめ調べておくこと（30分程度）。				
13	観光研究とフィールドワーク②対馬市の事例					前回の授業内容を復習し、対馬市の観光資源についてあらかじめ調べておくこと（30分程度）。				
14	現地調査の技法と問題解決					前回の授業内容を復習し、自身のフィールドワーク計画で想定されるトラブルとその対策を考えてみる（30分程度）。				
15	総括・ふりかえり―観光現象のフィールドワーク					前回までの授業内容を復習し、重要な観点をあらかじめまとめておくこと（30分程度）。				
教科書	特になし									
参考文献	「フィールドワークへの挑戦 実践人類学入門」菅原和孝編、世界思想社 「観光人類学のフィールドワーク ツーリズム現場の質的調査入門」市野澤潤平ほか2名編、ミネルヴァ書房 「フィールドワーカー―現代世界をフィールドワーク（京都文教大学文化人類学ブックレット）」佐藤知久、風響社									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。配信期間や課題内容の指示等も含め各自UNIPAを随時確認し、授業に臨むこと。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
						TB-2-CCO-05				
	●									
科目名	英語Ⅱ				単位 認定者	吉野 千乃		評価の 方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	後期 <th>単位数</th> <td>1 単位</td> <td>授業内課題</td> <td>20 %</td>	単位数	1 単位		授業内課題	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	英語Ⅰで学修した基本表現の「聞く」・「話す」活動に加え，「読む」・「書く」活動も取り入れ，総合的な英語力の向上を目指す。									
到達目標	基本的な英語を用いて，簡単な意思表示や問題解決が出来るようになる。 観光に関する英語表現についてもさらに学修し，観光の現場における基礎的なコミュニケーションに自信が持てるようになる。									
学修者への期待等	授業にはテキスト，辞書を持参すること。授業前には該当箇所の音声をダウンロードし，予習を行うこと。 各回に行うペアワーク，会話練習やロールプレイに積極的な姿勢で臨むこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	英語Ⅱの授業の進め方について/ 予習・復習の方法					シラバス記載の内容を確認しておく（概ね20分）。				
2	Unit 8 At the restaurant-1 語彙と内容理解					Unit 8 のVocabularyを予習する（概ね30分）。 音声をダウンロードし，発音を確認する（概ね20分）。				
3	Unit 8 At the restaurant-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ，Quiz					前回は学修した語彙，表現を復習する（概ね50分）。				
4	Unit 9 Shopping-1 語彙と内容理解					Unit 9 のVocabularyを予習する（概ね30分）。 音声をダウンロードし，発音を確認する（概ね20分）。				
5	Unit 9 Shopping-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ，Quiz					前回は学修した語彙，表現を復習する（概ね50分）。				
6	Unit 10 Lost and Found-1 語彙と内容理解					Unit 10 のVocabularyを予習する（概ね30分）。 音声をダウンロードし，発音を確認する（概ね20分）。				
7	Unit 10 Lost and Found-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ，Quiz					前回は学修した語彙，表現を復習する（概ね50分）。				
8	Unit 11 Using public transportation-1 語彙と内容理解					Unit 11 のVocabularyを予習する（概ね30分）。 音声をダウンロードし，発音を確認する（概ね20分）。				
9	Unit 11 Using public transportation-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ，Quiz					前回は学修した語彙，表現を復習する（概ね50分）。				
10	Unit 12 Renting a bike-1 語彙と内容理解					Unit 12 のVocabularyを予習する（概ね30分）。 音声をダウンロードし，発音を確認する（概ね20分）。				
11	Unit 12 Renting a bike-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ，Quiz					前回は学修した語彙，表現を復習する（概ね50分）。				
12	Unit 13 Finding your way around-1 語彙と内容理解					Unit 13 のVocabularyを予習する（概ね30分）。 音声をダウンロードし，発音を確認する（概ね20分）。				
13	Unit 13 Finding your way around-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ，Quiz					前回は学修した語彙，表現を復習する（概ね50分）。				
14	Unit 14 Medical Care-1 語彙と内容理解					Unit 14のVocabularyを予習する（概ね30分）。 音声をダウンロードし，発音を確認する（概ね20分）。				
15	Unit 14 Medical Care-2 ペアワークによる発音練習とロールプレイ，Quiz					前回は学修した語彙，表現を復習する（概ね50分）。				
教科書	Takeuchi, M., Nakai, N., & Sugawara, C. (2015). <i>Enjoy Your Trip! English you need abroad</i> . Nan'un-do.									
参考文献	資料は随時UNIPAより配信する。									
備考	・毎時に授業への疑問などをUNIPAにReactionとして提出してもらい，次回にフィードバックを行う。 ・履修者の状況によって進度や順番に変更が生じる場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-2-CCO-03				
		●	●							
科目名	ビジネスマナー				単位 認定者	今井 恵美子		評価 の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	社会人として必要とされる基礎的なマナーを身につける。具体的には、敬語や接遇用語の使い方、電話応対や接遇の仕方、ビジネス文書の作成など、職場において必要とされるビジネス能力の基本を身につける。また、学んだビジネスマナーを職場において実践できるよう、講義に加えロールプレイングなども取り入れる。									
到達目標	①ビジネスマナーの基本を理解し実践できるようになる。 ②ビジネスパーソンとしての心構えを理解し実践につなげられるようになる。									
学修者への 期待等	ビジネスマナーは自然に過ぎて身につけられるものではない。学修したことを日常生活などで実践して身につけてほしい。また、受講態度について、他の受講者への影響を踏まえ節度のある言動を期待する。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス ビジネスマナーへの導入 （授業の進め方とルール、評価について）					【事前】 シラバスを確認（概ね30分） 【事後】 自己の目標をまとめてA4用紙1枚にまとめて提出（概ね60分）				
2	ビジネスパーソンとしての心構え （ペアワーク・グループワーク実施）					【事前】 グループワークの実施方法について調べA4版用紙1枚にまとめて臨む（概ね90分）				
3	指示の受け方と報告の仕方 （ペアワーク・グループワーク実施）					【事前】 該当ページを予習して臨む（概ね30分）				
4	職場の人間関係					【事前】 該当のページの予習をして臨む（概ね30分）				
5	基本動作・礼儀作法 （一部演習ロールプレイを実施）					【事前】 該当のページの予習をして臨む（概ね30分）				
6	話し方の基本と話の聞き方の基本					【事前】 該当のページの予習をして臨む（概ね30分） 【事後】 課題を仕上げて提出する（概ね60分）				
7	敬語の基本と間違いやすい敬語表現 敬語の確認テスト実施					【事前】 確認テスト実施の準備をして臨む（概ね60分）				
8	接遇の心構えと来客応対の流れの理解					【事前】 該当のページの予習をして臨む（概ね30分）				
9	来客応対の実際（ケーススタディ）					【事前】 該当のページの予習をして臨む（概ね30分） 【事後】 課題を仕上げる（概ね60分）				
10	電話応対①電話の特性の理解 かけ方・受け方の基本 （ペアワーク・グループワーク実施）					【事前】 電話の利点と欠点をまとめて臨む（概ね60分）				
11	電話応対②伝言メモの作成 様々な対応の実際 （ペアワーク・グループワーク実施）					【事前】 該当のページの予習をして臨む（概ね30分） 【事後】 課題を仕上げる（概ね60分）				
12	訪問のマナー					【事前】 該当のページの予習をして臨む（概ね30分）				
13	慶弔のマナー					【事前】 ビジネスの慶弔にはどのようなものがあるのかまとめて臨む（概ね60分）				
14	食事のマナーの基本 （ペアワーク・グループワーク実施）					【事前】 箸使いのタブー 2つまとめて臨む（概ね30分）				
15	学修成果のまとめ （一部グループワークを実施）					【事後】 自己の学修への振り返りを実施しA4版枚にまとめて提出（概ね60分）				
教科書	「実践ビジネスマナー」 株式会社ウイネット									
参考文献	必要に応じて適宜指示をする。									
備考	1. 受講者の理解度・効果等により講義の順番や重点の置き方を変えることがある。 2. 本科目の内容は秘書技能検定につながる。 3. 授業内課題については、講義において解説を行う。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-2-CCO-02					
	●	●									
科目名	情報機器演習				単位認定者	氏家 留美子		評価の方法	試験（筆記）	50	%
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	20	%
						授業時間数	30 時間		受講態度	30	%
					授業形態	演習	授業回数		15 回		
授業の概要	OS（基本ソフト）の基本的な操作ができ、Word（文書作成能力）、Excel（情報加工技術）、Power Point（情報の視覚的表現）の一般的な操作を修得したものがWord及びExcelの応用的な使用方法を修得し、日常業務で必要とされる機能を学ぶ。 さらに、それぞれのソフトウェアの持っている特有の機能を効率的に使用し、Word・Excel・Power Pointを連携して操作をする手法を学ぶ。具体的には、Excelを使用してデータ分析を行い、グラフや表を作成し、WordやPower Pointをリンクして使用できるスキルを修得することで、情報機器を使用した効率的な業務遂行力を育成する。										
到達目標	Word・Excelの外部試験であるMOS（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）一般レベルの合格を目指し、学修した技術をもとに、社会人としてパソコンを業務で使用できるスキルを身に付ける。										
学修者への期待等	授業では試験問題の解答方法・出題傾向を確認しながら、問題を通して各機能が業務でどのように使われるかも含めた内容となる。操作の丸暗記ではなく各機能の活用方法を理解し、使用する環境が変わっても応用できる力を身に付けてほしい。授業で取り上げた問題を理解後は、より多くの問題に積極的に挑戦しパソコンスキルを向上してほしい。各自が作成したデータを保存するためのUSBメモリを準備すること。テキストも忘れずに必ず持参すること。 なお、1～7回目まではWordのテキストを持参すること。 Excelのテキストは8回目以降で使用するため、1回目の授業から持参する必要はない。										
回	授業計画						準備学修				
1	MOS試験の概要と出題範囲の確認 Word：文字書式・段落書式・スタイル・ページ区切り・段組み・段区切り・セクション区切り						【復習について】 授業で学んだ操作内容を復習し、次回までに確実に操作できるようにすること。 また、授業時間内に完成しなかった部分は、次の授業までに操作しておくこと。 テキストには多くの問題が収録されている。操作に慣れてきたら、授業で取り上げない問題にも挑戦し、常に試験合格レベルを目指すこと。 自分の現在のスキルを把握し、学修したパソコン操作が身についていないと感じる場合は、繰り返し操作して復習すること。 復習時間は各自のスキルにより1～2時間程度。				
2	Word：プロパティ・ヘッダーフッター・ページ番号・表の挿入と編集・箇条書きや段落番号の設定										
3	Word：検索・他のファイル形式での保存・文書の検査・図形や画像の編集・スマートアート										
4	Word：脚注と文末脚注・目次作成・コメント機能・変更履歴										
5	Word：模擬問題を使った演習1 書式設定・図形挿入・画像編集・スマートアート・箇条書き・表編集など										
6	Word：模擬問題を使った演習2 検索・表編集・図形の編集・変更履歴・目次挿入・脚注の作成など										
7	Word：模擬問題を使った演習3 セクション区切り・コメント機能・目次・文末脚注・文書のプロパティなど										
8	Excel：ページ設定・ヘッダーフッター・行高・列幅・ウィンドウ枠の固定・形式を選択して貼り付け										
9	Excel：グループ化・条件付き書式・テーブル・並べ替え・フィルター										
10	Excel：名前・相対参照・絶対参照・複合参照・別シート参照の数式・構造化参照										
11	Excel：基本関数・個数を数える関数・配列関数・文字列関数										
12	Excel：グラフ・スパークライン・他のファイル形式のインポート										
13	Excel：模擬問題を使った演習1 ハイパーリンク挿入・グラフ編集・関数・データのインポートなど										
14	Excel：模擬問題を使った演習2 表示モード・テーブル・別シートを参照する数式・名前・並べ替えなど										
15	Excel：模擬問題を使った演習3 テーブル内の数式・名前を使った数式・ヘッダーフッター・スパークラインなど										
教科書	「よくわかるマスター MOS Word365 対策テキスト&問題集」FOM出版 「よくわかるマスター MOS Excel365 対策テキスト&問題集」FOM出版										
参考文献	進行に応じてプリントを配付することもある。										
備考	授業は情報処理室で教室のパソコンを使用して実施する。授業中にパソコンの操作手順を示す場合は、講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。 授業内容は、クラス全体の操作の進捗により前後する場合もある。 「試験」は、Word・Excelの使用方法に関する筆記試験を行う。 「授業内課題」は、指示したファイルをデータ形式で提出する。次回以降講義でフィードバックを行う。 なお、当科目は2クラスに分けて実施する。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-02				
		●	●							
科目名	エアラインビジネス実務				単位認定者	加藤 雅子		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題	10 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	交通ビジネスは、科学技術の進歩とともに発展を遂げ、観光ビジネスと非常に密接な関係性を有する事業である。 とりわけ航空産業は、幅広い分野が関連し、支えあっている。本科目では、航空ビジネスの基礎を学び、空港における多様なビジネスについて理解する。また、現場で求められるスキルが何であるかを学習し、そのスキルアップのための能力開発を行う。									
到達目標	航空業界の歴史と現況を把握した上で、サービス、幅広い職種及び業務内容について理解を深める。また、航空業界で求められる接遇マナーや国際的なマナー・プロトコルの基礎を座学と実践を通して修得し、職場生活や社会生活で活かせるようにする。									
学修者への期待等	航空業界、及び関連業界（ホテル、旅行、交通ビジネス、観光ビジネス等）に深い興味、関心を持ち、ニュースや新聞・雑誌等から積極的に情報を収集し、自分の考えや意見を具体的に述べられるように準備してください。									
回	授業計画					準備学修				
1	航空業界・インバウンド事業への導入					予習（概ね30分）：航空ビジネスをイメージする。 航空ビジネスを学ぶ目的・意味を確認する。				
2	航空業界で求められる人材とスキル 航空会社の接客・接遇マナー（グループワーク）					予習（概ね30分）：航空業界で求められる人材はどのような人材かを考えておく。				
3	第一印象と印象に残る自己紹介（実践練習及びグループワーク）					予習（概ね60分）：印象に残る自己紹介の準備をしておく。 航空業界に相応しい身嗜みに整える				
4	敬語と言葉遣い、接客用語、待遇表現					予習（概ね60分）：配布資料を読む。生活の中で使い方に悩む言葉遣いをピックアップしておくこと。				
5	コミュニケーションの重要性 異文化コミュニケーション（グループワーク）					予習（概ね60分）：配布資料を読み内容を理解しておく。 異文化について考えを纏めておく。				
6	航空業界・サービス業界のニュース（新聞ワーク） グループワーク・発表					予習（概ね60分）：航空業界に関する情報を新聞・ニュース等から収集し、意見、感想を纏めておく。				
7	航空ビジネス ～業界・職種・企業研究～					予習（概ね60分）：国内・LCC・外資系の各エアラインの特徴について調べておく。				
8	航空ビジネスの多様性と働き方 ～航空機に携わる仕事、旅客・グラウンドハンドリング～					予習（概ね60分）：興味のある航空会社、職種について具体的に調べておく。				
9	航空業界の歴史と各航空会社の取り組み：航空同盟・LCC・マイレージサービス・コードシェア・インバウンド対策					予習（概ね60分）：配布資料を読み内容を理解しておく。				
10	航空業界用語 CA/GSのアナウンス練習（声・表情トレーニング）					予習（概ね60分）：航空業界用語の意味を調べて確認しておく。 アナウンスの練習をしておく。				
11	空港コード・エアラインコード・時差計算					予習（概ね60分）：配布資料を読んでおくこと。				
12	機内サービス：機内食・プライオリティゲストサービス・各宗教に対応したサービス（GW）					予習（概ね60分）：配布資料を読んで理解しておく。 航空会社のタイムテーブルに目を通しておく。				
13	航空業界のサービスとホスピタリティー CSとES（顧客満足と従業員満足）・グループワーク					予習（概ね60分）：サービスとホスピタリティ、CSとESについて調べておく。				
14	マナー＆プロトコルの基礎知識第5章：食事のマナー（洋食編）第6章：お酒のマナー（実践練習）					予習（概ね60分）：配布資料を読んでおく。 箸を持参すること。				
15	グループ討議（航空業界について） 全体の復習及び重点項目の確認					予習（概ね60分）配布資料を読んでおく。 これまでの講義全体を振り返り、内容を明確にしておく。				
教科書	授業ごとに資料配布									
参考文献	①各航空会社時刻表及びHP ②「航空業界の動向とカラクリがよ〜くわかる本」吉田力 著、第2版 秀和システム ③「マナー＆プロトコルの基礎知識」NPO法人日本マナー・プロトコル協会 ④「AIRLINE」「AIR STAGE」イカロス出版 その他、授業時に適宜紹介。									
備考	本科目の内容は、航空業界受験や「マナー・プロトコル検定試験」の受験に繋がる。 課題等に関する学生へのF/Bは、提出物にコメントを記載して返却、また、授業内で振り返りを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

実務経験の概要：元大手国内航空会社国際線CA及びCA教官。機内サービスCS推進部担当経験者。民間企業人材育成担当。
実務経験と授業科目の関連性：実務経験からのより具体的且つポイントを押さえた内容で演習を行い、航空業界に関する知識と接遇マナー力を習得できるように導く。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング TB-3-ECO-03				
		●	●							
科目名	エアラインサービス				単位 認定者	小里 千寿		評価 の方法	試験 (レポート)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題等	40 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	様々な空港業務のうち、主にグランドスタッフに必要とされる空港サービスの基本知識、接遇スキル、ビジネスマナー、コミュニケーション力などを学び、空港におけるサービスマインドを身につける。									
到達目標	◇社会人にふさわしい行動を理解し、自ら考え行動することができる（言葉遣い/立ち居振舞いなど） ◇社会人としての基本的な規律を順守できる ◇「おもてなし」の大切さを考え、日常生活でも接遇を発揮することができる ◇自己理解を深め、自信を持って自己PRをすることができる ◇グランドスタッフの仕事を理解し、職種研究を深めることができる									
学修者への 期待等	◇積極的な授業への参加 ◇学修内容を各自で咀嚼して、自己理解を深める ◇不明点について曖昧にせず、質問を通じて明確にする									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	マインドセット					【事前】HPでANAグループ企業情報を確認し、ANAについて各自イメージしておくこと（概ね1時間程度）			小里千寿 未 定	
2	印象力アップⅠ								小里千寿 未 定	
3	印象力アップⅡ								小里千寿 未 定	
4	ANAを知る～過去・現在・未来～								小里千寿 未 定	
5	ANA's Way					【事前】ANA's Wayについて調べておくこと（概ね1時間程度）			小里千寿 未 定	
6	言語化トレーニング								小里千寿 未 定	
7	キャリアⅠ～自己分析～					【事前】ライフラインチャートを事前に記入しておくこと（概ね1時間程度）			小里千寿 未 定	
8	キャリアⅡ～企業とのマッチング～					【事前】志望する企業情報を調べておくこと（概ね30分程度）			小里千寿 未 定	
9	チームビルディングⅠ								小里千寿 未 定	
10	チームビルディングⅡ								小里千寿 未 定	
11	表現力アップ								小里千寿 未 定	
12	ANAグランドスタッフの仕事を知る					【事前】グランドスタッフの具体的な業務内容を調べておく（概ね1時間程度）			小里千寿 未 定	
13	グランドスタッフの対応力～基礎編～								小里千寿 未 定	
14	グランドスタッフに求められるコミュニケーション力								小里千寿 未 定	
15	グランドスタッフの対応力～実践編～								小里千寿 未 定	
教科書	ANAエアラインスクールテキスト一式									
参考文献	「ANAの口ぐせ」「ANAの気づかい」「ANAの教え方」以上3冊 ANAビジネスソリューション・株式会社KADOKAWA									
備考	1日目の講義の前にオリエンテーションがあります。希望者のみ、福島空港において1泊2日の実務研修を実施します。 授業内で取り組んだ課題などのフィードバックに関しては、講義の中で解説を行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

この授業ではCAの経歴をもつ実務経験者を招聘し授業を実施する。

						科目ナンバリング				
						TB-3-ECO-04				
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力					
		●			●					
科目名	鉄道ビジネス実務				単位 認定者	紺野 純一		評価 の方法	試験 (レポート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	交通ビジネスは、科学技術の進歩とともに発展を遂げ、観光ビジネスと非常に密接な関係性を有する事業である。 本科目では、主に鉄道ビジネスに焦点を当て、鉄道の発達の歴史、ビジネスモデル及び観光との関係性について学び、現状の問題点や今後の課題について考察する。また、バス等の他の交通ビジネスの概要についても学ぶ。									
到達目標	交通機関の発展と旅行における関係、観光全般に及ぶ概要を修得し、将来の職業選択に役立てることを到達目標とする。									
学修者への期待等	昨今、観光はインバウンドの拡大やデジタルの発展等社会経済環境の大きな変化とともに地域振興にも多大な貢献をする、国の一大成長産業になっている。鉄道や航空機など交通機関の発展とともに、少子高齢化社会の到来とともに交流人口の拡大が地域活性化に重要であることを認識し、観光産業や交通機関に将来従事する学生が増えることを期待している。									
回	授業計画					準備学修				
1	観光交通の全体概要Ⅰ：交通機関の発展や観光の概念を学ぶ									
2	観光交通の全体概要Ⅱ：近年の鉄道や航空機と観光を学ぶ									
3	観光の定義と観光発達の歴史					観光発達の歴史について調べてきてください（1時間程度）。				
4	観光関係制度など					観光関係の制度について調べてきてください（1時間程度）。				
5	観光の現状（インバウンドの現状）									
6	観光に関する仕組み（移動のテクノロジー）									
7	観光と鉄道事業についてⅠ （列車ダイヤ・制度・運賃など）									
8	観光と鉄道事業についてⅡ （イベント車両・特別企画乗車券・旅行商品など）									
9	観光と航空機・バスなどの現状									
10	観光と宿泊施設について									
11	旅行エージェントと観光の現状									
12	観光関連施設とビジネスシステム									
13	観光に関するブランド戦略・マーケティング （デジタル戦略を含む）									
14	地方創生と観光・交通機関の役割									
15	観光と交通機関全般を考える （コロナ禍後の観光・交通機関）									
教科書	「観光学キーワード」山下晋司編著、有斐閣双書									
参考文献	特になし									
備考	授業への疑問等については、次回以降授業にフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
国鉄・JR職員（仙台駅長等）の経歴を経て、現東北観光推進機構理事長。 観光業界における実務経験から、鉄道交通ビジネスについて分かりやすく解説し、実践的な授業を展開することができる。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング TB-3-ECO-05				
		●			●					
科目名	宿泊ビジネス実務				単位 認定者	紺野 純一		評価 の方法	試験 (レポート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	「ホテルの仕組」，「ホテル経営」，「ホテルと社会関係」等について実務的なケースも含めて学習し，「ホテルビジネス実務」の人材育成の基礎を身につける。ビジネス需要だけでなく，観光客の需要拡大がホテル経営に密接な関係を持っていることから，観光業についても学ぶ。									
到達目標	ホテルの歴史は，社会経済の変化に伴い，ハード・ソフト面でも発展進化してきたので，社会背景や一般常識を修得し，将来の職業選択の一助にする。									
学修者への期待等	「サービス業」のやりがいと厳しさを授業の中で学ぶとともに社会的な使命についても習得する。併せて，外国からのお客様が増えている状況下で本講義を通じて視野を拡大して欲しい。									
回	授業計画					準備学修				
1	イントロダクション：ホテル業について インバウンドとアウトバウンド					ホテル業界が利用者に対し提供しているサービスを調べてくる（20分程度）。				
2	ホテルの誕生と発展，欧米・日本のホテル									
3	ホテル産業の現状と展望					ホテル業界の概況を調べておく（20分程度）。				
4	ホテル関係商法と語源（経営形態による分類）									
5	ホテル組織									
6	ホテル経営 ホテルの仕事（宿泊部門）									
7	ホテル経営 ホテルの仕事 （1）料飲部門宴会									
8	ホテル経営 ホテルの仕事 （2）料飲部門ブライダル・レストラン									
9	ホテル経営 ホテルの仕事（総括）									
10	ホテル管理運営									
11	ホテルマーケティングと販売促進Ⅰ （ホテルマーケティングと宣伝媒体）									
12	ホテルマーケティングと販売促進Ⅱ （ホテルマーケティングと販路拡大）									
13	新しい時代におけるホテル経営 （デジタル戦略含む）									
14	ホテルビジネス実務と東北の観光需要開発 （インバウンド需要の拡大）									
15	観光・ホテル業全般を考える （コロナ禍後の宿泊産業）									
教科書	特になし									
参考文献	「基本ホテル経営教本」鈴木博／大庭祺一郎著，柴田書店									
備考	授業への疑問等については，次回以降授業にフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
元国鉄・JR職員、仙台ターミナルビル（株）専務取締役総支配人等の経歴を経て、現東北観光推進機構理事長。ホテル・観光業界における実務経験から、ホテル経営についての歴史や業務について解説し、各部門での具体的事例を交えた実践的な授業を展開することができる。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング TB-3-ECO-06				
		●	●							
科目名	ホテル・ブライダルサービス				単位 認定者	小里 千寿 小野寺 理恵		評価 の方法	※詳細は「備考」欄を参照すること。	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位			
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	2010年代に入って急増しているインバウンド需要の主要な受け手として現在急拡大を続けているホテル業界について、本講義では特に「おもてなし」の精神を実際の行動として体現するサービス業務について学ぶ。具体的にはホテルビジネスおよびブライダルビジネスにおけるサービスについて、必要とされるマインドとスキルを講義しつつ、ロールプレイなど演習的な要素も入れながら理解を深める。									
到達目標	実際にホテルの現場第一線で豊富な経験を積んだプロフェッショナルによるホテリエに必要な知識と技術を学修する。様々な部門に分かれるホテルサービスを授業を通して体験することで、より具体的にホテルサービスを理解できるようにする。									
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切に、講義内容の復習を積極的に行ってほしい。今後の日本の観光産業を見据え、東北に訪れた観光客に対するホテル・ブライダルサービスを自ら主体的に学ぶ姿勢を期待する。									
回	授業計画					準備学修		担当教員		
1	ガイダンス・ホテルサービスの概要 (J R東日本グループ メトロ、メッツ) ※ホテル開催					ホテルのサービスとはどのようなものを調べてください(30分程度)。		小里 千寿 未 定		
2	①料飲宴会部門業務 ②料飲接客技法 ※ホテル開催					ホテルサービスにおける宴会、飲食部門について各自あらかじめ調べておくこと(30分程度)。		小里 千寿 未 定		
3	ブライダル部門業務 ※校内開催					ホテルサービスにおけるブライダル部門について各自あらかじめ調べておくこと(30分程度)。		小里 千寿 未 定		
4	ホテル・サービス：宴会場でのサービスについて ※ホテル開催					ホテルサービスにおける宴会場での仕事について各自あらかじめ調べておくこと(30分程度)。		小里 千寿 未 定		
5	～プロフェッショナル講義～ ①ソムリエ ②SAKE DIPLOMA ※ホテル開催					ホテルサービスにおけるソムリエ、SAKE DIPLOMAの仕事について各自あらかじめ調べておくこと(30分程度)。		小里 千寿 未 定		
6	宿泊部門業務 ※ホテル開催					ホテルサービスにおける宿泊部門について各自あらかじめ調べておくこと(30分程度)。		小里 千寿 未 定		
7	インバウンド概論 ※校内開催					日本のインバウンド観光について各自あらかじめ調べておくこと(30分程度)。		小里 千寿 未 定		
8	～プロフェッショナル講義～ ①バリスタ ②紅茶コーディネーター ※ホテル開催					ホテルサービスにおけるバリスタ、紅茶コーディネーターの仕事について各自あらかじめ調べておくこと(30分程度)。		小里 千寿 未 定		
9	グループディスカッション 「お客様の期待以上に応えるホテルのサービスとは」 ※ホテル開催					前回までの授業の内容を復習しておくこと(1時間程度)。		小里 千寿 未 定		
10	プレゼンテーション ※ホテル開催					前回の授業の内容を復習し、プレゼンテーション資料を各自準備しておくこと(1時間程度)。		小里 千寿 未 定		
11	ブライダルコーディネーターとは、＜DVD鑑賞＞コーディネーターの身だしなみ・作法 (ペンの渡し方)					ウェディングプランナーの仕事について各自あらかじめ調べておくこと(30分程度)。		小野寺 理恵		
12	実技テストの解説(二人への名刺&スケジュール説明)自己紹介と名刺渡し練習、＜DVD鑑賞＞フルオーダーWEDDING					前回までの授業内容を復習しておくこと(30分程度)。		小野寺 理恵		
13	DVD鑑賞(小さなWEDDING) ブライダル基礎					前回までの授業内容を復習しておくこと(30分程度)。		小野寺 理恵		
14	ブライダル基礎(ブライダルコーディネーターに求められる知識) ※実技テスト(最終日受けられない方)					前回までの授業内容を復習しておくこと(30分程度)。		小野寺 理恵		
15	実技テスト					前回までの授業内容を復習しておくこと(30分程度)。		小野寺 理恵		
教科書	「ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード」公益社団法人日本ブライダル文化振興協会									
参考文献	「ホテルビジネス基礎編」一般財団法人日本ホテル教育センター 「新ホテル総論」一般財団法人日本ホテル教育センター 「ブライダル総論」一般財団法人日本ホテル教育センター 「ブライダルプロデュース」一般財団法人日本ホテル教育センター									
備考	＜評価の方法＞ 小里 千寿：第1回～10回 － 試験(レポート)：40%、受講態度：30%、プレゼンテーション内容：30% 小野寺 理恵：第11回～15回 － 授業内実技試験：80%、受講態度：20%									

※担当者未定部分は調整中。※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
現役のホテリエ(ホテルメトロポリタン仙台スタッフ：未定)とブライダルコーディネーター(小野寺理恵)として実務経験を有する。 各実務家の具体例のある講義やロールプレイを通じて、ホテリエに求められているマインドやスキル、サービスについての授業を行うことができる。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング TB-3-ECO-08				
		●	●							
科目名	ブライダルビジネス実務				単位 認定者	小野寺 理恵		評価の方法	試験 (レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	本科目ではブライダルビジネスに関する基礎的な仕組みを理解することを目的とする。ブライダルビジネスの業態や業種、歴史やブライダルサービスに関する知識を習得するとともに、ブライダル実務能力の基礎を身につける。									
到達目標	結婚式のスタイルが多様化していくにつれ結婚式を演出するニーズも高まっている現在、ブライダルのどの業種に就職しても対応できるよう基礎知識を身につけ、ブライダルコーディネーター技能検定合格を目指す。									
学修者への期待等	現在のブライダル事情を理解し、人材の役割やスキルについても知識を深めてほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	ブライダルコーディネーター基礎知識と過去問題解説					テキストP8～P32熟読（1時間程度）。				
2	（結婚とは？）ブライダルビジネス他					テキストP34～P47熟読（1時間程度）。				
3	（ブライダルの基礎）ブライダル集客システム他					テキストP48～P68熟読（1時間程度）。				
4	（ブライダルの基礎）ブライダル準備、キリスト教式他					テキストP69～P91熟読（1時間程度）。				
5	（コーディネーター業務）新規業務とブライダルセールス他					テキストP94～P110熟読（1時間程度）。				
6	（コーディネーター業務）プランニング、新規アフターフォローと成約業務他					テキストP111～P121熟読（1時間程度）。				
7	（打合せ業務他）成約から初回打合せ<REPORT①～No100まで提出>					テキストP124, P125熟読（30分程度）。				
8	（打合せ業務 他）中間～最終打合せ（当日）まで					テキストP126, 127熟読（30分程度）。				
9	（コンセプトシートに基づいたブライダルアイテムの選定 他）空間デザイン、衣裳選定、フラワーアイテム他					テキストP130～P153熟読（1時間程度）。				
10	（コンセプトシートに基づいたブライダルアイテムの選定 他）美容、会場・テーブルコーディネート他					テキストP154～P187熟読（1時間程度）。				
11	（ブライダルの基礎と手配業務）ペーパーアイテム、美容他					テキストP188～P194熟読（1時間程度）。				
12	（ブライダルの基礎と手配業務）挙式・披露宴演出手配他					テキストP195～P204熟読（1時間程度）。				
13	（ブライダルの基礎と当日業務）進行表、テーブルセッティング、サービス業務、花の管理他					テキストP206～P228熟読（1時間程度）。				
14	復習（1～6回目の復習）					過去問熟読。				
15	復習（7～12回目の復習）<REPORT② 7 月末提出>					過去問熟読。				
教科書	「ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード」公益社団法人日本ブライダル文化振興協会									
参考文献	特になし									
備考	毎回、テキストや配布プリントを熟読してください。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

ホテルや神社、ゲストハウスでのブライダル経験（美容、司会、アテンンド、プランナー等）を活かし、具体的事例を交え説明する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●	●			TB-3-ECO-09				
科目名	秘書実務				単位 認定者	今井 恵美子		評価 の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	秘書に求められる職務知識について理解する。具体的には、接遇や電話応対、交際業務、ビジネス文書作成やファイリング、スケジュール管理など、秘書の職務を遂行するために必要な技能を取り上げ、実践的に学んでいくことにより、秘書のみならず事務系の職種に対応できる能力を身につける。									
到達目標	①秘書業務を通して、組織人として求められる資質と基本的な仕事の処理の仕方を理解できる。 ②秘書としての役割を理解することにより、「きちんと」「丁寧」について、理解し体現できるようになる。 ③自己の言動が周囲に及ぼす影響について理解し、意識して表現できるようになる。									
学修者への 期待等	受講に際し、節度ある受講態度を期待する。講義の妨げになる言動、遅刻には十分注意して臨んでほしい。確認テストを実施。履修希望者は、必ず1回目の講義を受講のこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業の進め方と評価、検定の概要 秘書学の導入					【事前】シラバス内容を確認して受講する。（概ね30分） 【事後】受講の目標を設定し、提出する。（概ね60分）				
2	必要とされる人柄と資質					【事後】秘書の人柄が補佐役としてどのように影響すると思うか考察内容をまとめて提出。（概ね60分）				
3	求められる能力					【事前】該当ページを熟読し臨む。（概ね60分）				
4	秘書の機能と仕事の進め方の基本					【事前】確認テスト実施の準備をして臨む。（概ね60分）				
5	社会常識と経営知識					【事前】該当ページを熟読し臨む。（概ね60分） 【事後】指示された課題を実施し提出する。（概ね60分）				
6	マナー・接遇①良好な人間関係の構築・継続のための 感じの良い話し方と傾聴力					【事前】該当ページを熟読し臨む。（概ね30分）				
7	マナー・接遇②接遇の基本と心遣い 言葉遣いの確認テスト実施					【事前】該当ページを熟読し臨む。（概ね30分）				
8	マナー・接遇③交際業務と贈答					【事前】該当ページを熟読し臨む。（概ね30分） 【事後】指示された課題を実施し提出する。（概ね60分）				
9	技能①会議の知識 会議開催から終了までの業務					【事前】確認テスト実施の準備をして臨む。（概ね60分）				
10	技能②ビジネス文書の作成					【事前】該当ページを熟読し臨む。（概ね30分）				
11	技能③文書の取り扱い・ファイリングの知識					【事前】該当ページを学習し臨む。（概ね30分） 【事後】指示された課題を実施し提出する。（概ね60分）				
12	技能④名刺・資料管理、スケジュール管理					【事前】該当ページを熟読し臨む。（概ね30分）				
13	技能⑤環境整備、事務用品の扱い方					【事前】該当ページを熟読し臨む。（概ね30分） 【事後】指示された課題を実施し提出する。（概ね60分）				
14	検定試験研究 過去問題から理解を深める					【事前】各自問題集を実施し合格ラインに到達するように準備をして臨む。（概ね60～90分）				
15	学修のまとめ 学びをいかす					【事前】課された課題を実施して臨む。（概ね60分）				
教科書	「新秘書特講」 早稲田出版社									
参考文献	「秘書検定実問題集 2級」実務技能検定協会編，早稲田教育出版									
備考	1. 受講者の理解度等により、講義の順番や重点の置き方を変えることがある。 2. 本科目は秘書検定2級受験につながる。 3. 授業内課題について、講義にて解説を行う。確認テストは、模擬解答しフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-14				
	●	●								
科目名	旅行業法				単位認定者	佐藤 美輪		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	本科目では、旅行業に関する法制度についての基礎を理解することを目的とする。旅行業務に関わる取引の公正の維持，旅行の安全確保，旅行者の利便増進を目的として制定された旅行業法について，それらの目的を達成するために設けられた様々な制度について学修する。 旅行業法の目的，登録・営業保証金制度，旅行業務取扱管理者制度，旅行取引に関する諸規則，旅行業協会制度など，旅行業法を系列的に学ぶ。									
到達目標	旅行業に関する法制度について具体的に触れることにより，法律と実務の関連性について理解できるようになる。									
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも，1回ごとの授業を大切にしてほしい。また，授業時間外においても講義内容の復習や問題演習も積極的に行ってほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	総則				事前に教科書の総則の箇所を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
2	登録制度				事前に教科書の登録制度の箇所を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
3	営業保証金制度				事前に教科書の営業保証金の箇所を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
4	旅行業務取扱管理者 旅行業務取扱料金				事前に教科書の旅行業務取扱管理者，旅行業務取扱料金の箇所を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
5	旅行業約款				事前に教科書の旅行業約款の箇所を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
6	標識				事前に教科書の標識の箇所を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
7	取引条件の説明と契約書面の交付				事前に教科書の取引条件の説明と契約書面の交付の箇所を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
8	外務員 広告表示等誇大広告の禁止				事前に教科書の外務員，広告表示等誇大広告の禁止の箇所を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
9	旅程管理				事前に教科書の旅程管理の箇所を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
10	受託契約				事前に教科書の受託契約の箇所を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
11	旅行者代理業 禁止行為・登録の取消し等				事前に教科書の旅行者代理業者，禁止行為・登録の取り消し等の箇所を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
12	旅行サービス手配業				事前に教科書の旅行サービス手配業の箇所を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
13	旅行業協会				事前に教科書の旅行業協会の箇所を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
14	問題演習（第1回～第13回分）				第1回～第13回までに行った授業内容を復習し，授業に臨んでください（1時間程度）。					
15	募集型企画旅行の広告				事前に旅行のパフレットに目を通して授業に臨んでください（30分程度）。					
教科書	「旅行業務取扱管理者試験 標準テキスト 2 旅行業法・約款 2025年対策」資格の大原 旅行業務取扱管理者講座 編著，大原出版 「旅行業務取扱管理者試験 標準トレーニング問題集2 旅行業法・約款 2025年対策」資格の大原 旅行業務取扱管理者講座 編著，大原出版									
参考文献	必要に応じて指示する。									
備考	本科目は国内旅行業務取扱管理者試験，地域限定旅行業務取扱管理者試験の受験科目の1つである「旅行業法」についても対応する。 1．「地域限定旅行業務取扱管理者試験」「国内旅行業務取扱管理者試験」の受験予定者は「旅行業約款」「国内運賃・旅費計算」を併せて受講するとよい。 2．受講者の理解度により，講義順序や重点の置き方を変更することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング TB-3-ECO-15				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●	●								
科目名	旅行業約款				単位 認定者	佐藤 美輪		評価 の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	旅行業約款を中心に、旅行業界に関係する約款について学修する。約款の目的、企画旅行契約、手配旅行契約などの旅行業約款や、JRなどの運送約款、宿泊約款などを系統立てて学び、旅行業界の仕事の流れを理解する。									
到達目標	旅行業界や運送業界等の約款について具体的に触れることにより、約款と実務の関連性について理解できるようになる。									
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切にしてほしい。また、授業時間外においても講義内容の復習や問題演習も積極的に行ってほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	総則				事前に教科書の総則を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
2	契約の成立				事前に教科書の契約の成立を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
3	契約の変更				事前に教科書の契約の変更を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
4	旅行者の解除権				事前に教科書の旅行者の解除権を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
5	旅行業者の解除権				事前に教科書の旅行業者の解除権を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
6	団体・グループ 旅程管理				事前に教科書の団体・グループ、旅程管理を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
7	責任 旅行相談契約				事前に教科書の責任、旅行相談契約を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
8	旅程保証				事前に教科書の旅程保証を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
9	特別補償規程				事前に教科書の特別補償規程を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
10	問題演習（第1回～第9回分）				第1回～第9回までに行った授業内容を復習し、授業に臨んでください（1時間程度）。					
11	モデル宿泊約款				事前に教科書のモデル宿泊約款を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
12	JR旅客営業規則				事前に教科書のJR旅客営業規則を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
13	貸切バス約款				事前に教科書の貸切バス約款を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
14	フェリー標準運送約款				事前に教科書のフェリー標準約款を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。					
15	問題演習（第11回～第14回分）				第11回～第14回までに行った授業内容を復習し、授業に臨んでください（1時間程度）。					
教科書	「旅行業務取扱管理者試験 標準テキスト 2 旅行業法・約款 2025年対策」資格の大原 旅行業務取扱管理者講座 編著、大原出版 「旅行業務取扱管理者試験 標準トレーニング問題集2 旅行業法・約款 2025年対策」資格の大原 旅行業務取扱管理者講座 編著、大原出版									
参考文献	必要に応じて指示する。									
備考	本科目は国内旅行業務取扱管理者試験、地域限定旅行業務取扱管理者試験の受験科目の1つである「旅行業約款」についても対応する。 1. 「地域限定旅行業務取扱管理者試験」「国内旅行業務取扱管理者試験」の受験予定者は「旅行業法」「国内運賃・旅費計算」を併せて受講するとよい。 2. 受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-16				
	●	●								
科目名	国内運賃・旅費計算				単位認定者	佐藤 美輪		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数			15 回			
授業の概要	旅行実務の中心となる運賃計算・旅費について学ぶ。具体的にはJRの運賃料金計算を主とし、他にも宿泊料金や貸切バス、フェリーの運賃・料金の構成等を理解し、旅行業務に関する実務能力を修得する。									
到達目標	旅行実務で使われるJR、フェリー会社、貸切バス等の運賃料金計算の仕組みが理解できるようになる。									
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切にしてほしい。また、授業時間外においても講義内容の復習や問題演習も積極的に行ってほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	旅客営業規則 旅客の年齢区分 JR運賃計算① 運賃計算の基礎					事前に教科書の旅客営業規則を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）				
2	JR運賃計算② 通過連絡運輸の取扱い・連続運賃計算・運賃計算の特例					事前に教科書の通過連絡運輸の取り扱い、連続運賃計算、運賃計算の特例を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）				
3	JR運賃計算③ 割引運賃					事前に教科書の割引運賃を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）				
4	JR料金計算① 料金計算の基礎・グリーン料金・寝台料金					事前に教科書の料金計算の基礎、グリーン料金、寝台料金を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）				
5	JR料金計算② 新幹線との乗継割引					事前に教科書の新幹線との乗継割引を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）				
6	JR料金計算③ 新幹線・在来線通し計算					事前に教科書の新幹線・在来線通し計算を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）				
7	JR料金計算④ 東海道・山陽・九州新幹線					事前に教科書の東海道・山陽・九州新幹線を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）				
8	JR料金計算⑤ 東北・北陸・北海道新幹線					事前に教科書の東北・北陸・北海道新幹線を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）				
9	問題演習（第1回～第8回分）					第1回～第8回までに行った授業内容を復習し、授業に臨んでください。（1時間程度）				
10	JRその他					事前に教科書のJRその他を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）				
11	宿泊料金計算					事前に教科書の宿泊料金計算を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）				
12	貸切バス運賃・料金計算					事前に教科書の貸切バス運賃・料金計算を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）				
13	フェリー運賃・料金計算					事前に教科書のフェリー運賃・料金計算を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）				
14	問題演習（第10回～第13回分）					第10回～第13回までに行った授業内容を復習し、授業に臨んでください。（1時間程度）				
15	JRを利用した旅行プラン作成									
教科書	「旅行業務取扱管理者試験 標準テキスト3 国内旅行実務 2025年対策」資格の大原 旅行業務取扱管理者講座編著，大原出版 「旅行業務取扱管理者試験 標準トレーニング問題集3 国内旅行実務 2025年対策」資格の大原 旅行業務取扱管理者講座編著，大原出版									
参考文献	必要に応じて指示する。									
備考	本科目は国内旅行業務取扱管理者試験，地域限定旅行業務取扱管理者試験の受験科目の1つである「国内旅行実務」についても対応する。 1．「国内旅行業務取扱管理者試験」「地域限定旅行業務取扱管理者試験」の受験予定者は，「旅行業法」「旅行業約款」を併せて受講するとよい。 2．受講者の理解度により，講義順序や重点の置き方を変更することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-20				
	●	●								
科目名	旅行業務演習				単位認定者	佐藤 美輪		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	「旅行業法」「旅行業約款」「国内運賃・旅費計算」を基盤とし、旅行業務全般について広く学び理解を深める。特に法令への抵抗感を下げるため、具体的な事例や問題に多く触れ知識の定着を目指す。また、本科目は地域限定旅行業務取扱管理者試験の対策も兼ねている。									
到達目標	授業で触れる「旅行業法」「旅行業約款」「国内実務」と具体的な事例を結びつけ関連性を理解できるようになる。									
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切にだけでなく、授業時間外に講義内容の復習や問題演習の反復を積極的に行ってほしい。 また集中講義のため遅刻・欠席なく必ずやり通す意志をもって受講してもらいたい。									
回	授業計画					準備学修				
1	旅行業法： 総則・登録制度・営業保証金制度・標識					【事後】問題演習で間違った箇所（旅行業法）を復習する（3時間程度）。				
2	旅行業法： 旅行業務取扱管理者・旅行業務取扱料金・旅程管理									
3	旅行業法： 取引条件の説明と契約書面の交付・外務員・受託契約									
4	旅行業法： 広告表示等誇大広告の禁止・禁止行為・旅行者代理業					【事後】問題演習で間違った箇所（旅行業法・旅行業約款）を復習する（3時間程度）。				
5	旅行業法： 登録の取り消し等・旅行サービス手配業・旅行業協会									
6	旅行業約款： 総則・契約の成立・契約の変更・旅行者の解除権									
7	旅行業約款： 旅行者の解除権・団体・グループ・旅程管理					【事後】問題演習で間違った箇所（旅行業約款）を復習する（3時間程度）。				
8	旅行業約款： 責任・相談契約・旅程保証・特別補償規程									
9	旅行業約款： モデル宿泊約款・JR営業規則									
10	旅行業約款： 貸切バス約款・フェリー標準運送約款					【事後】問題演習で間違った箇所（旅行業約款・国内旅行実務）を復習する（3時間程度）。				
11	国内旅行実務：JR運賃計算									
12	国内旅行実務：JR料金									
13	国内旅行実務：宿泊料金計算					【事後】問題演習で間違った箇所（国内旅行実務）を復習する（3時間程度）。				
14	国内旅行実務：貸切バス運賃・料金計算									
15	国内旅行実務：フェリー運賃・料金計算									
教科書	「旅行業務取扱管理者試験 標準テキスト2 旅行業法・約款 2025年対策」資格の大原 旅行業務取扱管理者講座編著、大原出版 「旅行業務取扱管理者試験 標準テキスト3 国内旅行実務 2025年対策」資格の大原 旅行業務取扱管理者講座編著、大原出版									
参考文献	必要に応じて紹介する。									
備考	本科目は集中講義で実施し、国内旅行業務取扱管理者試験、地域限定旅行業務取扱管理者試験の対策を兼ねている。 1. 「国内旅行業務取扱管理者試験」「地域限定旅行業務取扱管理者試験」の受験予定者は「旅行業法」「旅行業約款」「国内運賃・旅費計算」を併せて受講するとよい。 2. 授業毎問題演習を多く実施し、次回までの課題を提示する。次回以降授業にフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-23				
		●			●					
科目名	旅程管理				単位 認定者	堤 博史		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目では旅程管理者（ツアーコンダクター）の業務について座学と実習により理解を深める。旅程管理は旅行商品の最終段階として捉えられ、旅程管理者のみならず消費者（旅行者）にとっても非常に重要である。具体的には国内旅行に関する旅程管理業務の概説、および当該業務の実施に関して必要不可欠な各種サービス提供契約と関係法令等についての概説、さらには実際の添乗実習などを中心に行い、当該業務への理解を深め、円滑にツアーを実施できる能力を養う。									
到達目標	旅程管理者（ツアーコンダクター）の業務について理解を深め円滑なツアーを実施できるようにする。国内旅程管理主任者の公的資格を取得するために必要なレベルの知識を身につけることができる。									
学修者への期待等	限られた講義時間の中で全員の国内旅程管理者（公的資格）の修了を目指す。集中して受講してほしい。修了した者には、添乗実習を実施する。									
回	授業計画					準備学修				
1	日本の旅行業界の現状と将来性					本科目は集中講義のため、以下のように準備して ること。（各回概ね1時間） ①国内旅行（訪日外国人旅行も含む）と海外旅行の 現状について調べておくこと。 ②講義前に教科書の該当するページを読んでおく こと。				
2	旅行業法（概要、総則他）									
3	旅行業法（旅行業等）									
4	標準旅行業約款（約款とは）									
5	標準旅行業約款（総則他）									
6	標準旅行業約款（契約、旅程管理、責任他）									
7	標準旅行業約款（旅程保証他）									
8	関係機関約款（国内旅客運送、一般貸切旅客自動車 運送、フェリー標準運送、モデル宿泊）									
9	国内旅行実務について									
10	添乗員の役割と心構え（添乗員とは、添乗員の役 割、添乗員の基本的要件）									
11	添乗員実務（各種書式等）									
12	添乗員実務（日帰りバスツアー、航空機利用ツ アー）									
13	添乗員実務（J R 利用ツアー、宿泊）									
14	関係機関の基礎知識									
15	観光地理									
教科書	「旅程管理主任者資格取得講座テキスト（基礎・国内）」アクトレップ株式会社									
参考文献	必要に応じて指示する。									
備考	本科目は5日間の集中講義である。旅行業法と旅行業約款および旅行実務の講義後に修了テストを実施する。 本試験は、観光庁長官旅程管理登録研修機関第20号（アクトレップ株式会社）の協力を得て実施する。受験諸費用・修了証書・実習費用が、別途必要となる。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

総合旅行業務取扱管理者、観光庁登録の旅程管理講習資格を有する。
海外勤務を含め旅行業界に40年近く従事した経験から、旅行全般についてポイントや課題等を分かりやすく説明することができる。

学修成果						科目ナンバリング						
						TB-3-ECO-24						
		1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力						
		●	●									
科目名		韓国語会話Ⅰ				単位 認定者	李 美賢		評価の方法	試験 (レポート)	70	%
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位	授業内課題		20	%	
						授業時間数	30 時間	受講態度		10	%	
					授業形態	演習	授業回数	15 回				
授業の概要		本科目は、インバウンドにおいてもアウトバウンドにおいても日本にとって重要な隣国である韓国の言語について、基本的な会話能力の向上を目指す。すなわち日常的な状況で基本的な双方向のコミュニケーションを行いうる程度の基礎的な言語運用能力を養う。そのために必要な語彙・文法・背景となる文化などの講義を交えながら、東アジア圏の有力言語である韓国語の会話能力の獲得・向上を目指す。										
到達目標		韓国語の文字であるハングルの読み方、書き方ができるようになる。基礎的な韓国語の能力（文法、発音）を身につけ、簡単な日常会話ができるようになる。										
学修者への期待等		毎回の学修内容について必ず復習しておくこと。本講では参加型授業を目指しているため、積極的に授業に参加し、発言することが望ましい。										
回	授業計画					準備学修						
1	授業ガイダンスー韓国の言語と文化について					アンケート実施-受講する理由を考えておいてください。						
2	第1課 文字と発音1 ・母音（1）					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること（概ね60分）						
3	第1課 文字と発音1 ・子音（1） 鼻音・流音					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること（概ね60分）						
4	第1課 文字と発音1 ・複合母音（二重母音）					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること（概ね60分）						
5	第1課 文字と発音1 ・終声1（パッチム）					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること（概ね60分）						
6	第2課 文字と発音2 ・子音（2）平音 有声音化・連音化					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること（概ね60分）						
7	第2課 文字と発音2 ・子音（2）平音 有声音化・連音化					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること（概ね60分）						
8	第3課 文字と発音3 ・子音（3）激音・農音・終声（2）					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること（概ね60分）						
9	第3課 実践と応用 文字と発音3 ・子音・激音・農音・終声（2）					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること（概ね60分）						
10	第4課 ①助詞：は ②疑問形：です、ですか ③指示詞：こそあど言葉					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること（概ね60分）						
11	第4課 実践と応用 ①助詞 ③指示詞					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること（概ね60分）						
12	第5課 ①助詞：～が ②疑問形：です、ですか ③否定文：～ではありません。					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること（概ね60分）						
13	第5課 実践と応用 ①助詞 ③否定文					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること（概ね60分）						
14	第6課 ①～に（場所・時間） ②あります・ありません ③位置名詞					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること（概ね60分）						
15	第6課 実践と応用 ①～に ②あります・ありません ③位置名詞					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること（概ね60分）						
教科書		「キムチ1 韓国語入門」山崎玲美奈著，2022. 1，朝日出版社										
参考文献		授業内で紹介する。										
備考		・教科書を中心に授業を行うので，必ず持参する。講義で参考資料として配る資料はファイルしておく。 ・提出された疑問については毎回フィードバックを行う。履修状況により，進度や順番が変更になる場合がある。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
						TB-3-ECO-32				
	●		●							
科目名	英会話基礎				単位 認定者	吉野 千乃		評価の 方法	授業内課題	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目では、日常生活の基本的でごく簡単な英語のやりとりができるようになることを目標に実践的な英会話を行う。ネイティブスピーカーの使用する表現や便利な会話表現などを中心に学修する。英語を話すことへの抵抗感を下げるため、ゲーム等を取り入れながら実施する。また、オンライン英会話を利用した英語話者との英会話も取り入れる。									
到達目標	大学生として身近な「自分のこと」が英語で話せるようになる。 授業とオンライン英会話レッスンの実践を通じ、基本的な文法と表現を身につけ、英語でのコミュニケーションに積極的に取り組めるようになる。オンラインレッスンはビデオ会話ソフトClassroomを利用する。									
学修者への期待等	実践を伴う授業であるため、ペアまたはグループで行う活動への積極的な姿勢を期待する。 オンライン英会話は事前にレッスンを予約して行うため、スケジュール管理を怠らないこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス/ポートフォリオ作成について オンライン英会話のアカウント作成と予約方法				【事前】 シラバスをよく読み、内容を理解しておく(概ね40分)。					
2	Speaking About Yourself ペア・ワーク (Small Talk)				【事前】 自己紹介の内容を考えておく(概ね40分)。					
3	What Do You Do ? オンライン英会話の事前学修				【事前】 オンライン英会話のレベルチェックを行う(概ね60分)。					
4	オンライン英会話① I make my bed.				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
5	オンライン英会話② Did you take a shower ?				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
6	オンライン英会話③ You're a good cook.				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
7	オンライン英会話④ Don't forget to clear the table.				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
8	オンライン英会話⑤ Who is that man?				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
9	オンライン英会話⑥ I can't stand it.				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
10	オンライン英会話⑦ I like swimming.				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
11	オンライン英会話⑧ I would like you to meet my mom				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
12	オンライン英会話⑨ Go to the supermarket.				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
13	オンライン英会話⑩ It's windy day today.				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
14	オンライン英会話 振り返り 会話スクリプト作成(グループワーク)				【事前】 学修した表現を用いて、グループで会話スクリプトを作成する(概ね60分)。					
15	会話スクリプト発表(グループワーク)				【事前】 グループで作成した会話スクリプトの練習をして、発表の準備を行う(概ね60分)。					
教科書	なし。オンラインレッスンのテキストは授業内で配布する									
参考文献	随時配布する。									
備考	授業にはテキスト、辞書(紙・電子辞書どちらでも可)、オンライン英会話テキスト保存用ファイル、記録用ノートを準備して臨むこと。提出された疑問については毎回フィードバックを行う。履修状況により、進度や順番が変更になる場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

						科目ナンバリング				
						TB-3-ECO-39				
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力					
		●	●							
科目名	英会話応用				単位 認定者	吉野 千乃		評価の方法	授業内課題	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	本科目では、これまでに学修した英語の知識を活用し、趣味などの身近な話題や、様々な社会問題について、自分の意見をわかりやすい英語で伝える力を身につけることを目的とする。また、オンライン英会話を利用した英語話者との会話を通じ、英語での思考力や表現力を高め、自分の考えをためらうことなく伝えられるようになることを目指す。									
到達目標	様々なトピックについて英語で自分の意見をまとめて、相手に伝えられるようになる。 オンライン英会話を通して、実践的コミュニケーション能力を向上させる。									
学修者への期待等	実践を伴う授業であるため、受け身ではない積極的な姿勢を期待する。 ビデオ会話ソフトClassroomを利用するオンライン英会話は予約制のため、日時・時間の変更はできない。また受講者の都合による欠席・遅刻のないように自己管理を怠らないこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス/ポートフォリオ作成について オンライン英会話のアカウント作成と予約方法				【事前】 シラバスをよく読み、内容を理解しておく(概ね40分)。					
2	レベルチェック、ブレイクアウトルームでの会話練習				【事前】 オンライン英会話のレベルチェックを行う(概ね60分)。					
3	Communication/Emotion オンライン英会話の事前学修				【事前】 オンライン英会話のテキストを通読し、語彙の確認を行う(概ね60分)。					
4	オンライン英会話① Feel free to use the TV.				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
5	オンライン英会話② Looks delicious.				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
6	オンライン英会話③ Let me do the dishes.				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
7	オンライン英会話④ He looks like his father.				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
8	オンライン英会話⑤ Teach me how to play the guitar.				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
9	オンライン英会話⑥ The TV is too loud.				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
10	オンライン英会話⑦ Turn down the TV.				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
11	オンライン英会話⑧ Don't be sad.				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
12	オンライン英会話⑨ Why don't we eat out?				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
13	オンライン英会話⑩ Take me to the mall.				【事前】 オンライン英会話：新出表現を確認する(概ね40分)。 【事後】 レッスン記録(Portfolio)を作成する(概ね40分)。					
14	オンライン英会話 振り返り 会話スクリプト作成(グループワーク)				【事前】 学修した表現を用いて、グループで会話スクリプトを作成する(概ね60分)。					
15	会話スクリプト発表(グループワーク)				【事前】 グループで作成した会話スクリプトの練習をして、発表の準備を行う(概ね60分)。					
教科書	なし。オンラインレッスンのテキストは授業内で配布する									
参考文献	随時配布する。									
備考	授業には辞書(紙・電子辞書どちらでも可)、オンライン英会話テキスト保存用ファイル、記録用ノートを準備して臨むこと。提出された疑問については毎回フィードバックを行う。履修状況により、進度や順番が変更になる場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

						科目ナンバリング				
						TB-3-ECO-40				
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力					
		●								
科目名	観光英語				単位 認定者	吉野 千乃		評価 の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	観光の現場では、日常英会話のみならず、特定の用語や表現等の理解が必要となる。本科目では、日常英会話力の向上と観光現場で必要となる用語・表現等の修得をめざす。空港やホテルなどの海外旅行で接する会話場面を想定し、旅行者としてまた観光業従事者として必要となる表現を学修する。									
到達目標	観光分野に関する様々な語彙、表現を身につけて、基本的な応対が英語でできるようになる。									
学修者への期待等	事前に指定箇所の予習を行い授業に臨むこと、授業外でも積極的に英語学修に取り組むことを期待する。									
回	授業計画					準備学修				
1	観光英語の授業の進め方について/Unit 1 Travel									
2	Unit 2 Jobs and People 空港業務の名称を学修する					【事前】Unit 2 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。				
3	Unit 3 Getting on the Plane 飛行機搭乗時の表現を学修する					【事前】Unit 3 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。				
4	Unit 4 Immigrations and Customs 出入国管理と税関で使用する表現を学修する					【事前】Unit 4 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。				
5	Unit 5 At the Airport 空港のフロアマップに用いられている表現を学修する					【事前】Unit 5 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。				
6	Unit 6 Hotel (Accommodations) ホテルの予約、チェックインで使用する表現を学修する					【事前】Unit 6 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。				
7	Unit 7 Restaurant レストランやファストフード店で使用する表現を学修する					【事前】Unit 7 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。				
8	Unit 8 Sightseeing 都市観光で使用する表現を学修する					【事前】Unit 8 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。				
9	Unit 9 Shopping ショッピングで使用する表現を学修する					【事前】Unit 9 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。				
10	Unit 10 Transportation 公共交通機関で使用する表現を学修する					【事前】Unit 10 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。				
11	Unit 11 Problems and Complains 問題が生じたときの対応を学修する					【事前】Unit 11 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。				
12	Additional Unit: Traveling in Japan ① 空港から旅館への移動、チェックイン、入浴方法					【事前】テキスト指定個所の不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。				
13	Additional Unit: Traveling in Japan ② 旅館での食事、おみやげ、観光地					【事前】テキスト指定個所の不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく(40分程度)。				
14	観光英語検定3級 問題演習① 過去問題(第47回実施分を予定)					【事後】過去問題の誤答した箇所を復習しておく(概ね40分)。				
15	観光英語検定3級 問題演習② 過去問題(第48回実施分を予定)					【事後】過去問題の誤答した箇所を復習しておく(概ね40分)。				
教科書	「ベーシック観光英語」観光英検センター編著(2014)、三修社									
参考文献	資料は随時配信する。									
備考	本科目はオンデマンド授業(動画配信)で実施するため、疑問などはReactionとして提出すること。次の回にフィードバックを行う。履修者の状況により、進度や内容に変更が生じる場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-31					
	●	●									
科目名	TOEIC演習				単位 認定者	尾形 まゆみ		評価の方法	試験（筆記）	60	%
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30	%
						授業時間数	30 時間		受講態度	10	%
				授業形態	演習	授業回数	15 回				
授業の概要	英語力の指標としてTOEIC®が利用されることが多い。本科目では、TOEIC®の問題を利用しながら、リスニング、リーディング力の向上を図る。TOEIC®はビジネス場面を題材としているため、ビジネス英会話等で学修した内容を復習し、定着させることにもつながる。また、TOEIC®を受験する際に有用なテストテイキングの方法も指導し、練習する。										
到達目標	学生は授業中の様々な試験対策問題を通し、基礎的な英語力とテストスキルを身につけ、TOEICのスコアを伸ばすことで、観光産業で活躍できるようになる。										
学修者への期待等	TOEIC L&Rは年10回（1・3・4・5・6・7・9・10・11・12月）実施しているので、自分で申し込み、勉強の成果を確認してください。（試験の2ヶ月前に締め切りになるので、計画的に受験するように）就職活動に使うためには1年の後期にある程度のスコアを取得する必要があります。特にエアラインを希望する学生には必要不可欠です。										
回	授業計画					準備学修					
1	オリエンテーション(履修の心得、授業の進め方、評価の基準、TOEICテストについての説明などを行う。)					シラバスをよく読み、授業内容について理解しておく。（1時間）					
2	Unit1: Entertainment (Listening)					映画や音楽などの娯楽に関する単語・リスニングセクションの予習（1時間）					
3	Unit1: Entertainment (Reading)					文法・映画や音楽などの娯楽に関するリーディングセクションの予習（1時間）					
4	Unit2 :Personnel (Listening)					求人広告や社内人事に関する単語・リスニングセクションの予習（1時間）					
5	Unit2 :Personnel (Reading)					文法・求人広告や社内人事に関するリーディングセクションの予習（1時間）					
6	Unit3: Office Work & Supplies (Listening)					オフィス業務や備品に関する単語・リスニングセクションの予習（1時間）					
7	Unit3: Office Work & Supplies (Reading)					文法・オフィス業務や備品に関するリーディングセクションの予習（1時間）					
8	Unit4: Office Messages (Listening)					電話やEメールなどのオフィスメッセージに関する単語・リスニングセクションの予習（1時間）					
9	Unit4: Office Messages (Reading)					文法・電話やEメールなどのオフィスメッセージに関するリーディングセクションの予習（1時間）					
10	Unit5: Eating Out (Listening)					ランチやパーティーなどの外食に関する単語・リスニングセクションの予習（1時間）					
11	Unit5: Eating Out (Reading)					文法・ランチやパーティーなどの外食に関する単語・長文リーディングセクションの予習（1時間）					
12	Unit6: Technology (Listening)					コンピューターなどの科学技術に関する単語・リスニングセクションの予習（1時間）					
13	Unit6: Technology (Reading)					文法・コンピューターなどの科学技術に関するリーディングセクションの予習（1時間）					
14	Unit7: Research & Merchandise Development (Listening)					調査研究や商品開発に関する単語・リスニングセクションの予習（1時間）					
15	Unit7: Research & Merchandise Development (Reading)					文法・調査研究や商品開発に関するリーディングセクションの予習（1時間）					
教科書	「テーマ別TOEIC L&R TEST 総合演習」成美堂、SUCCESSFUL STEPS FOR THE TOEIC L&R TEST -New Edition-										
参考文献	必要に応じて講義中に適宜指示します。										
備考	必ず毎回授業の学習箇所の問題に解答して授業に臨むこと。授業中に質問に答えられないと予習をしていないと見なされ、授業態度評価に影響します。各Unit修了毎に前UnitのReview Testを行うので、重要語句や文法の要点及びリスニング等の復習をしておくこと。シラバスの内容は学生の熟達度、受講生数、授業の進行状況により変更する場合がある。授業内課題はその都度、授業内にてフィードバックを行う。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング TB-3-ECO-33					
		●	●								
科目名	観光インターンシップ				単位 認定者	小里 千寿 佐藤 美輪 鎌田 貢治		評価の 方法	受講態度	30	%
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		報告書	25	%
				授業形態	実習	授業時間数	45 時間		受入先の評価	25	%
						授業回数	集中		発表	20	%
授業の概要	旅行・ホテル・航空・ブライダルなど、観光ビジネスに関する機関において、おおむね1週間の基本的実務に関する実習を行う。 それぞれの機関における特徴を理解し、観光ビジネスに関する業務を行うために必要な知識と実務能力を身につける。										
到達目標											
学修者への 期待等	①インターンシップ科目の履修方法は通常の科目とは違うので注意すること。 ②自ら積極的に情報を収集し、インターンシップ先を開拓する努力をすること。 ③インターンシップ先では、勤務時間などの諸規則をしっかりと守り、青葉生として恥ずかしくない振る舞いをする こと。										
授業計画											
1. 実習期間 受入先企業により異なる。											
2. 実習計画 (1) 事前研修（集中講義） 第1回 インターンシップの概要と目的、成績評価の方法 第2回 インターンシップ心得について 第3回 インターンシップエントリーシート作成方法について 第4回 インターンシップの身だしなみ・準備について 第5回 インターンシップに向けた最終確認 (2) インターンシップ（職場実習） 原則として、以下の全てを満たすことを条件とする。 ①実習時間数が概ね「35時間以上」であること。 ②当該年度内に実施されるインターンシップであること ③インターンシップ先から以下の評価協力について承諾を得られること ・「インターンシップ活動報告書」にサインまたは押印 ・「インターンシップ評価表」にインターンシップ中の評価を記入 (注1) 以上の書類は実習前に学生および受入先企業に配布 (注2) 海外のインターンシップ先を個人で開拓した場合は、日本語で上記書 類を作成してもらうこと (注3) 旅行会社の海外インターンシップツアーを利用した場合は、旅行会社 指定の書類や成果物を 提出すること ④「学生教育研究災害傷害保険」に加入していること (3) 「インターンシップ活動報告書」および「インターンシップ評価表」の提出 (4) インターンシップ報告会での発表 3. 実習目標 就職活動前にインターンシップを経験することで、組織活動の仕組みを知り、社会人と しての責任を自覚し、観光ビジネス 業界で働くことの意義について考え、進路選択の幅を 広げることができるようになる。 【注意事項】 ①「事前研修」や「インターンシップ報告会」の日程については、後日連絡する。 ②「事前研修」と事後の「インターンシップ報告会」で20%を超えて欠席した場合、単位 認定は行わない。 ③インターンシップ中に個人的な事由により欠勤し実習時間が35時間に満たなかった場 合、単位認定を行わない。（忌引き等やむを得ない事情については、担当教員が本学の公認 欠席規程に準じて判断する） ④その他、受入先が実習継続困難と判断し、中止に至った場合、単位認定を行わない。 ⑤企業から直接短大にインターンシップ受入の案内があった場合は掲示等で連絡するが、 年度により、職種や受入人数にばらつきがあるので、早めに自己開拓の努力をすること。 ⑥他科目の集中講座の日程と実施時期が重なることもあるので、インターンシップ先を選 ぶ際には注意すること。											
教科書	適宜、レジュメを配布する。										
参考文献	必要に応じて指示										
備考											

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-34				
		●	●							
科目名	海外研修				単位認定者	吉野 千乃 佐藤 美輪		評価の方法	授業内課題	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		受講態度 (事前, 事後)	20 %
						授業時間数	30 時間		報告書, 発表会	20 %
					授業形態	演習	授業回数		集中	
授業の概要	海外での実地の研修, あるいは遠隔方式による研修を通して様々なシーンにおける外国語の重要性を実感し, 今後の外国語学習のモチベーションとするとともに, 海外の多様な文化に触れ, 文化間のコミュニケーションについて理解を深める。さらに「観光」と「外国語」という親和性の高い要素を総合して自己のスキルアップにつながる基本的な知見を獲得する。									
学修者への期待等	①海外研修の履修方法は通常の科目とは違うので注意すること。 ②渡航の準備は各自で責任を持って進めること。 ③事前学修・事後学修も研修の要件となることを理解し, 欠席をしないこと。 ④短い研修期間を有意義に過ごすため, 日本での準備をしっかりと行うこと。 ⑤現地での学修・生活の記録をつけ, 実りある研修生活を送ることを期待する。									
授業計画						準備学修				
1. 研修先・研修期間 4月ガイダンス時(予定)に説明される。 2. 授業計画 現地での外国後学修と観光事情についての学修を学びの中心とする。 (1) 事前学修(学内) 第1回 海外研修の目的 第2回 海外研修のための具体的な準備 第3回 海外研修の自己目標設定とグループ内発表 (2) 海外研修(現地に) 現地で英語や, 現地で使用されているその他の言語を学修する。 現地の観光事情について, 空港や宿泊施設等の視察内容をまとめ, 学びを深める。 (ホームステイの場合) ホストファミリーと交流し, 異文化理解やコミュニケーション力の向上に努める。 (3) 事後学修(学内) 第4回 自己目標に対する研修の振り返り 報告書作成について 第5回 海外研修報告会 3. 目標 ①外国での生活と学修により, 自身の外国語コミュニケーション力を体験的に理解し, 今後の学修に活かす。 ②海外の人々との交流により, 異文化コミュニケーションの楽しさを知る。 ③外国での観光視察により, 「観光」への知見を広め, グローバル時代の観光について考察する。 【注意事項】 ① 学内実施の「事前学修」, 「事後学修」の日程は, 学内の掲示板で連絡する。 ② 現地での研修期間中に個人的な事由により現地授業や視察に出席できなかった場合, 原則として単位認定を行わない。 ③ 渡航前に現地研修が何らかの事情により中止に至った場合, 事前学修が行われていても, 単位認定を行わない。						・自主研修時に訪れる施設の詳細や, そこに至るまでの交通手段, 所要時間などをグループ毎に調査しておく(概ね2時間)。 ・視察を行う施設についての基本的情報をインターネットで調査し, 疑問に感じたことや検証してみたい事項をまとめておく。 施設への質問事項については事前に英語に直しておく(概ね5時間)。				
教科書	適宜, レジュメを配布する。									
参考文献	必要に応じて指示する。									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要，実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-01				
	●	●	●	●	●					
科目名	基礎キャリア形成ゼミ				単位認定者	小里 千寿		評価の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	自身のキャリアを形成することの意味を主体的に捉え、これからの社会生活をどのように充実させていくのかを考えられるようにする。また、最近の社会や職業の動向について理解を深め、働く意味について考え、自らの将来をイメージできるようにするなど、職業意識を涵養していく。さらには、自分自身がイメージした将来の姿に到達するために必要な計画をたてられるようにする。									
到達目標	①キャリアとは何かを自分ごととして理解する。 ②変化と多様性の時代におけるキャリア設計について理解する。 ③自分のキャリアプランを実現するためにすべき事柄を導き出すことができる。									
学修者への期待等	充実した大学生活を送りながら将来社会人となることを意識して必要な力の養成を目指しているため、グループワークや実践家を招いたフリートークをととして自分の意見を積極的に発言することを期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス，大学生活とキャリア					【事後】自分が2年間で目指すものを書き出してみる（30分程度）。				
2	「働くこと」の意味を考える					【事後】グループワークでの自分の役割の反省を行う（30分程度）。				
3	就職サイトへの登録と活用法					【事後】就職サイトで自己分析のページを利用してみる（1時間程度）。				
4	キャリアについての考え方					【事前】自分自身のキャリアの定義を考えておく（30分程度）。				
5	キャリアに対する思い込みを排除する					【事前】自分自身のキャリアの定義を考えておく（30分程度）。				
6	「働き方」について考える					【事前】理想のロールモデルについて考えておく（30分程度）。				
7	新卒に求められる力とは					【事前】なぜ企業は新卒を採用するのだろうか，自分の考えを箇条書きにしたメモを授業に持参する（30分程度）。				
8	社会人のキャリアヒストリーを聞く（その1）					【事後】講話を聴いての感想文を800字で書いて提出する（授業内課題）（1時間程度）。				
9	自己分析とは何か（自己分析をおこなう理由）					【事後】授業で配布されたワークシートを完成させる（1時間程度）。				
10	自己分析とは何か（様々な自己分析の方法）					【事後】授業で配布されたワークシートを完成させる（1時間程度）。				
11	社会人基礎力と自分に不足するスキルを知る					【事後】授業で配布されたワークシートを完成させる（1時間程度）。				
12	インターンシップと採用プロセス					【事後】就職サイトでインターンシップ情報を検索する（30分程度）。				
13	社会人のキャリアヒストリーを聞く（その2）					【事後】講話を聴いての感想文を800字で書いて提出する（授業内課題）（1時間程度）。				
14	自己分析から自己PRへ					【事後】自己PRを250字でまとめて提出する（1時間程度）。				
15	ふりかえり，キャリア形成と就活の実態					【事後】Afterに記入し，後期の取り組みを計画する（30分程度）。				
教科書	必要に応じて適宜配布する。									
参考文献	「改訂版キャリア形成1－社会・集団・個人の役割を学ぶ」東海大学キャリア就職センター 東海大学現代教養センター編									
備考	・本講では参加型授業を目指しているため，積極的に授業に参加し，発言することが望ましい。 ・受講者の理解を促すために，講義の内容および計画を変更する場合がある。変更になった場合は事前に連絡する。 ・授業への疑問等については，次回以降授業にフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要，実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-02				
	●	●	●	●	●					
科目名	実践キャリア形成ゼミ				単位 認定者	小里 千寿		評価の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題	30 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	「基礎キャリア形成ゼミ」で学んだ基礎知識を踏まえ、様々な職種や業種について理解する。 自分自身を客観的に分析できるようになるとともに、履歴書・自己紹介文・エントリーシートなどの書き方、インターネットを活用した情報収集の方法などを広く学ぶ。									
到達目標	①将来やりたいこと、できることを見極めることによって職業意識を高める。 ②社会人として働く意味や将来就きたい職業を具体的にイメージできるようになる。 ③ライフステージに沿ったキャリアプランを立てることができる。									
学修者への期待等	充実した大学生活を送りながら将来社会人となることを意識して必要な力の養成を目指しているため、グループワークやグループディスカッションをとおして自分の意見を積極的に発言することを期待する。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス…「就職ノート」を作る					【事後】「就職ノート」記入できる事項をピックアップしておく（30分程度）。				
2	就職ガイダンスⅠ…就職活動キックオフガイダンス、支援センターの利用方法、求職票の作成就活への準備と心得					【事後】学んだポイントを「就職ノート」にまとめておく（1時間程度）。				
3	就職サイトの活用法					【事後】就職サイトの「先輩の体験談」を視聴する（1時間程度）。				
4	業界研究とは					【事後】学んだポイントを「就職ノート」にまとめておく（1時間程度）。				
5	グループワーク①…様々な業界を理解する					【事前】興味のある業界を2～3ピックアップし、おおまかに調べておく（1時間程度）。				
6	企業研究のやり方					【事前】志望する企業について2～3決定し、おおまかに調べておく（1時間程度）。				
7	グループワーク②…企業研究					【事後】志望する企業をいくつかピックアップしておく（1時間程度）。				
8	就職ガイダンスⅢ…履歴書・エントリーシートの書き方					【事後】自己PRと学生時代に力を入れたことを履歴書の欄に記入する（1時間程度）。				
9	グループワーク③…わかりやすい履歴書・エントリーシートについて、他者の意見を聞いて理解する					【事前】志望する業界・企業のエントリーシートを書いてみる（1時間程度）。				
10	グループワーク④…自分の調べた企業を発表する					【事前】志望する企業をいくつかピックアップして調べておく（1時間程度）。				
11	就活マナー講座…第一印象の大切さ、社会人としてマナーリクルートスーツの着こなし方					【事後】学んだポイントを「就職ノート」にまとめておく（1時間程度）。				
12	就職体験報告会…2年生から実際の就職活動体験を聞く					【事後】学んだポイントを「就職ノート」にまとめておく（1時間程度）。				
13	面接セミナー…面接の種類、面接のポイント、面接練習					【事後】学んだポイントを「就職ノート」にまとめておく（1時間程度）。				
14	グループによる企業研究報告発表					【事後】各グループへのピアレビューをワークシートにまとめて提出する（1時間程度）。				
15	講座のまとめと総括：社会人とキャリア形成					【事前】志望動機を含めた履歴書を書いて授業に持参する（授業内課題）。 【事後】教科書のAfterに記入し、自分の振り返りをする（30分程度）。				
教科書	必要に応じて、授業において配布する。									
参考文献	「改訂版キャリア形成2ー業界研究とセルフマネジメント」東海大学現代教養センター編、東海大学キャリア就職センター									
備考	ゲスト講師や学生総合支援センターの協力体制、受講者の理解度等により、講義の順番や内容を変えることがある。授業への疑問等については、次回以降授業にフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-04				
	●		●							
科目名	初年次ゼミ				単位 認定者	高野 宏輝 小里 千寿 吉野 千乃 佐藤 美輪 鎌田 貢治		評価 の方法	試験 (レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	初学者が大学教育を学ぶにあたって必要とされる基礎力を養う。2年間の短期大学での学びを有意義なものとするための基礎的なスキルを身につけ、大学生生活の様々な場面で活用できるようになることを目的とする。 また、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、コミュニケーションスキルの向上を目指す。									
到達目標	大学新入生にとって、授業を中心とした大学生活で身につけておくべきさまざまなスキルを修得し、大学生活におけるいろいろなシーンで活用できるようになる。									
学修者への期待等	学修内容により、1年生全員が合同で受講する場合とゼミ別に受講する場合がある。事前にUNIPA等で連絡するので、欠席や遅刻をせず、どちらにも積極的に参加すること。 また、各ゼミの演習では、担当教員の指示に従うこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス、大学生活を始めるにあたって					【事前】学生便覧、シラバスをよく読んでおくこと（概ね50分）。				
2	スタディースキル① 基本的なITスキル					【事前】PCの基本的操作、ネットワーク接続方法などを確認しておくこと（概ね50分）。				
3	スタディースキル② 大学生活の基本的マナー					【事前】日常で目にするEメール文について、改めて見直しをしておくこと（概ね50分）。				
4	スタディースキル③ 図書館の活用方法					【事前】これまで自分が行ってきた資料活用方法について、見直しをしておくこと（概ね50分）。				
5	スタディースキル④ホスピタリティについて考える（ゲストスピーカー）					【事前】「ホスピタリティ」という言葉の広義の意味について考えておくこと（概ね50分）。				
6	スタディースキル⑤ 自分の適性を知る:ジェネリックスキル									
7										
8	フィールドワーク① 調査の予備知識									
9	フィールドワーク② 課題設定（グループワーク）									
10	フィールドワーク③ 調査準備（グループワーク）									
11	フィールドワーク③ 現地調査（グループワーク）									
12										
12	フィールドワーク④ 調査のまとめと発表準備（グループワーク）					【事前】調査データ、写真や動画などをよく整理しておくこと（概ね50分）。				
13	フィールドワーク⑤ ゼミ内発表					【事前】グループで発表原稿、スライド送り作業などの準備をしておくこと（概ね60分）。				
14	フィールドワーク⑥ 全体発表					【事前】フィードバックを受け、発表のブラッシュアップを行っておくこと（概ね60分）。				
15	レポート作成の技術					【事前】事前にアップロードされる授業資料を読んで、理解しておくこと（概ね30分）。				
教科書	特に指定しないが、参考資料を適宜配布する									
参考文献	授業中に各教員から指示する。									
備考	授業の順番や進行は、受講者の理解度等によって変更することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング TB-4-SEM-07				
	●	●								
科目名	観光研修Ⅰ				単位 認定者	高野 宏輝 小里 千寿 吉野 千乃 佐藤 美輪 鎌田 貢治		評価 の方法	授業内課題等	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	「観光研修Ⅰ」は学年ごと、あるいは学科全体で実施される学外研修、フィールドワーク、観光施設の見学・視察・体験などを通じた学修を行う。それら学外での学修活動だけではなく、学内における事前学修、事後発表を通して観光に対するさらなる知見の獲得を行い、学修を深化させる。特に1年次では「観光」という事象について集団で学び合い、認識を深める「フィールドワーク入門」としての面も持ち、多角的に観光現象について学修を深める。									
到達目標	観光を学ぶ学生として、研修や体験で得た知識を今後の進路選択に活かせるようになる。事前研修、体験、事後発表という一連の流れの中で、自らの考えを明確に表現できるようになる。									
学修者への期待等	研修や体験は団体行動となることが多いため、1人1人が短大生としての自覚を持って行動してほしい。また、協調性と同時に積極性を持って研修に取り組む姿勢を期待する。									
回	授業計画					準備学修				
1	近隣施設見学：仙台国際空港					【事前】見学に向けて質問事項を考えておくこと（概ね40分）。				
2						【事後】施設見学の内容をまとめておくこと（概ね40分）。				
3	仙台国際空港:事後学修					【事前】見学時に感じた疑問などをまとめておくこと（概ね40分）。				
4	仙台市のインバウンド政策を知る（ゲストスピーカー）					【事前】東北地方のインバウンドに関する情報を調べておくこと（概ね50分）。				
5	仙台市のインバウンド政策を知る:事後学修					【事前】講話の内容について疑問に思ったことなどをまとめておくこと（概ね50分）。				
6	手話体験講座					【事前】観光業と手話の関りについて調査しておくこと（概ね1時間）。				
7	手話体験講座：事後学修					【事前】観光業で活用できる技能には、他にどのようなものがあるか考えておく（概ね1時間）。				
8	学外研修:事前学修					【事前】研修地について調査しておくこと（概ね50分）。				
9	学外研修					【事後】研修地で学んだこと、体験したこと、知ったことについての資料を整理しておくこと（概ね50分）。				
10										
11	学外研修:事後学修					【事後】学外研修の内容をまとめておくこと（概ね50分）。				
12	教育文化施設視察					【事前】施設に向けて質問事項を考えておくこと（概ね40分）。				
13										
14	教育文化施設視察：事後学修					【事後】施設見学の内容をまとめておくこと（概ね40分）。				
15	全体のまとめ					【事前】1年間の学修内容をまとめておくこと（概ね50分）。				
教科書	使用しない。									
参考文献	参考資料は随時配布する。									
備考	状況により順番や進度、内容に変更が生じる場合がある。研修をオンラインに変更して実施することがある。授業への疑問等については、次回以降授業にフィードバックを行う。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-09					
	●	●	●	●	●						
科目名	観光ゼミ I				単位 認定者	高野 宏輝		評 価 の 方 法	授業内課題等	80	%
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20	%
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間		
				授業回数			15 回				
授業の概要	「初年次ゼミ」（1年前期配当）で学んだ大学の学びの基礎を踏まえて、「観光ゼミI」では観光ビジネスの現場で必要とされるコミュニケーション能力の獲得と、課題を発見し解決する能力の育成を目指す。具体的には各教員の専門的分野を中心に行われる観光に関するゼミ活動の中から関心のあるゼミを選択し、ゼミ内で課題の発見や調査、解決、振り返りなどの活動を協力して行う中で、観察力、協調性、コミュニケーション力、課題解決力などの力を身につける。										
到達目標	①自分の強みを知り、自分らしい「リーダーシップ」を発揮し、チームの目標達成に貢献できるようにする。 ②「マーケティングマインド」を育成し、お客様に満足いただける仕事の重要性を理解できるようにする。 ③イベント（ツアー等）企画運営を経験し、計画立案能力や現場対応力の重要性を理解できるようにする。										
学修者への期待等	・イベント（ツアー等）の企画運営を行う。自分なりの強みを活かして、イベントの成功に貢献して欲しい。 ・グループディスカッションや自身が考えたことを発表する機会が与えられる。人の話を聴き、積極的に各自が発言することで、ゼミ活動の活性化に貢献して欲しい。 ・チーム活動が基本となる。全コマ出席する意思のある学生に参加して欲しい。										
回	授業計画					準備学修					
1	授業ガイダンス ゼミの進め方、自己紹介など										
2	チームビルディング チームメンバーの相互理解 グループワーク					【事前】自己紹介シートを作成する（1時間程度）					
3	「シェアド・リーダーシップ」とは？ 自分ができる「リーダーシップ行動」を考える 講義とグループワーク					【事前】①「シェアド・リーダーシップ」の動画を視聴し、感想をまとめる（1時間程度）②自分の「強み」を考えてくる（30分程度）					
4	イベント企画① イベント目標の検討 グループワーク					【事前】該当するイベント運営の準備を行う （各回 30分～1時間程度）					
5	イベント企画② イベント内容の決定 グループワーク										
6	イベント企画③ イベント計画立案 グループワーク										
7	イベント企画④ 運営マニュアル作成 グループワーク										
8	イベント企画⑤ 運営準備 グループワーク					【事後】振り返りレポートを提出する（30分程度）					
9	イベント実践① イベントの実施（2コマ連続）										
10											
11	イベント実践② イベントの実施（2コマ連続）										
12											
13	イベント実践③ イベントの実施（2コマ連続）										
14											
15	リーダーシップ行動振り返り まとめ（全体を振り返って）グループワーク					【事後】UNIPAより振り返り最終レポート作成し提出する（1時間程度）					
教科書	教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。										
参考文献	必要に応じて各講義中に紹介する。										
備考	・課題はUNIPA経由での提出を基本とし、教員評価の後に各学生へフィードバックされる。適宜参考資料をUNIPA内に掲載する。 ・グループワーク・チーム活動における情報共有にはMicrosoft Teamsを活用する。 ・受講者の要望、理解度等により、講義の順番や重点の置き方を変えることがある。 ・準備学修は、各講義の際に必要なに応じて個別に指示する。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

旅行会社で顧客に対するイベント企画提案、運営実践の経験がある。イベント業務管理士として、知識と実践に基づく学生指導を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-09				
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミ I				単位認定者	小里 千寿		評価の方法	試験 (レポート)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	10 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	「初年次ゼミ」（1年前期配当）で学んだ大学の学びの基礎を踏まえて、「観光ゼミI」では観光ビジネスの現場で必要とされるコミュニケーション能力の獲得と、課題を発見し解決する能力の育成を目指す。具体的には各教員の専門的分野を中心に行われる観光に関するゼミ活動の中から関心のあるゼミを選択し、ゼミ内で課題の発見や調査、解決、振り返りなどの活動を協力して行う中で、観察力、協調性、コミュニケーション力、課題解決力などの力を身につける。									
到達目標	①結婚にまつわる各種要素に関して学び、総合的な理解を得る。 ②結婚式場・相談所などのフィールドワークを通して当事者意識で「結婚」を理解できるようになる。 ③コミュニケーションスキルを身につけ、調べた事柄を相手に対し的確に伝えられるようになる。									
学修者への期待等	結婚式や披露宴、新婚旅行など「結婚」にまつわる各種準備について、自ら調べ自分の意見を持つことを期待する。グループワーク等を行うため、遅刻・欠席等をしないように注意すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス：自己紹介、ゼミの進め方					自己紹介で話す内容を考えてきてください（1時間程度）。				
2	自分が結婚するとしたら～ウェディングのトータルプラン					課題を事前に調べてきてください（1時間程度）。				
3	フィールドワーク準備 ＜調査場所の下調べ＞					フィールドワーク先について事前に調べてきてください（1時間程度）。				
4	フィールドワーク準備 ＜インタビュー項目の検討＞					インタビュー項目を事前に考えてきてください（30分程度）。				
5	フィールドワーク：関連施設の調査									
6										
7	フィールドワークの振り返り・まとめ					フィールドワークから得た内容をまとめておいてください（1時間程度）。				
8	報告書作成					報告会に向けて、報告資料を仕上げておいてください（1時間程度）。				
9	フィールドワーク報告会					報告会で得た知識をまとめておいてください（1時間程度）。				
10										
11	理想的なウェディング・プランの作成役割決め					～について調べてきてください（30分程度）。				
12	ウェディング・プラン作成					ウェディングのパンフレットから予習をしてきてください（30分程度）。				
13	ウェディング・プラン：中間報告会					中間報告会で指摘された箇所の修正をまとめておいてください（1時間程度）。				
14	ウェディング・プラン：中間報告を受けての修正					最終報告会に向けて、完成版を仕上げておいてください（1時間程度）。				
15	ウェディング・プラン：最終報告会 まとめ									
教科書	使用しない。適宜、レジュメを配布する。									
参考文献	授業中に適宜紹介する。									
備考	授業についての疑問や課題等については、次回以降授業でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

披露宴の司会者として1,000本以上の経験を持つ

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●	●	●	●	●	TB-4-SEM-09				
科目名	観光ゼミⅠ				単位 認定者	吉野 千乃		評価 の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	「初年次ゼミ」（1年前期配当）で学んだ大学の学びの基礎を踏まえて、「観光ゼミⅠ」では観光ビジネスの現場で必要とされるコミュニケーション能力の獲得と、課題を発見し解決する能力の育成を目指す。具体的には各教員の専門的分野を中心に行われる観光に関するゼミ活動の中から関心のあるゼミを選択し、ゼミ内で課題の発見や調査、解決、振り返りなどの活動を協力して行う中で、観察力、協調性、コミュニケーション力、課題解決力などの力を身につける。									
到達目標	我々に身近な地元のスポットや、若者に人気のサブカルチャーを観光資源として活用するには、どのような工夫が必要であるか。調査を通じ、仙台市内に滞在するインバウンドに向け情報を英語で発信できるようになることを目指す。									
学修者への期待等	日本の文化を紹介することや、異文化理解に関心を持つ者、英語を用いて基本的な情報収集と発信を行うことに意欲のある者の履修を期待する。また、グループワークには積極的な姿勢で臨むこと。無断欠席の無いよう注意すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス： 演習の進め方，自己紹介，研究テーマの選定について									
2	「文化」とは何か:海外で人気のある日本文化					【事前】「文化」について，自分の考えをまとめておく(概ね40分)。				
3	インバウンドに向けて仙台を紹介する①計画					【事前】自分が紹介したい仙台の名所はどこか，考えて来る(概ね50分)。				
4	インバウンドに向けて仙台を紹介する②事前調査					【事前】インターネット等で情報を収集し，現地調査の計画を作成する(概ね50分)。				
5	インバウンドに向けて仙台を紹介する③現地調査					【事前】現地調査のポイントをグループで話し合い決定しておく(概ね50分)。				
6										
7	インバウンドに向けて仙台を紹介する④調査のまとめ					【事前】現地調査のポイントをグループで話し合い決定しておく(概ね50分)。				
8	インバウンドに向けて仙台を紹介する⑤ゼミ内発表					【事前】現地調査のまとめをグループで行う(概ね50分)。				
9	インバウンドに向けた情報発信：英語資料の作成方法を学ぶ					【事前】インターネットや観光地などで，英語のパンフレットを入手しておく。				
10	インバウンドに向けて宮城を紹介する①計画					【事前】インターネット等で情報を収集し，現地調査の計画を作成する(概ね50分)。				
11	インバウンドに向けて宮城を紹介する②事前計画					【事前】インターネット等で情報を収集し，現地調査の具体的計画を作成する(概ね50分)。				
12	インバウンドに向けて宮城を紹介する③現地調査					【事前】現地調査のポイントをグループで話し合い決定しておく(概ね50分)。				
13										
14	インバウンドに向けて宮城を紹介する④調査のまとめ					【事前】インバウンドへの情報発信が出来るよう準備を行う(概ね90分)。				
15	活動のまとめ：英語パンフレット作成					【事前】これまでの活動の資料を整理しておく(概ね50分)。				
教科書	使用しない。									
参考文献	参考資料は随時配布を行う。									
備考	状況により，フィールドワークをオンラインに変更して実施することがある。質問は次回以降の授業でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要，実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング TB-4-SEM-09				
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミ I				単位 認定者	佐藤 美輪		評価 の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	「初年次ゼミ」（1年前期配当）で学んだ大学の学びの基礎を踏まえて、「観光ゼミI」では観光ビジネスの現場で必要とされるコミュニケーション能力の獲得と、課題を発見し解決する能力の育成を目指す。具体的には各教員の専門的分野を中心に行われる観光に関するゼミ活動の中から関心のあるゼミを選択し、ゼミ内で課題の発見や調査、解決、振り返りなどの活動を協力して行う中で、観察力、協調性、コミュニケーション力、課題解決力などの力を身につける。									
到達目標	①日本の世界遺産について登録までの流れや背景を理解できるようになる。 ②東北地方にある観光資源の伝承について、フィールドワークを通し理解できるようになる。 ③コミュニケーションスキルを身につけ、調べた事柄を相手に対し的確に伝えられるようになる。									
学修者への 期待等	東日本大震災や、日本の世界遺産について、自ら調べ自分の意見を持つことを期待する。グループワーク等の実践演習を計画しているため、遅刻・欠席等が極力生じないように注意すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス：自己紹介、ゼミの進め方 東日本大震災：被災地の今を考える					自己紹介で話す内容を考えてきてください（1時間程度）。				
2	東日本大震災：復興と課題					東日本大震災の復興と課題を事前に調べてきてください（1時間程度）。				
3	東日本大震災：フィールドワーク準備 ＜調査場所の下調べ＞					フィールドワーク先について事前に調べてきてください（1時間程度）。				
4	東日本大震災：フィールドワーク準備 ＜インタビュー項目の検討＞					インタビュー項目を事前に考えてきてください（30分程度）。				
5	東日本大震災：被災地のフィールドワーク									
6										
7	東日本大震災：フィールドワークの振り返り・まとめ					フィールドワークから得た内容をまとめておいてください（1時間程度）。				
8	東日本大震災：報告書作成					報告会に向けて、報告資料を仕上げておいてください（1時間程度）。				
9	東日本大震災：フィールドワーク報告会					報告会で得た知識をまとめておいてください（1時間程度）。				
10										
11	日本の世界遺産について 世界遺産パンフレット作成役割決め					日本の世界遺産について調べてきてください（30分程度）。				
12	世界遺産パンフレット：作成					旅行会社のパンフレットから予習をしてきてください（30分程度）。				
13	世界遺産パンフレット：中間報告会					中間報告会で指摘された箇所の修正をまとめておいてください（1時間程度）。				
14	世界遺産パンフレット：中間報告を受けての修正					最終報告会に向けて、完成版を仕上げておいてください（1時間程度）。				
15	世界遺産パンフレット：最終報告会 世界遺産のまとめ									
教科書	使用しない。適宜、レジュメを配布する。									
参考文献	授業中に適宜紹介する。									
備考	質問には次回以降の授業でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

						科目ナンバリング				
						TB-4-SEM-09				
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力					
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミ I				単位 認定者	鎌田 貢治		評価 の方法	試験 (レポート)	20 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	60 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	「初年次ゼミ」（1年前期配当）で学んだ大学の学びの基礎を踏まえて、「観光ゼミI」では観光ビジネスの現場で必要とされるコミュニケーション能力の獲得と、課題を発見し解決する能力の育成を目指す。具体的には各教員の専門的分野を中心に行われる観光に関するゼミ活動の中から関心のあるゼミを選択し、ゼミ内で課題の発見や調査、解決、振り返りなどの活動を協力して行う中で、観察力、協調性、コミュニケーション力、課題解決力などの力を身につける。									
到達目標	東北全般の観光についての考察。東日本大震災以降国内外からの観光客が増加の一途を辿っている。その歴史的な背景と現状及び今後の方向性等について全てを深掘りすることは出来ないが、観光的な材料と志向がどこでマッチングをしているを少しでも会得して欲しい。									
学修者への期待等	宮城については2年次ゼミで深掘りをするため、宮城以外の5県について様々な面から検証をする。それにより国内からの観光客と海外からの観光客との志向の違いや、今後伸びることが想定される事象等をワーク等により会得してもらいたい。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス：ゼミの進め方、ゼミ長などの選出、ゼミ予定の検討。調査するアウトバウンドテーマの選定。					アウトバウンドの一般的な定義について調べておいてください（概ね20分）。				
2	東北全般の観光事情についてN0.1（北東北 観光）					東北全般の観光ポイントについて調べておいてください				
3	東北全般の観光事情についてN0.2（北東北 グルメ等）					東北全般の観光ポイントについて調べておいてください				
4	東北全般の観光事情についてN0.3（南東北 観光）					東北全般の観光ポイントについて調べておいてください				
5	東北全般の観光事情についてN0.4（南東北 グルメ等）					東北全般の観光ポイントについて調べておいてください				
6	フィールド学習（東北観光推進機構等					1－5回で学んだPOINTの整理 検証				
7										
8	振り返り及び検証ワーク					東北の観光についてまとめ				
9	北東北のモデルコース作成－①討議					グループ活動 ①討議				
10	北東北のモデルコース作成－②まとめ作業					グループ活動 ②情報のまとめ				
11	南東北のモデルコース作成－①討議					グループ活動 ①討議				
12	南東北のモデルコース作成－②まとめ作業					グループ活動 ②情報のまとめ				
13	コース発表 討議					グループによる検証				
14	まとめ：北東北の検証及びまとめ					北東北の検証です。下調べしてください				
15	まとめ：南東北の検証及びまとめ					南東北の検証です。下調べしてください				
教科書	特に使用しません。必要な資料を随時配布します。									
参考文献	授業中に紹介します。									
備考	質問には次回以降の授業でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

40数年旅行会社にて在籍をした経験と体験を講義の中で伝えていきたい。

観光ビジネス学科 2年生 (2024 年度入学生)

- 年間予定表
- シラバス

2025年度 観光ビジネス学科2年生 年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月					1		2		3		4	オリエンテーション	5	
	6		7		8	健康診断	9	1	10	1	11	1	12	
	13		14	1	15	1	16	2	17	2	18	2	19	
	20		21	2	22	2	23	3	24	3	25	3	26	
	27		28	3	29		30	4	1	4	2	4	3	
5月	4		5		6		7	5	8	5	9	5	10	
	11		12	4	13	3	14	6	15	6	16	6	17	
	18		19	5	20	4	21	7	22	7	23	7	24	
	25		26	6	27	5	28	8	29	8	30	8	31	
6月	1		2	7	3	6	4	9	5	9	6	9	7	
	8		9	8	10	7	11	10	12	10	13	10	14	
	15		16	9	17	8	18	11	19	11	20	11	21	
	22		23	10	24	9	25	12	26	12	27	12	28	
	29		30	11	1	10	2	13	3	13	4	13	5	
7月	6		7	12	8	11	9	14	10	14	11	14	12	
	13		14	13	15	12	16	15	17	15	18	15	19	
	20		21		22	13	23	月14	24	火14	25	予備日	26	
	27		28	月15	29	火15	30	定期試験	31	定期試験	1	定期試験	2	
8月	3		4	定期試験	5		6		7		8	不合格発表	9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18	集中講義	19	集中講義	20	集中講義	21	集中講義	22	集中講義	23	
	24		25	集中講義	26	集中講義	27	集中講義	28	集中講義	29	集中講義	30	
	31		1	再試験	2		3		4		5		6	
9月	7		8		9	海外研修	10	海外研修	11	海外研修	12	海外研修	13	海外研修
	14	海外研修	15		16	集中講義	17	集中講義	18	集中講義	19	集中講義	20	
	21		22		23		24		25		26	後期オリエンテーション	27	
	28		29	1	30	1								

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度 観光ビジネス学科2年生 年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
10月							1	1	2	1	3	1	4	
	5		6	2	7	2	8	2	9	2	10	2	11	
	12		13		14	3	15	3	16	3	17	3	18	
	19		20	3	21	4	22	4	23	4	24	せいやう祭 準備	25	せいやう祭
	26		27	4	28	5	29	5	30	5	31	4	1	
11月	2		3		4	6	5	6	6	6	7	学科交流会	8	
	9		10	5	11	7	12	7	13	7	14	5	15	
	16		17	6	18	8	19	8	20	8	21	6	22	
	23		24		25	9	26	9	27	9	28	7	29	
	30		1	7	2	10	3	10	4	10	5	8	6	
12月	6		7	8	8	11	10	11	11	11	12	9	13	
	13		14	9	15	12	17	12	18	12	19	10	20	
	20		21	10	22	13	24	13	25	13	26		27	
	27		28		29		31		1		2		3	
1月	4		5	11	6	14	7	14	8	14	9	11	10	
	11		12		13	15	14	15	15	15	16	12	17	
	18		19	12	20	月13	21	金13	22	月14	23	金14	24	
	25		26	月15	27	金15	28	予備日	29	定期試験	30	定期試験	31	
2月	1		2	定期試験	3	定期試験	4		5		6		7	
	8		9	不合格発表	10		11		12		13	再試験	14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	
3月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9		10		11		12		13		14	
	15		16		17	卒業式	18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	
	29		30		31									

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング TB-0-HCU-03				
	●				●					
科目名	東北学				単位 認定者	榎森 進 黒田 清志		評価の方法	※詳細は「備考」欄を参照すること。	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	東北における観光ビジネスを学ぶうえで重要となる、東北の歴史・文化・社会・経済について総合的に理解する。 (榎森) 東北地方の歴史的な性格や、その歴史の上に受け継がれている伝統や年中行事、食や生活習慣、言葉などを理解し、豊かな文化をもつ東北の歴史と文化について探求することを目的とする。 (黒田) 東北地方の社会・経済について理解し、地域社会を活性化するための企画の手法などについて学ぶ。									
到達目標	(榎森) 東北地方の歴史と文化に関する知識を得、当該問題について他人に説明出来るようになる。 (黒田) ①東北の地域資源を知る。 ②地域資源を活かす方法を学ぶ。									
学修者への期待等	(榎森) 事前に各回のテーマに関する参考文献を教室で指示しますので、各回ともその参考文献に目を通して受講して下さい。 (黒田) 自ら地域資源を調べ、それを活かす企画の方法・技術を身につける。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	東北地方の歴史や文化の諸相を多様な視点から考えることの大切さーグローバルイズムとレジオナリズムー				第2回目の講義との関わりで児島恭子著『エミシ・エゾからアイヌへ（歴史文化ライブラリー）』（吉川弘文館）に目を通しておいて下さい（概ね1時間）。 その後も次回のテーマに関する参考文献を提示しますので、各回とも参考文献に目を通して受講すること（概ね1時間）。			榎森 進		
2	エミシ・エゾ・アイヌー中央政権側の奥羽民衆に対する認識の変遷とその歴史的背景ー							榎森 進		
3	奥州藤原氏3代の歴史的な位置							榎森 進		
4	17世紀には下北半島が盛岡藩の北の玄関だった							榎森 進		
5	近江商人の奥羽地方進出と都市							榎森 進		
6	奥羽大名の幕府への献上品から見た近世奥羽の特産物							榎森 進		
7	幕末における奥羽諸藩の蝦夷地警備と経営							榎森 進		
8	日本の食文化における東北地方の食文化の位置							榎森 進		
9	戊辰戦争と奥羽の世界							榎森 進		
10	英国婦人イサベラ・バードが見た明治初期の東北							榎森 進		
11	東北学（地域学）の概要				提示した参考文献等を読んでおくこと（30分程度）。			黒田 清志		
12	東北を知る				提示した参考文献等を読んでおくこと（30分程度）。			黒田 清志		
13	地域のマーケティング				提示した参考文献等を読んでおくこと（30分程度）。			黒田 清志		
14	地域活性化の方策 企画力				提示した参考文献等を読んでおくこと（30分程度）。			黒田 清志		
15	地域活性化のキーワード				提示した参考文献等を読んでおくこと（30分程度）。			黒田 清志		
教科書	(榎森) 特に無し。 (黒田) テキスト等は授業の都度配付。									
参考文献	(榎森) 「大学で学ぶ東北の歴史」東北学院大学歴史学科編、吉川弘文館、定価1,900円+税。 (黒田) 参考文献等は授業の都度、提示します。									
備考	「評価の方法」について (榎森) 試験（レポート） 80% 受講態度 20% (黒田) 試験（レポート） 70% 受講態度 30% フィードバックは毎回「履修レポート」に基づいて行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

(黒田清志)
 H6年からH23年まで仙台市経済局、および仙台市観光コンベンション協会、また、中小企業診断士として、地域の中小企業、商店街、農業、観光の支援事業を担当。その後、山形県など各地の研修会等のセミナー講師、アドバイザーを務める。
 広範囲の業種の事業者の経営支援や東北の地域活性化事業に関わってきた経験から、特に経済や文化的側面について、分かりやすく具体的な授業を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング TB-0-HCU-04				
	●			●						
科目名	歴史と文化				単位 認定者	徳田 幸雄 丸藤 准二		評価の 方法	※詳細は備考欄を参照 すること	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	2 単位			
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	こんにちの世界を理解するためには、歴史、宗教、思想などの多様な側面の知識が必要となる。特に、近現代を中心とした歴史や世界の諸宗教の理解は重要である。これらの基礎的知識を身に付け、また、世界に大きな影響を与えた思想や書物などにも触れ、こんにちの世界に対する自己の見識を持てるようになることを目的とする。									
到達目標	(丸藤) 近現代世界を形成した、重要な歴史事象を学ぶことにより、近現代世界が成立する要因について理解を深め、歴史に関する知識を修得し、関心を持つことにより深い教養を育むことを目標とする。 (徳田) 世界三大宗教を中心とした諸宗教を広く学ぶことによってグローバル時代に相応しい教養を身につけるとともに、人類の叡智に触れつつより豊かで深い人生観を育むことを目標とする。									
学修者への 期待等	授業を理解し、目標に到達するために意欲的に授業に取り組んでください。また、幅広い人間性と教養を身につけるために、宗教や歴史に対する興味関心を持つように努めてください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	ユダヤ教について ー律法の遵守ー				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間 15～20 分)			徳田 幸雄		
2	キリスト教について ー罪からの救いー				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間 15～20 分)			徳田 幸雄		
3	イスラームについて ー神への服従ー				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間 15～20 分)			徳田 幸雄		
4	仏教について ー苦からの解脱ー				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間 15～20 分)			徳田 幸雄		
5	神道について ー穢れの清めー				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間 15～20 分)			徳田 幸雄		
6	グローバルエコノミーのはじまり ー西欧の拡大により一体化する世界ー				配布資料を読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約 1 時間)			丸藤 准二		
7	科学革命 ールネサンス文化と科学の発展ー				配布資料を読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約 1 時間)			丸藤 准二		
8	啓蒙思想の広まり ー新しい「知」の広まりと近代社会ー				配布資料を読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約 1 時間)			丸藤 准二		
9	産業革命 ー人類史の「分水嶺」：工業化社会の成立ー				配布資料を読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約 1 時間)			丸藤 准二		
10	経済社会の成立 ービジネスと企業経営の発展ー				配布資料を読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約 1 時間)			丸藤 准二		
11	経済社会の発展 ー工業化社会の発展と大衆消費社会ー				配布資料を読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約 1 時間)			丸藤 准二		
12	医療の発展と近代社会				配布資料を読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約 1 時間)			丸藤 准二		
13	教育の普及と近代社会				配布資料を読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約 1 時間)			丸藤 准二		
14	現代世界の成立				配布資料を読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約 1 時間)			丸藤 准二		
15	グローバルヒストリー ー「新しい歴史学」と現代世界ー				配布資料を読み、今回の授業内容を理解して、復習をすること。(約 1 時間)			丸藤 准二		
教科書	教科書は使用せず、授業において適宜資料を配布します。									
参考文献	授業において指示します。									
備考	(評価方法) (丸藤) 定期試験70% 受講態度30%。質問等については次回以降授業でフィードバックを行う。 (徳田) 授業内課題 (全 5 回) 100% 授業終了時に実施するチェックテストで評価し、次回以降授業でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CO-0-HS0-04				
	●			●						
科目名	法律入門				単位 認定者	鈴木 一樹		評価 の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	社会生活をしていく上で必要な基本的な法律について学修する。特に日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げて、問題点、解決方法、回避方法など、具体的な事例を通じて理解し身につけていく。									
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので、復習を中心に取り組んで下さい。 法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	法律の種類と法律を学ぶ意味					法律に関するイメージを自分なりに持っておくこと（30分程度）				
2	憲法（１）基本的人権 ー平等権、精神的自由等ー					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
3	憲法（２）基本的人権 ー経済的自由、その他の人権ー					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
4	憲法（３）人権総括、統治機構					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
5	民法（１）総則					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
6	民法（２）物権					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
7	民法（３）債権（契約等）					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
8	民法（４）債権（不法行為）					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
9	民法（５）親族・相続					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
10	刑法（１）総論					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
11	刑法（２）各論					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
12	会社法（１）総論、株式					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
13	会社法（２）機関、組織再編					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
14	消費者法					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
15	その他の重要な法律					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること（30分程度）				
教科書	特に指定しない。必要に応じてレジュメや資料を配布する。									
参考文献	適宜講義内で紹介する。									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。講義内容は、進度に応じて変更する場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
公認会計士として上場企業等の法定監査，税理士として税務業務に従事。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	C0-0-HS0-03				
	●			●						
科目名	現代の社会				単位認定者	丸藤 准二		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	現代の日本が世界の中でどのような立場にあるか、初めに日本及び主な国の文化・思想・宗教ならびに近代の歴史を学ぶことから理解をする。そのうえで政治・経済の視点を軸にして現代の日本の様々な問題点について学修し、現代の社会を生きるために不可欠な基本知識を身につけ、社会生活において適切な選択や判断ができることを目指す。									
到達目標	現代の世界とりわけ日本の社会における様々な問題について、正しい認識と知識を身に付けること。そのうえで、各人がよく考えてこれからの社会生活をより良くすることを目標とします。									
学修者への期待等	毎回の授業に意欲的に取り組んでください。思考の前提となる知識を身に付け、自分で物事を考える習慣をつけましょう。また、実社会の様々な事象に関心をもち、情報に触れるようにしてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	現代の社会とは（現代社会の特質を概観する）					現代社会の特質について、授業内容を整理して理解する。（1時間程度）				
2	現代の日本社会（日本文化・社会の特質）					前回の授業内容を復習し、現代の日本社会について授業を整理して理解する。（1時間程度）				
3	現代社会と法（法の機能と特質、裁判と司法制度）					前回の授業内容を復習し、現代社会と法について授業を整理して理解する。（1時間程度）				
4	現代社会と日本国憲法（立憲主義、平等権）					前回の授業内容を復習し、現代社会と日本国憲法について授業を整理して理解する。（1時間程度）				
5	現代社会と政治（民主政治の基本原理と発展）					前回の授業内容を復習し、現代社会と政治について授業を整理して理解する。（1時間程度）				
6	現代日本の政治（政治参加と選挙、政党政治）					前回の授業内容を復習し、現代日本の政治について授業を整理して理解する。（1時間程度）				
7	日本経済の現状（日本の経済発展と停滞）					前回の授業内容を復習し、日本経済の現状について授業を整理して理解する。（1時間程度）				
8	日本経済の課題（財政と金融問題）					前回の授業内容を復習し、日本経済の課題について授業を整理して理解する。（1時間程度）				
9	日本の労働問題（労働問題と賃金格差）					前回の授業内容を復習し、日本の労働問題について授業を整理して理解する。（1時間程度）				
10	現代の人口問題（人口減少と少子高齢化）					前回の授業内容を復習し、現代の人口問題について授業を整理して理解する。（1時間程度）				
11	日本の福祉と社会保障（高齢化社会における福祉と社会保障）					前回の授業内容を復習し、日本の福祉と社会保障について授業を整理して理解する。（1時間程度）				
12	資源エネルギー問題（エネルギー資源の現状と課題）					前回の授業内容を復習し、資源エネルギー問題について授業を整理して理解する。（1時間程度）				
13	環境問題と自然災害（地球温暖化と日本の自然災害）					前回の授業内容を復習し、環境問題と自然災害について授業を整理して理解する。（1時間程度）				
14	世界の中の日本（貿易と外交問題）					前回の授業内容を復習し、世界の中の日本について授業を整理して理解する。（1時間程度）				
15	まとめと補足					前回の授業内容を復習し、授業全体について授業を整理して試験に備える。（1時間程度）				
教科書	「小論文頻出テーマ解説集2025 現代を知るplus」第一学習社									
参考文献	「図解でわかる時事重要テーマ100 2025-2026」日経HR編集部編著、日経HR 授業において参考文献を適宜紹介します。									
備考	教科書の補足として、毎回資料を配布します。授業内に課題・小テスト等を適宜実施し、次回以降授業でフィードバックを行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング TB-1-FCO-06				
	●				●					
科目名	国際観光論				単位 認定者	鎌田 貢治		評価の 方法	試験（レポート）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	近代における観光活動の成立時からすでに国際的な規模を持っていた観光活動は、現代においては規模がさらに拡大し、諸国民間の相互理解と交流を促進するようになった。その一方で、マス・ツーリズムとボーダーレス化の進展にともなって、地球規模で様々な問題を引き起こしている。本科目では、このように国境を越える観光活動によって引き起こされる政治的、経済的、社会的、文化的、地域的、環境的など種々の影響・効果について理解を深め、国際観光のあり方について考える。									
到達目標	現代の国際観光について総合的、基本的な理解に達すること。つまり国際観光客の複雑な動きによって各国の政治、経済、社会、文化等が影響を受けている事実を、特に日本のインバウンドとアウトバウンドにおいて具体的な例をもって説明できるようになること。									
学修者への期待等	国際観光は戦後に身近なものになったが、具体的な外国観光の背景には文化や政治、経済などに結びついたさまざまな問題があることを考えてほしい。国際観光に関する事例、ニュースなどに注意してほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス：国際観光の意義、アウトバウンドとインバウンド					訪日外国人観光客の増加によって何がもたらされるのかを考えておいてください：概ね20分。				
2	観光と国際観光客の定義、国際観光時代の到来の意味					なぜ国際観光の時代がやってきたのかを調べてください：概ね20分。				
3	国際観光客数と国際観光収入、観光の南北問題					主に、国際観光客数と国際観光収入の関係について調べておいてください：概ね30分。				
4	日本のアウトバウンド観光（1）：沿革 全般 歴史					身近な例を参考に海外旅行についてイメージをまとめておいてください：概ね20分。				
5	日本のアウトバウンド観光（2）：欧州の観光事情 N01（イギリス フランス）					身近な例を参考に海外旅行についてイメージをまとめておいてください：概ね20分。				
6	日本のアウトバウンド観光（3）：欧州の観光事情 N02（スイス イタリア）					身近な例を参考に海外旅行についてイメージをまとめておいてください：概ね20分。				
7	日本のアウトバウンド観光（4）：ハワイと日本					身近な例を参考に海外旅行についてイメージをまとめておいてください：概ね20分。				
8	日本のアウトバウンド観光（5）：東南アジアN01（シンガポール タイ マレーシア）					身近な例を参考に海外旅行についてイメージをまとめておいてください：概ね20分。				
9	日本のアウトバウンド観光（6）：東南アジアN02（ベトナム 香港 韓国）					身近な例を参考に海外旅行についてイメージをまとめておいてください：概ね20分。				
10	日本のインバウンド観光（1）：オーバーツーリズム SDGSツアー コンテンツツーリズム					インバウンドが増加する弊害は何か考えてください				
11	日本のインバウンド観光（2）：今後の課題					地域でインバウンド需要を喚起する必要性や方法について考えてください：概ね30分。				
12	海外 国内でのリスクマネジメント（災害 治安等）N01					旅行はリスクがつきものです。何が問題か考えてください				
13	海外 国内でのリスクマネジメント（災害 治安等）N02					旅行はリスクがつきものです。何が問題か考えてください				
14	文化の違いとは、宗教 食文化等					海外との文化の違いとは何か考えてください				
15	振り返り検証 インバウンド アウトバウンド					これからの日本の国際観光の望ましい姿について考えておいてください：概ね20分。				
教科書	特になし									
参考文献	授業中、適宜紹介します。									
備考	原則として事前にUNIPAに授業ファイルをアップロードするので、準備学修及び復習をしてください。質問等については次回以降授業でフィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

40数年旅行会社に在籍をし、様々な体験 経験等の事例を講義の中で伝えていきたい。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-07				
	●			●						
科目名	観光史と観光文化				単位認定者	成澤 広幸		評価の方法	試験 (レポート)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
						授業回数	15 回			
授業の概要	本科目は、観光理解の基礎的部分である観光活動についての史的理解を深める。具体的には、日欧の観光活動の歴史、及びそれらが生み出した観光文化について概観する。まず、近代観光発祥の地である欧州地域で観光活動がいかに誕生・進展し、それがいかなる観光文化を生み出してきたかをグランド・ツアーを起点に概説する。次いでわが国については、観光活動が本格的に成立した江戸時代を中心に概説し、温泉・寺社参詣・物見遊山など、独特な観光文化について理解を深める。									
到達目標	現代のマス・ツーリズムにおいてポピュラーな観光形態として存在している海水浴、温泉、避暑、避寒、登山、ウィンタースポーツ、文化観光、都市観光、田園観光などの起源と発展について、それらの誕生当時の社会状況を含めて自分の言葉で説明ができるようになる。									
学修者への期待等	観光の誕生と発展には現代からは想像もできない事情が潜んでいます。いかに当時の状況を想像できるかによって、観光史と観光文化の理解は劇的に深まります。まずは想像力をたくましくして、観光の様々な形態の誕生と発展につきあってください。									
回	授業計画					準備学修				
1	観光の定義、観光史・観光文化についてのガイダンス 近代観光誕生への助走（1）：15世紀末の特殊性、ガイドブックの誕生					観光史とはどのようなジャンルなのか、および中世ヨーロッパの巡礼について調べておいてください：概ね40分。				
2	近代観光誕生への助走（2）：古代ローマの優位、風景と旅の危険、17世紀の宮廷の理想					ルネサンスから古典主義時代にかけての政治思潮について調べておいてください：概ね30分。				
3	階級戦略から始まる近代観光（1）：イギリス社会と観光の創造					17世紀のイギリス社会の階級対立について調べておいてください：概ね30分。				
4	階級戦略から始まる近代観光（2）：グランドツアー					グランドツアーについて調べておいてください：概ね20分。				
5	18世紀のランティエ観光：温泉療養、海水浴治療、気候療法、山岳とスイスの発見、田園滞在					18世紀のランティエ観光の概略について調べておいてください：概ね20分。				
6	19世紀のランティエ観光：移動手段、ガイドブック、リゾートの進化					19世紀のランティエ観光の概略について調べておいてください：概ね20分。				
7	19世紀から20世紀へ（1）：シーズンとリゾートの確立					シーズンとリゾートの確立について調べておいてください：概ね20分。				
8	19世紀から20世紀へ（2）：ランティエ観光の進化					19世紀から20世紀にかけてのランティエ観光における宿泊と移動について調べておいてください：概ね20分。				
9	トマス・クック（1）：マス・ツーリズムの萌芽					トマス・クックの業績について調べておいてください：概ね30分				
10	トマス・クック（2）：旅行の事業化 マス・ツーリズムの台頭（1）：大戦間の変化、余暇の政治利用と社会運動					トマス・クック社の沿革について調べておいてください：概ね30分。				
11	マス・ツーリズムの台頭（2）：青少年のバカンスからソーシャル・ツーリズムへ					20世紀前半のマス・ツーリズムの萌芽について調べておいてください：概ね30分。				
12	夏の地中海：観光モデルの交替					観光シーズンの交代について調べてください：概ね30分。				
13	日本の観光史と観光文化（1）：総合的な旅文化					江戸時代中期からの日本の旅文化の概略について調べておいてください：概ね30分。				
14	日本の観光史と観光文化（2）：信仰と温泉					信仰と温泉が観光と結びついた理由について調べておいてください：概ね20分。				
15	日本の観光史と観光文化（3）：景勝と文化					景勝地が観光地となった一般的な経緯について調べておいてください：概ね30分。				
教科書	特になし									
参考文献	「観光のラビリンス」 マルク・ボワイエ法政大学出版局、その他は授業中に適宜紹介します。									
備考	原則として授業前にUNIPAに授業ファイルをアップロードするので、事前学修及び復習をしてください。UNIPAなどで課題の提出を行う予定です。次回以降授業で課題についてフィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-10				
	●			●						
科目名	金融リテラシー入門				単位認定者	中村 徹		評価の方法	試験(筆記)	85 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	15 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	金融に関する基礎知識を学び、金融庁の指針（「金融リテラシーマップ」）に沿って短期大学生に必要とされる金融リテラシーを身に付ける。金融商品、生命保険・損害保険について理解し、将来的に自分自身の生活設計が出来るレベルを目指す。									
到達目標	金融経済に関する知識を深め、収集した情報を比較することにより、自らの責任で適切な消費行動が出来るようになる。									
学修者への期待等	FP（ファイナンシャルプランナー）対策の教材を使用して、到達目標に必要な知識を修得する。積極的にFP技能検定を受検して、知識を強固なものにして欲しい。									
回	授業計画					準備学修				
1	ライフプランニングと資金計画Ⅰ （資産運用の6つの係数）					【事前】『お金と暮らしのトリセツ』 （一般社団法人金融財政事情研究会著） Web教材の第1章と第5章－1節を読んでくる （1時間程度） 【事後】テキスト掲載の問題を解答する （1時間程度）				
2	ライフプランニングと資金計画Ⅱ （健康保険，労働保険）									
3	ライフプランニングと資金計画Ⅲ （公的年金）									
4	リスク管理Ⅰ （生命保険）					【事前】『お金と暮らしのトリセツ』 （一般社団法人金融財政事情研究会著） Web教材の第4章-2節を読んでくる （1時間程度） 【事後】テキスト掲載の問題を解答する （1時間程度）				
5	リスク管理Ⅱ （生命保険）									
6	金融資産運用Ⅰ （株式，債券）					【事前】『お金と暮らしのトリセツ』 （一般社団法人金融財政事情研究会著） Web教材の第4章-1節を読んでくる （1時間程度） 【事後】テキスト掲載の問題を解答する （1時間程度）				
7	金融資産運用Ⅱ （投資信託，ポートフォリオ運用）									
8	タックスプランニングⅠ （所得税のしくみ）					【事前】『お金と暮らしのトリセツ』 （一般社団法人金融財政事情研究会著） Web教材の第4章-2節を読んでくる （1時間程度） 【事後】テキスト掲載の問題を解答する （1時間程度）				
9	タックスプランニングⅡ （各種所得控除）									
10	不動産Ⅰ （不動産取引のルール）					【事前】以下のキーワードを検索して概要を把握する ・不動産登記 ・建築基準法，都市計画法 （1時間程度） 【事後】テキスト掲載の問題を解答する （1時間程度）				
11	不動産Ⅱ （建築基準法，都市計画法）									
12	不動産Ⅲ （不動産取引の税金）									
13	相続・事業承継Ⅰ （贈与の意義と形態）					【事前】以下のキーワードを検索して概要を把握する ・法定相続人，法定相続分 ・遺言，遺留分 （1時間程度） 【事後】テキスト掲載の問題を解答する （1時間程度）				
14	相続・事業承継Ⅱ （相続の開始と相続分）									
15	相続・事業承継Ⅲ （相続税の計算）									
教科書	「スッキリわかる FP技能検定3級」白鳥光良編，TAC株式会社 出版事業部									
参考文献	「図説 日本の財政」関口祐司編，財経詳報社出版									
備考	授業の際は，必ず電卓（12桁以上）を持参すること。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●	●			TB-2-CCO-01				
科目名	観光ビジネス英会話				単位 認定者	吉野 千乃		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	経済のグローバル化は着実に進行し、ビジネスシーンで英語が使える人材の必要性がますます高まっている。本科目では、基本的な観光ビジネスの場における英語表現を学修し、実際の観光ビジネスシーンで活用できるようにする。また、観光ビジネス上重要な英語表現を反復し、講義に加えロールプレイングを行うことで、英語で会話することへの抵抗感をなくす。楽しみながら活きた観光ビジネス英語表現の修得を目指す。									
到達目標	観光ビジネス分野（旅行、エアライン、宿泊）の主要な場面で用いられる英語表現を学修し、ロールプレイを通じて適切に使うことができるようになる。									
学修者への期待等	これまでに学修した観光英語に関する知識を実際に使用できるようになることを目指し、授業内の会話練習やロールプレイ活動に積極的に取り組むこと。ペアワークやグループワークには1人1人が責任感を持って臨むこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス/事前・事後学修の方法 テキスト p.9 Introduction									
2	Unit 1 Recommending a tour Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)				【事前】 音声ダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
3	Unit 2 Taking a tour booking Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)				【事前】 音声ダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
4	Unit 3 Escorting a tour Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)				【事前】 音声ダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
5	Unit 4 Welcoming international tourists Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)				【事前】 音声ダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
6	Unit 5 Taking an airline reservation Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)				【事前】 音声ダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
7	Unit 6 Giving flight information Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)				【事前】 音声ダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
8	Unit 7 Helping passengers check in Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)				【事前】 音声ダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
9	Unit 8 Working at the boarding gate Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)				【事前】 音声ダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
10	Unit 9 Offering in-flight services Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)				【事前】 音声ダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
11	Unit 10 Giving CIQ information Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)				【事前】 音声ダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
12	Unit 11 Taking a room reservation Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)				【事前】 音声ダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
13	Unit 12 Welcoming guests Dialogueの理解と会話練習(ペアワーク)				【事前】 音声ダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。					
14	Role Play 発表① ペアまたはグループでロールプレイのSCRIPTを作成する				SCRIPTの作成に向け、準備を行う(約60分)。					
15	Role Play 発表② 作成したSCRIPTを用いて、発表を行う				発表に向け、準備を行う(約60分)。					
教科書	Reiko Fujita (2019). <i>English for Tourism Professionals</i> . National Geographic Learning.									
参考文献	随時配布する。									
備考	・毎時に授業への疑問などをReactionとして提出してもらい、次回にフィードバックを行う。 ・履修者の状況によって進度や順番に変更が生じる場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-01				
		●		●						
科目名	旅行ビジネス実務				単位認定者	齋藤 幸一		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	30 %
					授業形態 <td>講義</td> <td>授業時間数</td> <td>30 時間</td> <td></td> <td></td>	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	旅行ビジネス全般についての理解を深めるとともに、商品ごとの仕組みや商品流通について学ぶ。旅行業界の歴史や業界をとりまく環境の変化・諸課題、旅行会社の業務内容全般、旅行業をとりまく観光関連産業や多様な職種について学習する。また、旅行商品のプランニングの手法を理解する。									
到達目標	出入国法令・海外旅行実務・国際航空運賃の各項目の知識を習得することで、総合旅行に関する理解を深めることができるようになる。									
学修者への期待等	遅刻・欠席等が極力生じないように注意すること。また、適宜予習および復習すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス（旅行ビジネス実務の授業の進め方、評価など）									
2	出入国法令①旅券法					教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。				
3	出入国法令②外国人の出入国管理					教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。				
4	出入国法令③日本の出入国手続き					教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。				
5	出入国法令④免税範囲と計算					教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。				
6	出入国法令まとめ					出入国法令①から④を復習しておくこと（概ね30分）。				
7	海外旅行実務①2レターコード・3レターコード、ホテル・鉄道・クルーズ船の知識					教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。				
8	海外旅行実務②海外保険、シェンゲン協定、査証手続きの知識					教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。				
9	海外旅行実務③時差計算、所要時間の計算					教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。				
10	海外旅行実務④空港の知識・航空時刻表					教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。				
11	海外旅行実務⑤航空時刻表の諸計算					教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。				
12	海外旅行実務まとめ					海外旅行実務①から⑤を復習しておくこと（概ね30分）。				
13	国際航空運賃①タリフの読み方、計算ルール					教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。				
14	国際航空運賃②往復旅行等の運賃計算					教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと（概ね30分）。				
15	国際航空運賃まとめ					国際航空運賃①から②を復習しておくこと（概ね30分）。				
教科書	「旅行業実務シリーズ⑤海外旅行実務 出入国法令と実務 旅行実務」JTB総合研究所 「旅行業実務シリーズ⑥海外旅行実務 国際航空運賃 旅行業英語」JTB総合研究所									
参考文献	必要に応じて講義中に適宜指示する。									
備考	授業中はノートを積極的にとりつつ、自分のオリジナルノートを作成するつもりで臨んでください。受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがあります。また事前にテキストに目を通し、授業に臨んで下さい。授業への疑問等については、次回以降授業にフィードバックを行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

大手旅行会社にて海外専門セクションで11年業務に従事。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●			●	TB-3-ECO-07				
科目名	ホテル経営				単位 認定者	鎌田 貢治		評価の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	本科目は現在急拡大しつつあるインバウンド需要，増加傾向の国内需要，加速する外資進出，解禁された民泊など多様化する宿泊業界において，ホテルを中心とする宿泊業の経営の実践についていくつかの事例研究により学ぶとともに，広義の観光活動から見る宿泊業経営のあり方について学ぶ。									
到達目標	宿泊施設の多様な環境，特に立地，ターゲット層，和風と洋風の違いなどを理解するとともに，それぞれの環境で培われた最適な経営方法を学ぶことで現代における観光宿泊施設の特徴を自分の言葉で表現できるようになる。									
学修者への期待等	ホテル・旅館を中心とする宿泊施設は実に多彩な環境にあり，経営方法も多様です。そうした観光宿泊施設の経営の一端に触れることで観光の世界の奥深さを体感してもらいたいと思います。									
回	授業計画				準備学習				担当	
1	ガイダンス/最終発表についてのアナウンス				ホテル経営について教科書やネットをもとにあらかじめ調べておくこと（概ね30分）。				鎌田 貢治	
2	旅行会社とホテルの関係について				ホテルにとって旅行会社とはどのような存在かを考えること（概ね30分）。				鎌田 貢治 旅行会社スタッフ	
3	事例研究 1 泉ロイヤルパークホテル：ホテルにおけるインバウンド誘客について（フィールドワーク）				泉ロイヤルパークホテルについてネット等で調べておくこと（概ね30分）。				鎌田 貢治 泉ロイヤルパークホテルスタッフ	
4										
5	旅行会社が求めるホテル・旅館について				旅行会社と宿泊施設の関係について調べておくこと（概ね30分）。				鎌田 貢治 旅行会社スタッフ	
6	事例研究 2 アキウ舎（秋保温泉）：街づくりが与えるホテルへの影響について（フィールドワーク）				アキウ舎についてネット等で調べておくこと（概ね30分）。				鎌田 貢治 アキウ舎スタッフ	
7										
8	事例研究 3 小松館 好風亭（松島温泉）：日本三景のホテル経営について（フィールドワーク）				好風亭についてネット等で調べておくこと（概ね30分）。				鎌田 貢治 好風亭スタッフ	
9										
10	国の観光政策と宿泊業の現状について				観光政策における宿泊業について，観光白書などで予習すること（概ね30分）。				鎌田 貢治 東北運輸局観光部長	
11	事例研究 4 ：流迎別邸 観山聴月（青根温泉）ホテル経営について（フィールドワーク）				徳山聴月についてネット等で調べておくこと（概ね30分）。				鎌田 貢治 観山聴月スタッフ	
12										
13	事例研究 5 緑水亭（秋保温泉）：街づくりが与えるホテルへの影響について（フィールドワーク）				緑水亭についてネット等で調べておくこと（概ね30分）。				鎌田 貢治 緑水亭スタッフ	
14										
15	まとめ：「ホテル経営」を振り返って				各授業の内容を復習しておくこと（概ね30分）。				鎌田 貢治	
教科書	特になし									
参考文献	適宜紹介する									
備考	本授業はオムニバス形式で実施される。授業への疑問等については，次回以降授業にフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

40数年間旅行会社に在籍をした経験を活かし、随時体験等を伝えていきたい。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-35				
		●	●							
科目名	ウェディングブライダル演習				単位 認定者	小里 千寿		評価の 方法	レポート	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題	20 %
				授業形態	演習		授業回数		15 回	
授業の概要	本科目はブライダル事業の現場において挙式相談から披露宴までの一連の流れを実際にあるいは模擬的に体験・理解し、挙式に関係する知識や技術を学ぶことで、ブライダル事業への理解を深めることを目的とする。授業形式は演習とし、受講生が主体的に協働して様々な場面に対応できる力を養う。									
到達目標	模擬挙式を通してブライダル業界への理解と知識を深める。積極的に授業に参加し、チームでコミュニケーションを取りながら課題を解決する力をつける。									
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切にし、講義内容の復習や問題演習を積極的に行ってほしい。実際に模擬挙式を行うことによりブライダル業界への知識と理解を深めてほしい。グループワークが基本になるため、円滑なコミュニケーションを心掛けてほしい。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	授業ガイダンス（ウェディングブライダル演習の授業の進め方、評価の仕方など）				【事前】ウェディングブライダルに関してあらかじめ参考文献等で調べておく（30分程度）。				小里千寿	
2	現役ウェディングプランナーの講話並びにウェディングブライダルの基礎知識				【事後】授業内課題としてウェディングプランナーの仕事についてのミニレポートを書いて次週に提出する(30分程度)。				小里千寿 梅宮三環子	
3	模擬挙式の役割を知る、役割分担を決定する（グループワーク）				【事前】挙式に必要なスタッフとその役割を調べ、模擬挙式で自分が担当したい役割を考えておく（30分程度）。				小里千寿 小野寺理恵	
4	【校外学修】ホテルモントレの式場見学、貸衣裳の仮予約				【事前】見学するホテルモントレのホームページを見ておく(30分程度)。				小里千寿 小野寺理恵	
5	挙式コンセプト・演出内容を決める				【事前】挙式コンセプトをインターネットや参考資料をもとにあらかじめ調べておく（30分程度）。				小里千寿 小野寺理恵	
6	模擬挙式の進行内容を組み立てる①				【事前】インターネットや参考文献などをもとに挙式の進行をあらかじめ調べておく(1時間程度)。				小里千寿 小野寺理恵	
7	役割分担ごとのトレーニング・準備作業①				【事後】自分が担当する役割について復習する(30分程度)。				小里千寿 小野寺理恵	
8	役割分担ごとのトレーニング・準備作業②				【事前】グループごとに前回までの授業を復習し、模擬挙式の自分の役割について再度検討しておく(1時間程度)。				小里千寿 小野寺理恵	
9	模擬挙式の進行内容を組み立てる②（振り返りの意見を参考に進行を練り直し、決定する）				【事前】グループごとにあらかじめ前回までの授業を復習し、模擬挙式の進行について再度検討しておく(1時間程度)。				小里千寿 小野寺理恵	
10	役割分担ごとのトレーニング・準備作業③				【事前】自分の役割を完璧に果たすための課題をあらかじめ調べておく(30分程度)。				小里千寿 小野寺理恵	
11	プレリハーサル①（講義室でのリハーサル）				【事前】前回までの授業内容と練習について復習しておく(30分程度)。				小里千寿 小野寺理恵	
12	プレリハーサル②（講義室でのリハーサル）課題抽出と解消への取り組み				【事前】グループで模擬挙式の進行内容について再度検討しておく(1時間程度)。				小里千寿 小野寺理恵	
13	最終リハーサル（於：ホテルモントレ仙台のチャペル）				【事前】前回までの授業を復習し、本番に向け必要な準備を行っておく(30分程度)。				小里千寿 小野寺理恵	
14	模擬挙式 本番				【事前】本番に向けて小道具等の最終確認をする(30分程度)。				小里千寿 小野寺理恵	
15	模擬挙式の振り返り				【事前】前回までの授業内容をあらかじめ整理しておく(30分程度)。				小里千寿 小野寺理恵	
教科書	なし（使用資料・ツールはその都度配布またはアナウンスします）									
参考文献	「ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード」公益社団法人日本ブライダル文化振興協会 「ブライダル総論」一般財団法人日本ホテル教育センター 「ブライダルプロデュース」一般財団法人日本ホテル教育センター									
備考	授業の内容によっては、90分授業(1コマ)と180分授業（2コマ）のいずれかになる場合があります。授業への疑問等については、次回以降授業にフィードバックを行います。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
この授業では、現役のウェディングプランナーを招聘した授業を実施する。実務家による講義を通じて、ブライダル業界における実務的業務を学び、自ら企画立案を行い模擬挙式の体験することができる。										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-12				
				●	●					
科目名	旅と文学				単位認定者	成澤 広幸		評価の方法	試験 (レポート)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
						授業回数	15 回			
授業の概要	本科目では旅と文学の接点に位置する紀行文学において、古代からいかに人々が未知の文化・文明・風土に関心を持ち、ときに時代や社会を批判し、また自らの心情を著者の心情に重ねて旅を追体験してきたかを学ぶ。また、どの紀行文もそれ自体独立して存在しうるものではなく、社会的、文化的、政治的、経済的、文学的など様々な状況に重層的にからめとられながら成立してきたという経緯についても理解を深める。									
到達目標	日欧の旅の記録や表現の多様性について、および、旅に関わる文学の発展が観光の発展に及ぼした影響について、時代状況や地域等をふまえて、自分の言葉で説明できるようになる。									
学修者への期待等	旅のもたらす新鮮な驚き、感動は個人にとって人間的な成長に貴重な糧となる。些細なものでもかまわないから、旅の喜び（そして苦しみ）を感じたことのある人なら、紀行文学からそういう感情を引き出し、共有することができるはず。他人の旅の感情を共有して追体験し、違う世界を理解することはきっと自分の人生を豊かにします。そういう体験をしてもらいたいと思います。									
回	授業計画					準備学修				
1	紀行文学の定義：旅によって生み出された文学とはどのようなものかを考える					図書館、ネットなどで紀行文学について調べておいてください（1時間）				
2	紀行文学のコーパスを考える					図書館、ネットなどで紀行文学にはどのようなジャンルが含まれるか調べておいてください（1時間）				
3	日本の紀行文学史の概観（1）：古代から室町時代					事前の配布資料で日本の紀行文学史概略（古代から室町時代）を読んでおいて下さい（1時間）				
4	日本の紀行文学史の概観（2）江戸時代以降					事前の配布資料で日本の紀行文学史概略（江戸時代以降）を読んでおいて下さい（1時間）				
5	日本の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。（1）：古代					配布されたアンソロジーの該当部分（古代）を読んでおいてください（30分）				
6	日本の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。（2）：中世					配布されたアンソロジーの該当部分（中世）を読んでおいてください（30分）				
7	日本の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。（3）：近世					配布されたアンソロジーの該当部分（近世）を読んでおいてください（30分）				
8	西欧の紀行文学史の概観（1）：古代からルネサンスまで					事前の配布資料で西欧の紀行文学史概略（古代からルネサンス）を読んでおいて下さい（1時間）				
9	西欧の紀行文学史の概観（2）：17世紀以降					事前の配布資料で西欧の紀行文学史概略（近代）を読んでおいて下さい（1時間）				
10	西欧の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。（1）：古代					配布されたアンソロジーの該当部分（古代）を読んでおいてください（30分）				
11	西欧の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。（2）：中世					配布されたアンソロジーの該当部分（中世）を読んでおいてください（30分）				
12	西欧の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。（3）：ルネサンス					配布されたアンソロジーの該当部分（ルネサンス）を読んでおいてください（30分）				
13	西欧の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。（4）：17・18世紀					配布されたアンソロジーの該当部分（17世紀・18世紀）を読んでおいてください（30分）				
14	西欧の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。（5）：19・20世紀					配布されたアンソロジーの該当部分（19世紀から現代）を読んでおいてください（30分）				
15	現代における紀行文学の意義					授業を振り返って、紀行文学の諸相を整理しておいてください（30分）				
教科書	特に使用しない。アンソロジーについては授業中に配布予定。									
参考文献	授業中に指示する。									
備考	原則として事前にUNIPAに授業ファイルをアップロードするので、事前学修及び復習をしてください。UNIPAなどで課題の提出を行う予定です。授業内課題については次回以降の講義でフィードバックを行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●			●	TB-3-ECO-13				
科目名	テーマパークビジネス				単位 認定者	鎌田 貢治		評価 の 方法	授業内課題等	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		最終レポート	40 %
						授業回数	15 回			
授業の概要	我が国では1980年以降、東京ディズニーランドを始めとするテーマパークが次々と開園したが、それらの多くがバブル後に経営不振や休業、廃業に追い込まれた。本科目ではケーススタディとしていくつかのテーマパークを取り上げ、外的環境と企業努力の点から成功と失敗の要因を分析、理解する。また適宜テーマパークを実際に視察し、実際の運営に触れることで、テーマパークにおけるビジネスモデルを学ぶ。									
到達目標	テーマパークがもたらす経済効果とその周辺に係わる観光事業等がどのように関わっているのかを認識してもらう。またTDLのホスピタリティを深耕することで、自身のパーソナリティの一つの選択肢として会得してもらう。また世界のパークについても基本事項を会得する									
学修者への期待等	日本のテーマパークについて、現在どのような状況なのかを認識する。またTDL USJの2大テーマパークについては個人の感想を含めて意見を求める。八木山ベニーランド、スパリゾートハワイアンズでのフィールド学習を実施する。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス：講師自己紹介、講義の進め方、テーマパークの位置付など					特になし				
2	テーマパークの歴史と現状（国内、海外）の考察及び八木山ベニーランドの事前検証					事前：興味のあるテーマパークを調べておく。（概ね30分）				
3	【現地調査①】八木山ベニーランド調査及び講話					事前：八木山ベニーランドについて調べておく。（概ね30分）				
4						事後：視察結果と講話の感想を準備まとめる。（概ね30分）				
5	ベニーランド視察の振り返り検証。TDLの歴史的背景及び現状。米国との相違性等					事前：TDLについての概要を調べておく。（概ね30分）				
6	テーマパークにおけるホスピタリティ おもてなし、サービスの違いを検証					事前：ホスピタリティとは何か考えておく。（概ね30分）				
7	グループワークにて上記内容のワーキング作業					事前：グループごとにパワーポイント作成、発表の準備。（概ね30分）				
8	上記各グループによるロールプレイング発表。USJの実態の検証。					事前：USJの概要を調べておく。（概ね30分）				
9	TDL、USJ以外のテーマパークを対象にグループによる仙台発のモデルコースを作成					事前：対象にしたテーマパークの概要を調べておく。（概ね30分）				
10	モデルコースの作成と発表					事前：グループで発表の準備。（概ね30分）				
11	日本及び海外のテーマパークの紹介 検証					事前：海外のテーマパークの事前調べ。（概ね30分）				
12	ハワイアンズフィールド学習					事前：ハワイアンズの概要を調べておく。（概ね30分）				
13						事後：視察結果と講話の感想をレポート400字にまとめる（授業内課題②）。（概ね30分）				
14	上記各グループによるハワイアンズの振り返り検証。旅行とテーマパークとの関連性の考察					事前：グループごとにパワーポイント作成、発表の準備。（概ね30分）				
15	全体授業の振り返り。今後のパークの在り方等検証。					事後：期末レポートの構成・資料収集。（概ね30分）				
教科書	特になし									
参考文献	「ディズニーランドはなぜお客様の心をつかんでほさないのか」 芳中 晃著									
備考	本科目では八木山ベニーランド、スパリゾートハワイアンズを訪問する予定で、2コマ連続、あるいは終日の授業になるため履修者はUNIPAなどの情報に注意し、他の予定を入れないなどの対応が必要になる。授業への疑問等については、次回授業にフィードバックを行う。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
旅行会社に40年以上勤務し、営業職として様々な経験を有しており、テーマパークビジネスに関しても造詣が深い。										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-19				
				●	●					
科目名	国内観光資源				単位認定者	佐藤 美輪		評価の方法	試験 (レポート)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目は、「国内観光地理」の発展である。「国内観光地理」で学んだ知識を活かし、旅行プランを自ら立てることで、理解を深める。更に、郷土料理や祭りなども取り上げ、現在の観光地が歴史とどのような関連があるかについても学ぶことで、一般常識の養成にも役立つ講義の内容を構成する。									
到達目標	「国内観光地理」で触れた観光地以外にも地域により郷土料理や祭り等多くの歴史が存在する。郷土料理や祭りを学ぶことで、地域文化の違いについて理解できるようになる。また、テキストの内容に留まらず、興味を持った観光地を自ら調べ、説明することができるようになる。									
学修者への期待等	オンデマンド配信のため、何度でも繰り返し視聴し知識の定着に努めてほしい。また、足を運んだことが無い地域ほど、講義以外の時間でも自主学修をし理解を深めるよう努力してほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	日本の郷土料理・祭りについて					教科書等で郷土料理・祭りを読んでおくとの効果的です(1時間程度)。				
2	北海道地方の観光地・郷土料理・祭り					教科書等で北海道を読んでおくとの効果的です(1時間程度)。				
3	東北地方の観光地・郷土料理・祭り (青森・秋田・岩手)					教科書等で青森・秋田・岩手を読んでおくとの効果的です(1時間程度)。				
4	東北地方の観光地・郷土料理・祭り (山形・宮城・福島)					教科書等で山形・宮城・福島を読んでおくとの効果的です(1時間程度)。				
5	関東地方の観光地・郷土料理・祭り (新潟・群馬・栃木・茨城)					教科書等で新潟・群馬・栃木・茨城を読んでおくとの効果的です(1時間程度)。				
6	関東地方の観光地・郷土料理・祭り (埼玉・千葉・東京・神奈川)					教科書等で埼玉・千葉・東京・神奈川を読んでおくとの効果的です(1時間程度)。				
7	関東地方・中部地方の観光地・郷土料理・祭り (山梨・長野・静岡)					教科書等で山梨・長野・静岡を読んでおくとの効果的です(1時間程度)。				
8	中部地方の観光地・郷土料理・祭り (愛知・岐阜・富山)					教科書等で愛知・岐阜・富山を読んでおくとの効果的です(1時間程度)。				
9	中部地方・関西地方の観光地・郷土料理・祭り (石川・福井・滋賀)					教科書等で石川・福井・滋賀を読んでおくとの効果的です(1時間程度)。				
10	関西地方の観光地・郷土料理・祭り (京都・奈良)					教科書等で京都・奈良を読んでおくとの効果的です(1時間程度)。				
11	関西地方の観光地・郷土料理・祭り (三重・和歌山・大阪・兵庫)					教科書等で三重・和歌山・大阪・兵庫を読んでおくとの効果的です(1時間程度)。				
12	中国地方の観光地・郷土料理・祭り (鳥取・島根・岡山・広島・山口)					教科書等で鳥取・島根・岡山・広島・山口を読んでおくとの効果的です(1時間程度)。				
13	四国地方の観光地・郷土料理・祭り (香川・徳島・愛媛・高知)					教科書等で香川・徳島・愛媛・高知について読んでおくとの効果的です(1時間程度)。				
14	九州地方の観光地・郷土料理・祭り (福岡・佐賀・長崎・熊本)					教科書等で福岡・佐賀・長崎・熊本を読んでおくとの効果的です(1時間程度)。				
15	九州地方・沖縄の観光地・郷土料理・祭り (大分・宮崎・鹿児島・沖縄)					教科書等で大分・宮崎・鹿児島・沖縄を読んでおくとの効果的です(1時間程度)。				
教科書	「国内観光地理サブノート」株式会社JTB総合研究所 「旅行業務実務シリーズ④国内旅行実務 国内観光資源」2024 株式会社JTB総合研究所									
参考文献	必要に応じて紹介する。また必要に応じて適宜プリントを配布する。									
備考	・受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。 ・本科目は遠隔（オンデマンド配信）にて実施する。 ・授業への疑問等については、次回以降の授業でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング TB-3-ECO-22				
				●	●					
科目名	海外観光地理				単位 認定者	佐藤 美輪		評価の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	本科目は、世界主要国・都市の観光地に関して基礎知識を身につけることを目的とする。国毎の地形と主要都市の基礎知識を学ぶため、首都、面積、人口、言語、気候、人種、歴史、宗教、通貨、時差、を講義では触れる。国毎の観光イメージを象徴する事項（自然、文化、産物など）を各自調べる作業も取り入れることで、理解や考察を深めていく。									
到達目標	世界遺産をはじめとし、海外の観光地に目を向け、関心がある国について自主的に調べ、学びを深めていく姿勢を養う。世界主要国の都市や観光資源について理解できるようになる。									
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切にし、講義内容の予習・復習を積極的に行ってほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス(海外観光地理の授業の進め方・評価など)									
2	中国(北部・南部・香港・マカオ・台湾)					事前にテキストの中国の北部・南部・香港・マカオ・台湾の部分を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。				
3	中国(シルクロード・チベット)・韓国					事前にテキストの中国(シルクロード・チベット)・韓国を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。				
4	東南アジアⅠ(ベトナム・ラオス・カンボジア・ミャンマー・タイ)					事前にテキストの東南アジアⅠ(ベトナム・ラオス・カンボジア・ミャンマー・タイ)を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。				
5	東南アジアⅡ(マレーシア・シンガポール・インドネシア・フィリピン)・グアム					事前にテキストの東南アジアⅡ(マレーシア・シンガポール・インドネシア・フィリピン)・グアムを読んで授業に臨んでください（1時間程度）。				
6	アメリカ合衆国(東部)					事前にテキストのアメリカ合衆国(東部)の箇所を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。				
7	アメリカ合衆国(西部・西海岸)					事前にテキストのアメリカ合衆国(西部・西海岸)の箇所を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。				
8	カナダ・ハワイ諸島					事前にテキストのカナダ・ハワイ諸島を読んで授業に臨んでください（1時間程度）。				
9	オーストラリア・ニュージーランド					事前にテキストのオーストラリア・ニュージーランドを読んで授業に臨んでください（1時間程度）。				
10	イギリス					事前にテキストのイギリスを読んで授業に臨んでください（1時間程度）。				
11	フランス					事前にテキストのフランスを読んで授業に臨んでください（1時間程度）。				
12	ドイツ					事前にテキストのドイツを読んで授業に臨んでください（1時間程度）。				
13	イタリア					事前にテキストのイタリアを読んで授業に臨んでください（1時間程度）。				
14	スペイン・ポルトガル					事前にテキストのスペイン・ポルトガルを読んで授業に臨んでください（1時間程度）。				
15	総まとめ					前回までの授業内容を復習して授業に臨んでください（1時間程度）。				
教科書	「海外旅行地理 プラティカル」JTB総合研究所 「海外観光地理 サブノート」JTB総合研究所									
参考文献	必要に応じて指示する。									
備考	受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。事前にテキスト・サブノートに目を通して、授業に臨むこと。授業への疑問等については、次回以降の授業でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●			●	TB-3-ECO-36				
科目名	東南アジアの言語と文化				単位 認定者	鎌田 貢治		評価の方法	試験 (レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	観光立国が現代日本の成長の一つの柱として重視されているが、本科目は近年、訪日旅行者が増加傾向を続けるアジア諸国、中でも東南アジアの国々について、どのような言語が話され、どのような文化が育まれているのかを概括的に学修する。そこから東南アジア諸国の言語・文化の多様性を理解し、それらの国からのインバウンド需要に応える基礎的素養を身につけることを目的とする。									
到達目標	観光分野において日本にとってこれからますます重要となる東南アジアの国々について、地理的關係、文化的文脈、言語状況、社会的背景などを自分の言葉で語れるようになる。									
学修者への期待等	今後東南アジア諸国はますます重要な日本のパートナーとなります。日頃からニュースやネットなどで東南アジア諸国の動きに注意してください。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	東南アジア諸国と日本の関係：戦前				東南アジアと日本の交流史について調べてください。（概ね30分）				鎌田 貢治	
2	東南アジア諸国と日本の関係：戦後から現在まで				東南アジアと日本の交流史について調べてください。（概ね30分）				鎌田 貢治	
3	インドネシアの地理と民族の多様性				インドネシア共和国の地理と民族について調べてください。（概ね30分）				Inna Syahida Inayah	
4	インドネシアの歴史と宗教的背景				インドネシアの歴史についての動画を観てください。 https://www.youtube.com/watch?v=gjRSWNhC1Xo (30分程度)				Inna Syahida Inayah	
5	現代インドネシアの社会と文化				インドネシア共和国の社会と文化について調べてください。（概ね30分）				Inna Syahida Inayah	
6	インドネシア語の基礎知識（基礎文法）				インドネシア語の文の基本構造について見ておいてください。 https://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/id/gmod/courses/c01/lesson01/				Inna Syahida Inayah	
7	ベトナムの文化				「ベトナムの紹介」 https://youtu.be/5p70TmXZGDA?si=Y00BSxiTVRykiYm- ビデオを見てきてください。（概ね30分）				Bui Thuy Linh	
8	ベトナムの歴史				ベトナムの歴史についてのビデオを見てきてください。 https://youtu.be/KjbqsATbiVY?si=MBB3eFwfZrnpFv8J （概ね30分）				Bui Thuy Linh	
9	ベトナムの言語				東京外国語大学言語モジュール ベトナム語 (http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/vi/) でベトナム語について調べてきてください。（概ね30分）				Bui Thuy Linh	
10	ベトナムと日本の違い				(グループワーク) ベトナムの国、人、生活、観光、経済について調べて、日本と比較してください。（概ね30分）				Bui Thuy Linh	
11	タイの暮らしと文化①：タイの地理と気候、タイ人の国民性、食文化				タイの地理情報・気候・タイ料理について調べてください。（概ね30分）				Sutheera Sritrakool	
12	タイの暮らしと文化②：タイの習慣、年間行事・祭り、観光				タイのお祭り・観光地について調べてください。（概ね30分）				Sutheera Sritrakool	
13	タイの美術と伝統芸術				タイの美術・音楽・舞踊について調べてください。（概ね30分）				Sutheera Sritrakool	
14	タイのことばとその文化的な背景				タイ文字・タイ語の特徴・挨拶について調べてください。（概ね30分）				Sutheera Sritrakool	
15	まとめ：東南アジアと日本の新たな関係				東南アジア諸国と日本との新たな関係について考えてください。（概ね30分）				鎌田 貢治	
教科書	特に使用しない。									
参考文献	授業中に指示する。									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

(鎌田) 40数年旅行会社に在籍し、様々な経験 体験等を伝えていきたい。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-37				
	●	●								
科目名	韓国語会話Ⅱ				単位 認定者	李 美賢		評価の方法	試験 (レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目は、韓国語の基礎をすでに修得した学生を対象とし、口頭表現力、聴解力、読解力の向上を目指す。すなわち「覚える韓国語から使う韓国語」を指向し、高度な文法的知識を身に付けると同時に現地で通用する会話運用能力を養う。そのために、韓国の文化、経済、価値観の理解も深め、ビジネスや文化交流の現場で活躍できる人材育成を目指す。									
到達目標	韓国語の初中級レベルの語彙及び文法を理解できるようになる。ネイティブスピーカーの話しを理解し、簡単な文章書き・聞き取り・日常会話ができるようになる。									
学修者への期待等	・入門である教科書「キムチ1 韓国語」を学んだ基礎文法をしっかり理解したうえで授業に臨んでほしい。また、現地で通用する語学力を高めるためには、単語力の強化を勧める。 ・韓国語能力検定試験(TOPIK)を受験する積極的な姿勢を期待する。									
回	授業計画					準備学修				
1	・ガイダンス、簡単な会話の練習、韓国語の読み方 ・クラス分け					シラバスを読み、内容を理解しておく(概ね40分)				
2	会話練習：ペア・ワーク					自己紹介内容を考えておく(概ね40分)				
3	第7課 ①해요体(1) ②目的助詞：～을 ③疑問詞					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること(概ね60分)				
4	第7課 復習と応用 ①해요体(1) ②目的助詞：～을 ③疑問詞					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること(概ね60分)				
5	第8課 ①해요体(2) ②～で(場所) ③～疑問詞					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること(概ね60分)				
6	第8課 復習と応用 ①해요体(1) ②で(場所) ③～疑問詞					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること(概ね60分)				
7	第9課 ①해요体(3) ②固有数詞 ③～から～まで					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること(概ね60分)				
8	第9課 復習と応用 ①해요体(3) ②固有数詞 ③～から～まで					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること(概ね60分)				
9	第10課 ①～してください。 ②～に(人) ③しません。(안を使った否定形)					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること(概ね60分)				
10	第10課 復習と応用 ①～してください。 ②～に(人) ③しません。(안を使った否定形)					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること(概ね60分)				
11	第11課 ①過去形：～しました。～でした ②～好きです ③～なさってください(尊敬形)					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること(概ね60分)				
12	第11課 復習と応用 ①過去形：～しました。～でした ②～好きです ③～なさってください(尊敬形)					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること(概ね60分)				
13	第12課 ①합니다体(名詞) ②합니다体(用言) ③합니다体(尊敬形)					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること(概ね60分)				
14	第12課 復習と応用 ①합니다体(名詞) ②합니다体(用言) ③합니다体(尊敬形)					授業で学んだ内容を確認し必ず復習すること(概ね60分)				
15	教科書のまとめと振り返り					第12課まで学んだ内容を必ず復習すること(概ね60分)				
教科書	「キムチ1 韓国語入門」山崎玲美奈著、2022.1、朝日出版社									
参考文献	授業内で紹介する。									
備考	・教科書を中心に授業を行うので、必ず持参し、講義で参考資料として配る資料はファイルしておく ・提出された疑問については毎回フィードバックを行う。履修状況により、進度や順番が変更になる場合がある。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-25				
	●	●								
科目名	中国語会話 I				単位 認定者	程 艶春		評価 の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目では、中国語の発音、文字から始まり、基本的な文法や会話を学習し、初級の言語能力を養成することを目的とする。中国語は、アジア圏そして世界で必須の言語であり、本講義において基本的な中国語力を獲得することを目標とする。									
到達目標	中国語の基本的な発音の知識と文法を身につけて、簡単な読み書きと会話ができることを目標にしています。									
学修者への期待等	毎回学修した内容をしっかり復習すること、授業中に積極的にコミュニケーション活動に参加することを期待しています。									
回	授業計画				準備学修					
1	中国語についての豆知識									
2	中国語の発音 1（母音について）				新しく学修した豆知識についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）					
3	中国語の発音 2（子音について）				新しく学修した母音についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）					
4	中国語の基礎文法 1（是の文型）				新しく学修した子音についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）					
5	中国語の基礎文法 2（有の文型）				新しく学修した文法 1 についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）					
6	会話 1 誘う文型				新しく学修した文法 2 についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）					
7	会話1のロールプレイ				新しく学修した誘う文型についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）					
8	会話 2 聞く文型				新しく学修した会話 1 の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）					
9	会話 2 のロールプレイ				新しく学修した会話2 聞く文型についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）					
10	会話 3 祝う文型				新しく学修した会話2の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）					
11	会話 3 のロールプレイ				新しく学修した会話 3 祝うの文型についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）					
12	会話 4 お願いする文型				新しく学修した会話3の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）					
13	会話 4 のロールプレイ				新しく学修した会話4 お願いする文型についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）					
14	会話5 ほめ方の文型				新しく学修した会話4の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）					
15	会話5のロールプレイ									
教科書	「ゼロから話せる中国語」市瀬智紀／程艶春著、三修社									
参考文献	特になし									
備考	授業への疑問等については、次回以降の授業にフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング TB-3-ECO-38				
	●	●								
科目名	中国語会話Ⅱ				単位 認定者	程 艶春		評価の方法	試験 (レポート)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
						授業回数	15 回			
授業の概要	本科目では、「中国語会話Ⅰ」を受けて、基本的な中国語の文法と会話を習得したのち、初級の中国語の能力を活用して、中国語を円滑に発音しつつ、中国語の文法規則を総体的に認識して会話の中で確実に活用できることを目的とする。									
到達目標	学修した基本の文法を応用して、自分から言葉を組み立てて、書く、会話及び簡単な文章読解ができることを目標にしています。									
学修者への期待等	毎回学修した内容をしっかり復習すること、授業中に積極的にコミュニケーション活動に参加することを期待しています。									
回	授業計画				準備学修					
1	今まで習った内容をまとめて復習する									
2	会話6 電話のかけ方				今まで習得した内容についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）。					
3	会話6のロールプレイ				新しく学修した電話のかけ方についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）。					
4	会話7 許可をもらう文型				新しく学修した会話6の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）。					
5	会話7のロールプレイ				新しく学修した会話7許可をもらう文型についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）。					
6	会話8 感情表現の文型				新しく学修した会話7の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）。					
7	会話8のロールプレイ				新しく学修した感情表現についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）。					
8	会話9 体調の表現の文型				新しく学修した会話8の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）。					
9	会話9のロールプレイ				新しく学修した体調の表現の文型についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）。					
10	会話10 使役の文型				新しく学修した会話9の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）。					
11	会話10のロールプレイ				新しく学修した使役の文型についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）。					
12	会話11 意思表示の文型				新しく学修した会話10の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）。					
13	会話11のロールプレイ				新しく学修した意思表示の文型についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）。					
14	小文章の解説				新しく学修した会話11の会話についてテキストやノートを読み返して復習し、次回の講義に臨むこと（1時間程度）。					
15	まとめと復習									
教科書	「ゼロから話せる中国語」市瀬智紀／程艶春著、三修社									
参考文献	特になし									
備考	授業への疑問等については、次回以降の授業にフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-26				
	●	●								
科目名	フランス語会話				単位 認定者	野中 みどり		評価 の方法	授業内確認テスト (2回)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		小テスト	40 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題	10 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目では、口頭による練習問題を多く重ねることで、フランス語の世界を「音」から理解することから始める。具体的には、日常生活の各場面で多く使用される基本的なフランス語表現を繰り返し聞き、発音することで、状況に即した表現を「音の連鎖」として捉え、また自らも状況に合わせて「音の連鎖」を発信する訓練を行う。その過程で最小限の文法事項、文字表記法、様々な慣用表現などの説明も適宜行い、簡単なフランス語を聞き、話し、読み、書く力を養う。									
到達目標	(1)挨拶や基本的な考えを平易な表現で相手に伝えることができ、かつ相手の表現を理解することができる。 (2)モデル会話文を理解して問題に適切に答えることができる。 (3)小テストでは常に半分以上の点を取ることができる。									
学修者への期待等	言葉はコミュニケーションの手段であると同時に世界をどう見るかという世界観の表れ、つまり文化そのものです。フランス語話者が世界をどう捉えているかを意識して日本語と比較しながら学習しましょう。また必ず事務局を通して教科書を入手し、空欄等に適切な情報を書き込んで学びを進めてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	0課：フランス語の特徴を紹介、アルファベ					0課および8-9頁を眺めておく：概ね1時間。				
2	0課：基本の挨拶、数字1-10、パリについて					0課会話文の音声聞く：概ね30分。挨拶と数字を復習：概ね30分。				
3	1課：国籍と名前の言い方、フランスの学生生活					1課会話文を聞く、主語と動詞を覚える：概ね30分。会話音声復習、練習問題を解く：概ね30分。				
4	2課：職業を言う、規則動詞、疑問文、フランスについて（グループワークでクイズに答える）					2課会話文を聞く、er動詞を覚える：概ね30分。会話音声復習、宿題を解く：概ね30分。				
5	3課：好みを言う、冠詞、お店について（グループワークでカフェでのやり取りを実践する）					3課会話文を聞く、名詞を予習：概ね30分。会話音声復習、宿題を解く：概ね30分。				
6	4課：家族について話す、否定文、数字11-20、社会生活（グループワークでクイズに答える）					4課会話文を聞く、avoirを覚える：概ね30分。会話音声復習、聞き取り問題を解く：概ね30分。				
7	5課：人や物を描写する、形容詞、買い物について					5課会話文を聞く、形容詞を予習：概ね30分。会話音声復習、宿題を解く：概ね30分。				
8	前半（0課-5課）の復習、確認テスト(1)、発音規則					0課-5課の疑問点などを質問できるように整理しておく：概ね30分。確認テストを復習：概ね30分。				
9	6課：誘う表現、主要動詞、レストランについて（グループワークで注文の練習を行う）					6課より32-33頁を眺めておく、会話文を聞く：概ね30分。会話音声復習、宿題を解く：概ね30分。				
10	6課：誘いに応える、縮約形、レストランについて続き					6課会話文を聞く、allerを覚える：概ね30分。会話音声復習、練習問題を解く：概ね30分。				
11	7課：予定を言う、近接未来、数字30-100、祝日と週末（グループワークでクイズに答える）					7課会話文を聞く、faireを覚える：概ね30分。会話音声復習、宿題を解く：概ね30分。				
12	8課：依頼する、命令文、パリ近郊の紹介（グループワークでクイズに答える）					8課会話文を聞く、prendreを覚える：概ね30分。会話音声復習、聞き取り問題を解く：概ね30分。				
13	9課：時間や天気を言う、非人称構文、世界遺産					9課会話文を聞く、finirを覚える：概ね30分。会話音声復習、聞き取り問題を解く：概ね30分。				
14	10課：人を紹介する、人称代名詞、フランスの地方都市					10課会話文を聞く、pouvoirを覚える：概ね30分。会話音声復習、宿題を解く：概ね30分。				
15	後半（6課-10課）の復習、確認テスト(2)、発音規則					6課-10課の疑問点などを質問できるように整理しておく：概ね30分。確認テストを復習：概ね30分。				
教科書	「トライ！ フランス語 F comme français」 藤田知子 他著、駿河台出版社 購入に際する重要注意事項：履修確定後に事務局を通して購入すること（下記備考も参照）。									
参考文献	仏和辞書（初回の授業で簡単な辞書の案内を行う）									
備考	授業内確認テスト(2回)は実施後に解答解説する。小テストと課題は回収後に添削し、次回授業で返却する。 確認テスト(2回)は教科書を参照しながら問題を解く。事務局が注文する同じ版の教科書を前提としたテストを行うため、教科書は自分で購入せずに必ず事務局を通して同じ版のものを購入すること。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-28					
		●	●								
科目名	おもてなし英語					単位認定者	吉野 千乃		評価の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	ロールプレイ		30 %	
						授業時間数	30 時間	受講態度		10 %	
				授業形態	講義	授業回数	15 回				
授業の概要	日々の生活の中で外国の方々と接する機会が急増している。本科目では、外国からのお客様に接するための英語表現を学ぶ。コンビニエンスストア、カフェ、レストランや販売店など、広く接遇の場面で活用できる英語力を身につける。実際の場面を想定したロールプレイングを取り入れ、それぞれの状況において必要な語彙や英語表現を修得する										
到達目標	日常的な接客の場面を想定し、顧客である外国人観光客に英語で対応できるようになる。日本の文化や習慣を再確認し、それらを英語で理解して説明できるようになる。										
学修者への期待等	授業では、店員と外国人客を互いに英語で演じるロールプレイングを多く行う。積極的な姿勢で活動に取り組める学生の履修を期待する。										
回	授業計画					準備学修					
1	おもてなし英語の授業の進めかたについて 「おもてなし英語」とは何か										
2	Unit 1 Ramen ペアワーク (会話練習)					【事前】 pp.8-10. を予習し、日本食についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する (1時間程度)。					
3	Unit 2 Animal Café ペアワーク (会話練習)					【事前】 pp.12-14. を予習し、動物カフェについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する (1時間程度)。					
4	Unit 3 Stand-up Eatery ペアワーク (会話練習)					【事前】 pp.16-18. を予習し、立ち飲み屋についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する (1時間程度)。					
5	Unit 4 Convenience Store ペアワーク (会話練習)					【事前】 pp.20-22. を予習し、コンビニについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する (1時間程度)。					
6	Unit 5 Japanese Fast Food, Gyudon ペアワーク (会話練習)					【事前】 pp.24-25. を予習し、牛丼屋についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する (1時間程度)。					
7	Unit 6 Japanese Spa ペアワーク (会話練習)					【事前】 pp.28-31. を予習し、温泉についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する (1時間程度)。					
8	Unit 7 Flour Dishes ペアワーク (会話練習)					【事前】 pp.32-35. を予習し、粉ものについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する (1時間程度)。					
9	Unit 8 Karaoke ペアワーク (会話練習)					【事前】 pp.36-39. を予習し、カラオケについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する (1時間程度)。					
10	Unit 9 Seating Charges at Japanese Restaurant ペアワーク (会話練習)					【事前】 pp.40-43. を予習し、お通しについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する (1時間程度)。					
11	Unit 10 Second-Hand Store ペアワーク (会話練習)					【事前】 pp.44-47. を予習し、リサイクルショップについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する (1時間程度)。					
12	Unit 11 Kawaii Culture ペアワーク (会話練習)					【事前】 pp.48-51. を予習し、カワイイ文化についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する (1時間程度)。					
13	Unit 12 Soba ペアワーク (会話練習)					【事前】 pp.52-55. を予習し、日本そばについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する (1時間程度)。					
14	Unit 13 Bento ペアワーク (会話練習)					【事前】 pp.56-59. を予習し、弁当についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する (1時間程度)。					
15	全体Review: これまでに学んだ表現をまとめて自分なりの「おもてなし英語ノート」を作成する										
教科書	Howard Tarnoff. (2020).Glances of Japan. (「日本文化とおもてなし英語」)坂部俊行, 岡島徳昭, 南雲堂.										
参考文献	資料は随時配布する。										
備考	・毎時に授業への疑問などをReactionとして提出してもらい、次回にフィードバックを行う。 ・履修者の状況によって進度や順番に変更が生じる場合がある。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

						科目ナンバリング				
						TB-3-ECO-30				
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力					
		●			●					
科目名	観光英語ガイド基礎				単位 認定者	吉野 千乃		評価 の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	観光ビジネス学科の基礎科目・基幹科目で学んだ観光業に関する知識を活かし、地域の魅力を英語でガイドできるような英語力を身に付けることを目的とする。訪日外国人観光客の視点で考えるため、外国人からみた日本の文化等についても学ぶ。他者の視点を持つことで、地域の新たな魅力に気づくことになる。それらをわかりやすく伝えるための英語表現を学ぶ。									
到達目標	観光英語に関する知識をさらに伸ばし、日本の代表的な観光地を訪れた外国人を英語で案内できるようになる。英語を通して、外国人にとって「異文化」である自国の文化をより深く理解できるようになる。									
学修者への期待等	観光分野の知識とともに、英語の技能を伸ばしたいと考える者、異文化理解に関心のある者、テキストの内容理解にとどまらず、積極的に英語を使用したいと考える者の履修を期待する。 また、総合旅行業務取扱管理者試験の英語問題も授業内で扱うため、受験を目指す者の履修も歓迎する。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業の進め方について Lesson 1 An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan!					シラバスをよく読み、到達目標を理解しておく。				
2	Lesson 2 Preparation for the 2020 Olympic Games in Tokyo					p. 10 のオリンピックについての文章を読み、T/Fに回答しておく（50分程度）。				
3	Lesson 3 Do You Like to Watch Kabuki?					p. 14の歌舞伎についての文章を読み、T/Fに回答しておく（50分程度）。				
4	Lesson 4 The Sapporo Snow Festival 総合旅行業務取扱管理者試験英語問題①					p. 18の雪まつりについての文章を読み、T/Fに回答しておく（50分程度）。				
5	Lesson 5 Hiraizumi as the Buddhist Pure Land					p. 22の平泉についての文章を読み、T/Fに回答しておく（50分程度）。				
6	基本的な会話練習と重要な語句 Scene 1-3 ロールプレイ					授業後にロールプレイで用いた会話表現、重要語句をまとめておく(50分程度)。				
7	Lesson 6 Yokohama Port					p. 26の横浜についての文章を読み、T/Fに回答しておく（50分程度）。				
8	Lesson 7 Mt. Fuji					p. 30の富士山についての文章を読み、T/Fに回答しておく。（50分程度）				
9	Lesson 8 Omi Province and Its Military History 総合旅行業務取扱管理者試験英語問題②					p. 34の近江地方についての文章を読み、T/Fに回答しておく（50分程度）。				
10	Lesson 9 The Deer in Nara					p. 38の奈良についての文章を読み、T/Fに回答しておく（50分程度）。				
11	Lesson 10 Kyoto Station					p. 42の京都についての文章を読み、T/Fに回答しておく（50分程度）。				
12	Lesson 11 Let's Explore Osaka 総合旅行業務取扱管理者試験英語問題③					p. 46の大阪についての文章を 読み、T/Fに回答しておく（50分程度）。				
13	Lesson 12 Port City Kobe					p. 50の神戸についての文章を読み、T/Fに回答しておく（50分程度）。				
14	Lesson 13 Sand Dunes in Tottori					p. 54の鳥取についての文章を読み、T/Fに回答しておく（50分程度）。				
15	基本的な会話練習と重要な語句 Scene 4-5 ロールプレイ / 全体の振り返り					授業後にロールプレイで用いた会話表現、重要語句をまとめておく(50分程度)。				
教科書	Hospitality English. (おもてなしの観光英語) 木戸美幸, Carolyn Wright, 河原俊昭, 徳地慎二, (2016). 三修社									
参考文献	随時配布する。									
備考	・毎時に授業への疑問などをReactionとして提出してもらい、次回にフィードバックを行う。 ・履修者の状況によって進度や順番に変更が生じる場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング TB-4-SEM-08				
	●	●								
科目名	観光研修Ⅱ				単位 認定者	高野 宏輝 小里 千寿 吉野 千乃 佐藤 美輪 鎌田 貢治		評価 の方法	試験 (レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数			
授業の概要	「観光研修Ⅱ」は学年ごと、あるいは学科全体で実施される学外研修、フィールドワーク、観光施設の見学・視察・体験などを通じた学修を行う。この科目は1年次の「観光研修Ⅰ」を引き継ぐものであり、1年次に学んだ観光事象についての認識をもとに、観光に関する学修をより多方面から捉え、その結果として獲得した知識や論理的思考力によって観光学修の意義を自分の言葉で説得的に表現する力を養う。									
到達目標	「観光研修Ⅰ」で学んだことを基に、自ら課題を発見し、解決する力を育成することを目的とする。 観光現場を訪問するのみならず、関連分野の実践的に学ぶことにより専門的知識をさらに深化させ、卒業後に観光ビジネス等の分野で活躍できる実務能力を身につける。									
学修者への期待等	研修や体験は団体行動となることが多いため、1人1人が短大生としての自覚を持って行動してほしい。また、協調性と同時に積極性を持って研修に取り組む姿勢を期待する。									
回	授業計画					準備学修				
1	サービス介助体験セミナー ①事前学修					【事前】 サービス介助士資格とはどのようなものなのか調べておくこと（概ね50分）。				
2	サービス介助体験セミナー ②研修					【事前】 サービス介助士資格と観光業の関連性について調査しておくこと（概ね50分）。				
3										
4	サービス介助基礎研修 ③事後学修					【事後】 サービス介助基礎研修の内容をまとめておくこと（概ね50分）。				
5	手話体験講座					【事前】 観光業と手話の関りについて調査しておくこと（概ね1時間）。				
6	文化観光					【事前】 鑑賞作品について調査しておくこと（概ね50分）。				
7										
8	文化観光:事後学修					【事後】 鑑賞後の感想を800字程度でまとめること（概ね1時間）。				
9	学外研修:事前学修					【事前】 研修地について調査しておくこと（概ね50分）。				
10	学外研修					【事後】 研修地で学んだこと、体験したこと、知ったことについての資料を整理しておくこと（概ね50分）。				
11										
12	学外研修:事後学修					【事後】 学外研修の内容をまとめておくこと（概ね50分）。				
13	教育文化施設視察					【事前】 施設に向けて質問事項を考えておくこと（概ね40分）。				
14										
15	教育文化施設視察:事後学修					【事後】 施設見学の内容をまとめておくこと（概ね40分）。				
教科書	使用しない。									
参考文献	参考資料は随時配布する。									
備考	状況により順番や進度、内容に変更が生じる場合がある。研修をオンラインに変更して実施することがある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-10				
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミⅡ				単位 認定者	高野 宏輝		評価の 方法	授業内課題等	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	「観光ゼミⅡ」で学んだコミュニケーション力と、課題の発見・解決力などを引き継ぎ、さらにそれらの力を観光ビジネスの現場において活かせるように、各自の関心に従って選択した観光ゼミでの討論やグループワーク、校外授業などを通して、一層の課題発見力、コミュニケーション力、課題解決力などを涵養する。具体的には教員の助言のもとで各自の研究テーマを定め、調査し、発表、振り返りまで行うプロセスを経ることで観光研究の経験を積み、自分の言葉で観光を語る力を養成する。									
到達目標	①自分の強みを知り、自分らしい「リーダーシップ」を発揮し、チームの目標達成に貢献できるようにする。 ②「マーケティングマインド」を育成し、お客様に満足いただける仕事の重要性を理解できるようにする。 ③イベント運営の知識を修得し、アウトプットできるようにする。									
学修者への期待等	・グループディスカッションや自身が考えたことをプレゼンテーションするなど、自分やグループの意見をまとめ、発表する機会が与えられる。人の話を聴き、積極的に各自が発言することで、ゼミ活動の活性化に貢献して欲しい。 ・チーム活動が基本となる。全コマ出席する意思のある学生に参加して欲しい。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス (ゼミの進め方, 他己紹介, ゼミ長選出など)									
2	「リーダーシップ行動」の個人行動目標の設定 チームとしてのビジョン共有 グループワーク					【事後】各自のリーダーシップ行動目標設定に関するレポートを提出する (30分程度)				
3	観光ビジネス研究 テーマの決定作業スケジュール計画					【事前・事後】各自の研究テーマに基づく情報収集・考察・資料作成を行う (30分程度)				
4	観光ビジネス研究 研究テーマ情報交換①初期案 グループワーク					【事前】発表準備を行う (1時間程度) 【事後】他者フィードバックから修正案を検討する (30分程度)				
5	観光ビジネス研究 研究テーマ情報交換②修正案 グループワーク									
6	観光ビジネス研究 研究テーマ情報交換③最終案 グループワーク									
7	観光ビジネス研究 研究発表会の進行 グループワーク									
8	観光ビジネス研究 研究発表会① グループワーク					【事前】発表準備を行う (担当回のみ 2時間程度)				
9	観光ビジネス研究 研究発表会② グループワーク									
10	観光ビジネス研究 研究発表会③ グループワーク									
11	観光ビジネス研究 研究発表会 全体振り返り グループワーク					【事後】振り返りレポートを提出する (1時間程度)				
12	イベント運営の知識①イベントの概念と分類					【事前】テキスト1節を読んでくること (30分程度)				
13	イベント運営の知識②メディアとイベント					【事前】テキスト3節を読んでくること (30分程度)				
14	イベント運営の知識③企画と計画					【事前】テキスト4-5節を読んでくること (30分程度)				
15	イベント運営の知識④企画書とプレゼンテーション 全体 振り返り グループワーク					【事前】テキスト6節を読んでくること (30分程度)				
教科書	「基礎から学ぶ, 基礎からわかるイベント」 イベント検定公式テキスト 日本イベント産業振興協会著, UDジャパン (2015/3/1)									
参考文献	必要に応じて講義中に紹介する。									
備考	・授業内課題はUNIPA経由での提出を基本とし, 教員評価の後に各学生へフィードバックされる。適宜参考資料をUNIPA内に掲載する。 ・グループワーク・チーム活動における情報共有にはMicrosoft Teamsを活用する。 ・受講者の要望, 理解度等により, 講義の順番や重点の置き方を変えることがある。 ・準備学修は, 各講義の際に必要なに応じて個別に指示する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

旅行会社で顧客に対するイベント企画提案、運営実践の経験がある。イベント業務管理士として、知識と実践に基づく学生指導を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-10						
	●	●	●	●	●							
科目名	観光ゼミⅡ				単位認定者	小里 千寿		試験 (レポート)	40	%		
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		評価の方法	授業内課題等	30	%
						授業時間数	30 時間			受講態度	30	%
				授業形態	演習	授業回数	15 回					
授業の概要	「観光ゼミⅠ」で学んだコミュニケーション力と、課題の発見・解決力などを引き継ぎ、さらにそれらの力を観光ビジネスの現場において活かせるように、各自の関心に従って選択した観光ゼミでの討論やグループワーク、校外授業などを通して、一層の課題発見力、コミュニケーション力、課題解決力などを涵養する。具体的には教員の助言のもとで各自の研究テーマを定め、調査し、発表、振り返りまで行うプロセスを経ることで観光研究の経験を積み、自分の言葉で観光を語る力を養成する。											
到達目標	結婚というテーマを切り口に、現代日本における若年層の意識の変容を探ることを通して、少子高齢化問題、正規・非正規などの雇用問題、ワークライフバランス、多様性など、現代に内包する問題への理解を深める。その上で、将来自分が目指す職業においてどのような意識変革や解決すべき問題があるかについて探求する力を醸成する。											
学修者への期待等	それぞれのキーワードに対する理解及び課題を見つけ、問題に対してどのように探求すればよいかの方法を整理するための講義である。また、リサーチやディスカッションを通して、自分の考えを広げ他者を受け入れる価値観を醸成するためのプログラムとなっている。 学習成果：探究心、情報収集力、コミュニケーション力、思考力、課題解決能力、主体性											
回	授業計画					準備学修						
1	ガイダンス：ゼミの進め方、ゼミ長などの選出、ゼミ予定の検討。調査するインバウンドテーマの選定。					予習：なし 復習：リアクションペーパーの記入（30分）						
2	講義：現代社会の若年層における結婚に対する意識の変容（問題の抽出）					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）						
3	関連施設見学及び担当者からのヒアリング 情報収集、担当者とのディスカッション、リサーチペーパーのまとめ					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）						
4						予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）						
5	調査内容のプレゼンテーション					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）						
6	講義：結婚から見る少子高齢化問題について					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）						
7	関連施設見学及び担当者からのヒアリング 情報収集、担当者とのディスカッション、リサーチペーパーのまとめ					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）						
8						予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）						
9	調査内容のプレゼンテーション					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）						
10	講義：働き方の変化（正規・非正規雇用問題）					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）						
11	社会人に聴く（様々な働き方）①					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）						
12	社会人に聴く（様々な働き方）②					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）						
13	社会人に聴く（様々な働き方）③					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）						
14	少子高齢化と雇用から見る仕事と働き方の変化について					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）						
15	まとめ：「自分と仕事」について語ろう（ディスカッション）					復習：リアクションペーパーの記入（30分）						
教科書	特に使用しません。必要な資料を随時配布します。											
参考文献	授業中に適宜紹介します。											
備考	授業への疑問等については、次回以降の授業にフィードバックを行う。											

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-11					
	●	●	●	●	●						
科目名	観光ゼミⅡ					単位認定者	吉野 千乃		評価の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	授業内 課題等		30 %	
						授業時間数	30 時間	受講態度		20 %	
				授業形態	演習	授業回数	15 回				
授業の概要	「観光ゼミⅠ」で学んだコミュニケーション力と、課題の発見・解決力などを引き継ぎ、さらにそれらの力を観光ビジネスの現場において活かせるように、各自の関心に従って選択した観光ゼミでの討論やグループワーク、校外授業などを通して、一層の課題発見力、コミュニケーション力、課題解決力などを涵養する。具体的には教員の助言のもとで各自の研究テーマを定め、調査し、発表、振り返りまで行うプロセスを経ることで観光研究の経験を積み、自分の言葉で観光を語れる力を養成する。										
到達目標	仙台市内近郊の身近な観光地情報を英語で発信することを最大の目的とし、調査計画やその実施、結果のまとめとアウトプットといった一連の作業を、自分たちの力でやり遂げることができるようになる。										
学修者への期待等	日本の文化を紹介することや、異文化理解に関心を持つ者、英語を用いて基本的な情報収集と発信を行うことに意欲のある者の履修を期待する。また、グループワークには各自が責任感を持ち、積極的な姿勢で臨むことが必須である。無断欠席のないよう注意すること。										
回	授業計画					準備学修					
1	授業ガイダンス、ゼミ内の役割決定、グループ分け										
2	テーマ設定（グループディスカッション）					【事前】自分が英語で紹介したい内容をそれぞれ検討しておく（概ね50分）。					
3	紹介方法の決定（グループディスカッション）					【事前】テーマに沿って、実際に英語で発信されている素材を調査しておく（概ね50分）。					
4	作業スケジュールの作成(グループワーク)					【事前】調査から作業完了までの行程を検討しておく（概ね50分）。					
5	現地調査の準備(グループワーク)					【事前】現地調査の計画を立てる（概ね50分）。					
6	現地調査①仙台市内近郊で調査を行う					【事前】現地調査スケジュールの詳細を確認する（概ね40分）。					
7											
8	現地調査のまとめ(グループワーク)					【事前】調査結果メモや入手した資料をまとめておく（概ね50分）。					
9	現地調査①の発表					【事前】役割分担を元に、担当箇所のまとめ作業をおこなっておく（概ね50分）。					
10	現地調査②:仙台市内近郊で調査を行う					【事前】現地調査スケジュールの詳細を確認する（概ね40分）。					
11											
12	発表のまとめとリハーサル					【事前】調査①の発表を踏まえ、修正箇所を洗い出しておく（概ね50分）。					
13	仙台市内滞在のインバウンドへ向けての発信					【事前】仙台市内にて、決定したテーマで発表するための事前準備を行う（概ね90分）。					
14											
15	まとめと振り返り										
教科書	使用しない。										
参考文献	授業内で適宜紹介する。										
備考	状況により現地調査、発表をオンラインなどで実施する場合がある。また、履修者の状況により、内容や進度の調整を行うことがある。授業への疑問等については、次回以降の授業にフィードバックを行う。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-10				
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミⅡ				単位認定者	佐藤 美輪		評価の方法	試験(レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	「観光ゼミⅠ」で学んだコミュニケーション力と、課題の発見・解決力などを引き継ぎ、さらにそれらの力を観光ビジネスの現場において活かせるように、各自の関心に従って選択した観光ゼミでの討論やグループワーク、校外授業などを通して、一層の課題発見力、コミュニケーション力、課題解決力などを涵養する。具体的には教員の助言のもとで各自の研究テーマを定め、調査し、発表、振り返りまで行うプロセスを経ることで観光研究の経験を積み、自分の言葉で観光を語れる力を養成する。									
到達目標	①観光地や東日本大震災について調査し、フィールドワークを通し、現状や今後の課題について自分の言葉で明確に伝えられるようになる。 ②同じ目的を持ったメンバーと協調し、最後までやり遂げる力を修得する。									
学修者への期待等	東北の温泉地や、東日本大震災について、自ら調べ自分の意見を持ち、主体的に問題意識を持てる人の履修を希望する。グループワーク等の実践演習を計画しているため、遅刻・欠席等が極力生じないように注意すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス：自己紹介、ゼミの進め方					自己紹介で話をする内容を考えて授業に臨んでください（1時間程度）。				
2	温泉地の観光まちづくり：東北・宮城の温泉地について					東北の温泉地を事前に調べてきてください（1時間程度）。				
3	温泉地の観光まちづくり：フィールドワーク準備					フィールドワーク先について事前に調べてきてください（1時間程度）。				
4	温泉地の観光まちづくり：フィールドワーク									
5										
6	温泉地の観光まちづくり：報告書作成					報告会に向けて、報告資料を仕上げておいてください（1時間程度）。				
7	温泉地の観光まちづくり：フィールドワーク報告会									
8	東日本大震災：被災地の今を考える					東日本大震災の被災地の現状を事前に調べてきてください（1時間程度）。				
9	東日本大震災：復興と課題					東日本大震災の復興と課題を事前に調べてきてください（1時間程度）。				
10	東日本大震災：フィールドワーク準備 ＜調査場所の下調べ＞					フィールドワーク先について事前に調べてきてください（1時間程度）。				
11	東日本大震災：フィールドワーク準備 ＜インタビュー項目の検討＞					インタビュー項目を事前に考えてきてください（30分程度）。				
12	東日本大震災：フィールドワーク									
13										
14	東日本大震災：報告書作成					報告会に向けて、報告資料を仕上げておいてください（1時間程度）。				
15	東日本大震災：フィールドワーク報告会									
教科書	使用しない。資料を適宜配布する。									
参考文献	随時紹介する。									
備考	受講者数や受講者の理解度により、フィールド先および授業の順序を変更する場合がある。授業への疑問等については、次回以降の授業にフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-10					
	●	●	●	●	●						
科目名	観光ゼミⅡ				単位認定者	鎌田 貢治		評価の方法	試験 (レポート)	30	%
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	50	%
						授業時間数	30 時間		受講態度	20	%
					授業形態	演習	授業回数		15 回		
授業の概要	「観光ゼミⅠ」で学んだコミュニケーション力と、課題の発見・解決力などを引き継ぎ、さらにそれらの力を観光ビジネスの現場において活かせるように、各自の関心に従って選択した観光ゼミでの討論やグループワーク、校外授業などを通して、一層の課題発見力、コミュニケーション力、課題解決力などを涵養する。具体的には教員の助言のもとで各自の研究テーマを定め、調査し、発表、振り返りまで行うプロセスを経ることで観光研究の経験を積み、自分の言葉で観光を語る力を養成する。										
到達目標	地元宮城の観光を考える上で地域の特性（歴史、変遷、現状等）を考察し、他の地域との関係性及び持続可能な案件等を、様々な材料を自ら考え、まとめることにより観光面のみならず関係人口及び定住人口の拡大の選択肢も見出し考察してもらう。										
学修者への期待等	昨今のインバウンド拡大において、地元宮城（特に仙北地区）が出来ることアピール出来ることを学生目線で何かを見出して欲しい点と、日本国内の方々にも気軽に来訪してもらう環境作りに少しでも寄与できる材料を見出して欲しい。それが交流人口→関係人口→定住人口に繋がることに寄与している実感してもらいたい。										
回	授業計画					準備学修					
1	ガイダンス：ゼミの進め方、ゼミ長などの選出、ゼミ予定の検討。調査するインバウンドテーマの選定。					宮城全般の一般的な内容について調べておいてください（概ね20分）。					
2	宮城全体の観光事情（観光含めた全般的）					宮城の観光事情の特性を調べておいてください					
3	宮城仙北地区の概要（観光地側面から）N01					宮城仙北地区の特性を調べておいてください					
4	宮城仙北地区の概要（歴史 地理的側面から）N02					宮城仙北地区の特性を調べておいてください					
5	大崎観光公社訪問					大崎観光公社の概要を調べておいてください					
6											
7	グループワークによる振り返り検証まとめ					訪問内容のまとめをしておいてください					
8	フィールド学習N01（鳴子温泉 岩出山 古川地区）					訪問地区の下調べをしておいてください					
9											
10	グループによる振り返り検証まとめ					訪問内容のまとめをしておいてください					
11	フィールド学習N02（美里 涌谷 松山地区）					訪問地区の下調べをしておいてください					
12											
13	グループによる振り返り検証まとめ					訪問内容のまとめをしておいてください					
14	まとめ：宮城仙北地区の観光事情等N01					プレゼン内容の練習をしておいてください					
15	まとめ：宮城仙北地区の観光事情等N02 仙南地区への継承					プレゼン内容の練習をしておいてください					
教科書	特に使用しません。必要な資料を随時配布します。										
参考文献	授業中に適宜紹介します。										
備考	授業への疑問等については、次回以降の授業にフィードバックを行う。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

40数年旅行会社に在籍をし、様々な経験体験を講義の中で伝えていきたい。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング TB-4-SEM-11				
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミⅢ				単位 認定者	高野 宏輝		評価の方法	授業内課題等	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	「観光ゼミⅢ」は基本的に「観光ゼミⅡ」の学修を引き継ぐものであり、同じ教員の観光ゼミを前期に引き続いて後期も選択することが期待される。2年次の1年間をかけて、観光に対する認識を深化させ、「観光ゼミⅡ」で獲得を目指した力に加えて、観光現象に関する注意力、思考力などを養う。具体的には教員の助言のもとで、関心ある課題の発見、調査、解決、振り返りを行うという一連の学修活動を繰り返すことで、2年間の観光ビジネスの学びを集大成するような認識の獲得を目指す。									
到達目標	①自分の強みを知り、自分らしい「リーダーシップ」を発揮し、チームの目標達成に貢献できるようにする。 ②「マーケティングマインド」を育成し、お客様に満足いただける仕事の重要性を理解できるようにする。 ③イベント運営の知識を修得し、アウトプットできるようにする。									
学修者への期待等	・ イベント（ツアー等）の企画運営を行う。自分なりの強みを活かして、イベントの成功に貢献して欲しい。 ・ グループディスカッションや自身が考えたことを発表する機会が与えられる。人の話を聴き、積極的に各自が発言することで、ゼミ活動の活性化に貢献して欲しい。 ・ チーム活動が基本となる。全コマ出席する意思のある学生に参加して欲しい。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス（ゼミの進め方等） イベント運営の知識⑤製作推進と管理・会場製作					【事前】テキスト7-8節を読んでもくること（30分程度）				
2	イベント運営の知識⑥プログラム製作・告知集客					【事前】テキスト9-10節を読んでもくること（30分程度）				
3	イベント運営の知識⑦イベント運営の全体像					【事前】テキスト11節を読んでもくること（30分程度）				
4	イベント運営の知識⑧運営業務のポイント					【事前】テキスト12節を読んでもくること（30分程度）				
5	イベント運営の知識⑨リスクマネジメント他					【事前】テキスト13-15節を読んでもくること（1時間程度）				
6	顧客満足（CS）の実践①基礎 講義とグループワーク					【事前】該当する資料や動画を閲覧する（1時間程度） 【事後】振り返りレポートを提出する（30分程度）				
7	顧客満足（CS）の実践②応用 講義とグループワーク									
8	リーダーシップとファシリテーション 講義とグループワーク									
9	イベント企画①イベント内容の決定 グループワーク					【事前】全員で企画するイベント運営の準備を行う （各回 30分～1時間程度）				
10	イベント企画② イベント計画立案 グループワーク									
11	イベント企画③ 運営マニュアル作成 グループワーク									
12	イベント企画④ 運営準備 グループワーク									
13	イベント実践（2コマ連続）					【事後】振り返りレポートを提出する（30分程度）				
14										
15	リーダーシップ行動振り返り まとめ（全体を振り返って） グループワーク					【事後】全体振り返りの最終レポート作成し提出する （1時間程度）				
教科書	「基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント」イベント検定公式テキスト 日本イベント産業振興協会著、UDジャパン（2015/3/1）									
参考文献	必要に応じて講義中に紹介する。									
備考	・ 授業内課題はUNIPA経由での提出を基本とし、教員評価の後に各学生へフィードバックされる。適宜参考資料をUNIPA内に掲載する。 ・ グループワーク・チーム活動における情報共有にはMicrosoft Teamsを活用する。 ・ 受講者の要望、理解度等により、講義の順番や重点の置き方を変えることがある。 ・ 準備学修は、各講義の際に必要なに応じて個別に指示する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
旅行会社で顧客に対するイベント企画提案、運営実践の経験がある。イベント業務管理士として、知識と実践に基づく学生指導を行う。

						科目ナンバリング				
						TB-4-SEM-11				
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力					
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミⅢ				単位 認定者	小里 千寿		評価 の方法	試験 (レポート)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	「観光ゼミⅢ」は基本的に「観光ゼミⅡ」の学修を引き継ぐものであり、同じ教員の観光ゼミを前期に引き続いて後期も選択することが期待される。2年次の1年間をかけて、観光に対する認識を深化させ、「観光ゼミⅡ」で獲得を目指した力に加えて、観光現象に関する注意力、思考力などを養う。具体的には教員の助言のもとで、関心ある課題の発見、調査、解決、振り返りを行うという一連の学修活動を繰り返すことで、2年間の観光ビジネスの学びを集大成するような認識の獲得を目指す。									
到達目標	結婚というテーマを切り口に、現代日本における若年層の意識の変容を探ることを通して、観光ゼミⅡで学んだ少子高齢化問題、正規・非正規などの雇用問題を掘り下げ、ワークライフバランス、多様性など、現代に内包する問題への理解を深める。その上で、将来自分が目指す職業においてどのような意識変革や解決すべき問題があるかについて探求する力を醸成する。									
学修者への期待等	それぞれのキーワードに対する理解及び課題を見つけ、問題に対してどのように探求すればよいかの方法を整理するための講義である。また、リサーチやディスカッションを通して、自分の考えを広げ他者を受け入れる価値観を醸成するためのプログラムとなっている。 学習成果：探究心、情報収集力、コミュニケーション力、思考力、課題解決能力、主体性									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス：ゼミの進め方、ゼミ長などの選出、ゼミ予定の検討。プレゼンテーションの説明。					予習：なし 復習：リアクションペーパーの記入（30分）				
2	講義：ワークライフバランスの推進					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）				
3	ワークライフバランスを重視した働き方についての調査（観光、ブライダル産業を中心に）					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）				
4	ゲストスピーカー講演①					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）				
5	中間プレゼンテーション					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）				
6	県内フィールドワーク（1）					見学先について調べてください（概ね30分）。				
7										
8	講義：多様性とは					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）				
9	ワークライフバランスを重視した働き方についての調査（観光、ブライダル産業を中心に）					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）				
10	ゲストスピーカー講演②					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）				
11	中間プレゼンテーション					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）				
12	県内フィールドワーク（2）					見学先について調べてください（概ね30分）。				
13										
14	個々のテーマ（少子高齢化問題、正規・非正規などの雇用問題、ワークライフバランス、多様性）について、これまでの学びをまとめる					予習：講義中に指示された事項（30分） 復習：リアクションペーパーの記入（30分）				
15	まとめ：「社会問題や変化から考える私の働き方」についてディスカッション					復習：リアクションペーパーの記入（30分）				
教科書	なし。講義中に適宜プリント等を配付する。									
参考文献	授業中に適宜示す。									
備考	授業への疑問等については、次回以降の授業にフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング TB-4-SEM-11					
	●	●	●	●	●						
科目名	観光ゼミⅢ				単位 認定者	吉野 千乃		評価の方法	試験 (レポート)	60	%
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	20	%
						授業時間数	30 時間		受講態度	20	%
					授業形態	演習	授業回数		15 回		
授業の概要	「観光ゼミⅢ」は基本的に「観光ゼミⅡ」の学修を引き継ぎぐものであり、同じ教員の観光ゼミを前期に引き続いて後期も選択することが期待される。2年次の1年間をかけて、観光に対する認識を深化させ、「観光ゼミⅡ」で獲得を目指した力に加えて、観光現象に関する注意力、思考力などを養う。具体的には教員の助言のもとで、関心ある課題の発見、調査、解決、振り返りを行うという一連の学修活動を繰り返すことで、2年間の観光ビジネスの学びを集大成するような認識の獲得を目指す。										
到達目標	これまで学んだ観光分野の知識を最大限に活用しながら、身近な日本の文化や観光名所を英語で発信できるようになる。インバウンドに向けて、日本の文化や習慣を説明できるようになる。										
学修者への期待等	日本の文化を紹介することや、異文化理解に関心を持つ者、英語を用いて基本的な情報収集と発信を行うことに意欲のある者の履修を期待する。また、グループワークには各自が責任感を持ち、積極的な姿勢で臨むことが必須である。無断欠席の無いよう注意すること。										
回	授業計画					準備学修					
1	授業ガイダンス、ゼミ内の役割決定、グループ分け										
2	テーマ設定（グループディスカッション）					【事前】自分が英語で紹介したい内容をそれぞれ検討しておく（概ね50分）。					
3	紹介方法の決定（グループディスカッション）					【事前】テーマに沿って、実際に英語で発信されている素材を調査しておく（概ね50分）。					
4	作業スケジュールの作成(グループワーク)					【事前】調査から作業完了までの行程を検討しておく（概ね50分）。					
5	現地調査の準備(グループワーク)					【事前】現地調査の計画を立てる（概ね50分）。					
6	現地調査①:仙台市内近郊で調査を行う					【事前】現地調査スケジュールの詳細を確認する（概ね40分）。					
7											
8	現地調査のまとめ(グループワーク)					【事前】調査結果メモや入手した資料をまとめておく（概ね50分）。					
9	現地調査①の発表					【事前】役割分担を元に、担当箇所のまとめ作業をおこなっておく（概ね50分）。					
10	現地調査②:仙台市内近郊で調査を行う					【事前】現地調査スケジュールの詳細を確認する（概ね40分）。					
11											
12	発表のまとめとリハーサル					【事前】調査①の発表を踏まえ、修正箇所を洗い出しておく（概ね50分）。					
13	仙台市内滞在のインバウンドへ向けての発信					【事前】仙台市内にて、決定したテーマで発表するための事前準備を行う（概ね90分）。					
14											
15	まとめと振り返り										
教科書	使用しない。										
参考文献	授業内で適宜紹介する。										
備考	状況により現地調査、発表をオンラインなどで実施する場合がある。また、履修者の状況により、内容や進度の調整を行うことがある。授業への疑問等については、次回以降の授業にフィードバックを行う。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング TB-4-SEM-11				
	●	●	●	●	●					
科目名	観光ゼミⅢ				単位 認定者	佐藤 美輪		評価の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	「観光ゼミⅢ」は基本的に「観光ゼミⅡ」の学修を引き継ぎぐものであり、同じ教員の観光ゼミを前期に引き続いて後期も選択することが期待される。2年次の1年間をかけて、観光に対する認識を深化させ、「観光ゼミⅡ」で獲得を目指した力に加えて、観光現象に関する注意力、思考力などを養う。具体的には教員の助言のもとで、関心ある課題の発見、調査、解決、振り返りを行うという一連の学修活動を繰り返すことで、2年間の観光ビジネスの学びを集大成するような認識の獲得を目指す。									
到達目標	①「観光ゼミⅡ」に引き続き、東日本大震災の現状についてフィールドワークを通し理解を深め、今後の課題を自ら考えることができるようになる。 ②コミュニケーションスキルを身につけ、調べたり考えた事柄を自分の言葉で的確に伝えられるようになる。									
学修者への期待等	東日本大震災について、フィールドワークに留まらず、積極的に調べ、自分の意見を持つことを期待する。グループワーク等の実践演習を計画しているため、遅刻・欠席等が極力生じないように注意すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス：自己紹介、ゼミの進め方 東日本大震災：被災地の今、フィールドワーク準備					自己紹介で話す内容を考えてきてください（1時間程度）。				
2	東日本大震災：フィールドワーク準備 ＜インタビュー項目の検討＞					インタビュー項目を事前に考えてきてください（30分程度）。				
3	東日本大震災：被災地のフィールドワーク									
4										
5	東日本大震災：フィールドワークの振り返り・まとめ					フィールドワークから得た内容をまとめておいてください（1時間程度）。				
6	東日本大震災：報告書作成					報告会に向けて、報告資料を仕上げておいてください（1時間程度）。				
7	東日本大震災：フィールドワーク報告会					報告会で得た知識をまとめておいてください。（1時間程度）				
8										
9	被災地からの復興及び観光地：フィールドワーク準備 ＜調査場所の下調べ＞					フィールドワーク先について事前に調べてきてください（1時間程度）。				
10	被災地からの復興及び観光地：フィールドワーク準備 ＜インタビュー項目の検討＞					インタビュー項目を事前に考えてきてください（30分程度）。				
11	被災地からの復興及び観光地：フィールドワーク									
12										
13	被災地からの復興及び観光地：フィールドワークの振り返り・まとめ					フィールドワークから得た内容をまとめておいてください（1時間程度）。				
14	被災地からの復興及び観光地：報告書作成					報告会に向けて、報告資料を仕上げておいてください（1時間程度）。				
15	被災地からの復興及び観光地：フィールドワーク報告会									
教科書	使用しない。適宜、レジュメを配布する。									
参考文献	授業中に適宜紹介する。									
備考	授業への疑問等については、次回以降の授業にフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●	●	●	●	●	TB-4-SEM-11				
科目名	観光ゼミⅢ				単位 認定者	鎌田 貢治		評価の方法	試験 (レポート)	30 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	50 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	「観光ゼミⅢ」は基本的に「観光ゼミⅡ」の学修を引き継ぎぐものであり、同じ教員の観光ゼミを前期に引き続いて後期も選択することが期待される。2年次の1年間をかけて、観光に対する認識を深化させ、「観光ゼミⅡ」で獲得を目指した力に加えて、観光現象に関する注意力、思考力などを養う。具体的には教員の助言のもとで、関心ある課題の発見、調査、解決、振り返りを行うという一連の学修活動を繰り返すことで、2年間の観光ビジネスの学びを集大成するような認識の獲得を目指す。									
到達目標	観光ゼミⅡに継続して、宮城観光事情の深掘りで仙南地区の検証を行います。									
学修者への期待等	宮城全般の深掘り検証により、様々な角度から仙南地区を検証して、交流人口から関係 定住人口に向かう一つの選択肢を見出して欲しい。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス：ゼミの進め方、ゼミ長などの選出、ゼミ予定の検討。プレゼンテーションの説明。					宮城全般の一般的な内容について調べておいてください（概ね20分）。				
2	宮城全体の観光事情（観光含めた全般的）					宮城の観光事情の特性を調べておいてください				
3	宮城仙南地区の概要（観光地側面から）N01					宮城仙南地区の特性を調べておいてください				
4	宮城仙南地区の概要（歴史 地理的側面から）N02					宮城仙南地区の特性を調べておいてください				
5	宮城県観光連盟訪問					宮城県観光連盟の概要を調べておいてください				
6										
7	グループワークによる振り返り検証まとめ					訪問内容のまとめをしておいてください				
8	フィールド学習N01（村田町 地区）					訪問地区の下調べをしておいてください				
9										
10	グループによる振り返り検証まとめ					訪問内容のまとめをしておいてください				
11	フィールド学習N02（白石市 地区）					訪問地区の下調べをしておいてください				
12										
13	グループによる振り返り検証まとめ					訪問内容のまとめをしておいてください				
14	まとめ：宮城仙南地区の観光事情等N01					プレゼン内容の練習をしておいてください				
15	まとめ：宮城仙南地区の観光事情等N02					プレゼン内容の練習をしておいてください				
教科書	使用しない。									
参考文献	授業中に適宜示します。									
備考	授業への疑問等については、次回以降の授業にフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
40 数年旅行会社に在籍をした様々な体験、経験を講義の中で伝えていきたい。

観光ビジネス学科

- ナンバリング
- 学科教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価
- 実務経験を有する教員一覧

観光ビジネス学科のナンバリング

【例】TB-1-○○○-01

TB	-	1	-	○○○	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

①学科（専攻）識別番号

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：CO

観光ビジネス学科：TB

②科目レベル

教養科目：0（全学共通教養科目も学科独自教養科目も同じ）

専門基礎科目：1

専門基幹科目：2

専門展開科目：3

演習科目：4

③科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養教育分野		
人間と文化	HCU	Human & culture
人間と社会	HSO	Human & society
人間と科学	HSC	Human & science
専門教育分野		
基礎科目	FCO	Foundation Courses
基幹科目	CCO	Core Courses
展開科目	ECO	Extended Courses
演習分野		
演習科目	SEM	Seminar

④連続番号

半角数字 2桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語	CO-0-HCU-02
法律入門	CO-0-HSO-04
現代の社会	CO-0-HSO-03
情報処理	CO-0-HSC-01

< 2024 年度入学生ナンバリング >

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	CO-0-HCU-01
		英語 I	CO-0-HCU-02
		東北学	TB-0-HCU-03
		歴史と文化	TB-0-HCU-04
	人間と社会	法律入門	CO-0-HSO-04
		現代の社会	CO-0-HSO-03
		コミュニケーション論	TB-0-HSO-01
	人間と科学	情報処理	CO-0-HSC-01
		数理リテラシー	TB-0-HSC-01
専門教育分野	基礎科目	経営学入門	TB-1-FCO-01
		マーケティング	TB-1-FCO-02
		観光概論	TB-1-FCO-03
		観光ビジネス論	TB-1-FCO-04
		国内観光地理	TB-1-FCO-05
		国際観光論	TB-1-FCO-06
		観光史と観光文化	TB-1-FCO-07
		実践文章作成演習	TB-1-FCO-08
		フィールドワーク概論	TB-1-FCO-09
		金融リテラシー入門	TB-1-FCO-10
	基幹科目	英語 II	TB-2-CCO-05
		観光ビジネス英会話	TB-2-CCO-01
		ビジネスマナー	TB-2-CCO-03
		情報機器演習	TB-2-CCO-02
	展開科目	旅行ビジネス実務	TB-3-ECO-01
		エアラインビジネス実務	TB-3-ECO-02
		エアラインサービス	TB-3-ECO-03
		鉄道ビジネス実務	TB-3-ECO-04
		宿泊ビジネス実務	TB-3-ECO-05
		ホテル・ブライダルサービス	TB-3-ECO-06
		ホテル経営	TB-3-ECO-07
		ブライダルビジネス実務	TB-3-ECO-08
		ウェディングブライダル演習	TB-3-ECO-35
		秘書実務	TB-3-ECO-09
		旅と文学	TB-3-ECO-12
		テーマパークビジネス	TB-3-ECO-13
		旅行業法	TB-3-ECO-14
		旅行業約款	TB-3-ECO-15
		国内運賃・旅費計算	TB-3-ECO-16
		国内観光資源	TB-3-ECO-19
		旅行業務演習	TB-3-ECO-20

専門教育分野	展開科目	海外観光地理	TB-3-ECO-22
		旅程管理	TB-3-ECO-23
		東南アジアの言語と文化	TB-3-ECO-36
		韓国語会話Ⅰ	TB-3-ECO-24
		韓国語会話Ⅱ	TB-3-ECO-37
		中国語会話Ⅰ	TB-3-ECO-25
		中国語会話Ⅱ	TB-3-ECO-38
		フランス語会話	TB-3-ECO-26
		英会話基礎	TB-3-ECO-32
		英会話応用	TB-3-ECO-39
		観光英語	TB-3-ECO-40
		TOEIC 演習	TB-3-ECO-31
		おもてなし英語	TB-3-ECO-28
		観光英語ガイド基礎	TB-3-ECO-30
		観光インターンシップ	TB-3-ECO-33
		海外研修	TB-3-ECO-34
演習分野	演習科目	基礎キャリア形成ゼミ	TB-4-SEM-01
		実践キャリア形成ゼミ	TB-4-SEM-02
		初年次ゼミ	TB-4-SEM-04
		観光研修Ⅰ	TB-4-SEM-07
		観光研修Ⅱ	TB-4-SEM-08
		観光ゼミⅠ	TB-4-SEM-09
		観光ゼミⅡ	TB-4-SEM-10
		観光ゼミⅢ	TB-4-SEM-11

観光ビジネス学科 学科教員一覧

	職位	氏名	E-mail
1	教授 (学科長)	たかの こうき 高野 宏輝	k_katano@seiyogakuin.ac.jp
2	教授 (副学科長)	こさと ちず 小里 千寿	c_kosato@seiyogakuin.ac.jp
3	准教授	よしの ちの 吉野 千乃	c_yoshino@seiyogakuin.ac.jp
4	講師	さとみ みわ 佐藤 美輪	m_satou@seiyogakuin.ac.jp
5	講師	かまた こうじ 鎌田 貢治	k_kamata@seiyogakuin.ac.jp

2025年度 観光ビジネス学科 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室内にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。

観光ビジネス学科 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
東北学	2	黒田 清志	H6年からH23年まで仙台市経済局、および仙台市観光コンベンション協会、また、中小企業診断士として、地域の中小企業、商店街、農業、観光の支援事業を担当。その後、山形県など各地の研修会等のセミナー講師、アドバイザーを務める。広範囲の業種の事業者の経営支援や東北の地域活性化事業に関わってきた経験から、特に経済や文化的側面について、分かりやすく具体的な授業を行う。
法律入門	2	鈴木 一樹	公認会計士として上場企業等の法定監査、税理士として税務業務に従事。
マーケティング	2	高野 宏輝	旅行会社で在籍時に営業、オペレーション、販促、マネジメント業務に従事。商品企画から販売に至るまで、ビジネス現場で経験したマーケティング活動の事例を紹介し、習熟すべき知識とつながるよう、分かりやすく解説する。
観光概論	2	鎌田 貢治	40数年間の旅行会社勤務で得た様々な体験を講義内で適時紹介をしていく。
観光ビジネス論	2	鎌田 貢治	40数年旅行会社に在籍していた経験を活かし、様々な体験を随時伝えていきたい。
国際観光論	2	鎌田 貢治	40数年旅行会社に在籍をし、様々な体験 経験等の事例を講義の中で伝えていきたい。
実践文章作成演習	1	小里 千寿	複数の大学にて就職指導、エントリーシート（履歴書）指導経験がある。
旅行ビジネス実務	2	齋藤 幸一	大手旅行会社にて海外専門セクションで11年業務に従事。
エアラインビジネス実務	2	加藤 雅子	実務経験の概要：元大手国内航空会社国際線CA及びCA教官。機内サービスCS推進部担当経験者。民間企業人材育成担当。実務経験と授業科目の関連性：実務経験からのより具体的且つポイントを押さえた内容で演習を行い、航空業界に関する知識と接遇マナー力を習得できるように導く。
鉄道ビジネス実務	2	紺野 純一	国鉄・JR職員（仙台駅長等）の経歴を経て、現東北観光推進機構理事長。観光業界における実務経験から、鉄道交通ビジネスについて分かりやすく解説し、実践的な授業を展開することができる。
宿泊ビジネス実務	2	紺野 純一	元国鉄・JR職員、仙台ターミナルビル（株）専務取締役総支配人等の経歴を経て、現東北観光推進機構理事長。ホテル・観光業界における実務経験から、ホテル経営についての歴史や業務について解説し、各部門での具体的事例を交えた実践的な授業を展開することができる。
ホテル・ブライダルサービス	2	小野寺 理恵	ブライダルコーディネーターとして実務経験を有する。
ホテル経営	2	鎌田 貢治	40数年間旅行会社に在籍をした経験を活かし、随時体験等を伝えていきたい。
ブライダルビジネス実務	2	小野寺 理恵	ホテルや神社、ゲストハウスでのブライダル経験（美容、司会、アテンド、プランナー等）を活かし、具体的事例を交え説明する。
テーマパークビジネス	2	鎌田 貢治	旅行会社に40年以上勤務し、営業職として様々な経験を有しており、テーマパークビジネスに関しても造詣が深い。
旅程管理	2	堤 博史	総合旅行業務取扱管理者、観光庁登録の旅程管理講習資格を有する。海外勤務を含め旅行業界に40年近く従事した経験から、旅行全般についてポイントや課題等を分かりやすく説明することができる。
東南アジアの言語と文官	2	鎌田 貢治	40数年旅行会社に在籍し、様々な経験 体験等を伝えていきたい。
東南アジアの言語と文官	2	鎌田 貢治	40数年旅行会社に在籍し、様々な経験 体験等を伝えていきたい。
観光ゼミⅠ	1	高野 宏輝	旅行会社で顧客に対するイベント企画提案、運営実践の経験がある。イベント業務管理士として、知識と実践に基づく学生指導を行う。
観光ゼミⅠ	1	小里 千寿	披露宴の司会者として1,000本以上の経験を持つ。
観光ゼミⅠ	1	鎌田 貢治	40数年旅行会社に在籍をした経験と体験を講義の中で伝えていきたい。
観光ゼミⅡ	1	高野 宏輝	旅行会社で顧客に対するイベント企画提案、運営実践の経験がある。イベント業務管理士として、知識と実践に基づく学生指導を行う。
観光ゼミⅡ	1	鎌田 貢治	40数年旅行会社に在籍をし、様々な経験体験を講義の中で伝えていきたい。
観光ゼミⅢ	1	高野 宏輝	旅行会社で顧客に対するイベント企画提案、運営実践の経験がある。イベント業務管理士として、知識と実践に基づく学生指導を行う。
観光ゼミⅢ	1	鎌田 貢治	40数年旅行会社に在籍をした様々な体験、経験を講義の中で伝えていきたい。
	42	実務経験を有する職員が担当する科目の単位	
	62	設置基準上の標準単位数	